

2018年度

現職教員研修支援プログラム開発 に関する調査研究報告書

兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム
開発プロジェクト研修プログラムチーム

2018年度兵庫教育大学現職教員 研修支援プログラム開発に関する調査研究報告書

目 次

【 2018年度 実施研修 】

1	兵庫教育大学と兵庫県教育委員会との連携研修……………1
①	学校管理職・教育行政職特別研修(ニューリーダー特別研修) …… 1
②	大学と連携した英語指導力向上事業 ……12
2	兵庫教育大学と兵庫県立教育研修所との連携研修……………14
3	兵庫教育大学と神戸市教育委員会(神戸市総合教育センター)との連携研修 ……16
4	兵庫教育大学と姫路市立総合教育センターとの連携研修 ……18
5	兵庫教育大学と尼崎市立教育総合センターとの連携研修 ……21
6	兵庫教育大学と西宮市教育委員会との連携研修 ……22
7	兵庫教育大学研修講座〈10年経験者研修等の選択研修〉 ……23

【 参考資料 】

1	2018年度 教育委員会等との連携によるその他の教員研修の実施 ……99
①	県立高等学校10年経験者研修(生徒指導)〔兵庫県教育委員会との連携〕 ……99
②	兵庫教育大学スクール・パートナーシップ事業 ……100
2	兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト実施要項 ……101
3	兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト 研修プログラムチーム構成員名簿 ……102

学校管理職・教育行政職特別研修（ニューリーダー特別研修）

I 研修の目的・内容・方法

1. 学校管理職・教育行政職特別研修の創設の経緯

兵庫県教育委員会（以下、兵庫県教委と略記する）と兵庫教育大学（以下、兵教大と略記する）は平成16年度、共同して「学校管理職・教育行政職特別研修（ニューリーダー特別研修）」（以下、「特別研修」と表記）を立ちあげた。

兵庫県教委は『美しい兵庫の教育を担う教職員のパワーアッププラン』（平成14年5月）を策定して、教職員の資質力量の向上に取り組んでいた。とりわけ、教育行財政の地方分権化と自律的学校経営という新しい状況に対応できる力量を学校管理職と教育行政職に育成することと、そのための研修プログラムを開発・実施することは急務と考えられていた。

一方、「教員のための大学」であることをミッションとする兵教大は、学部における養成教育と大学院における現職教員の再教育を中心に、教員の資質能力の向上を目指すさまざまな活動を行ってきた。このミッションをより一層果たすためには、現職教員の研修を組織的に支援する活動も行うべきと考えて、平成15年度に、兵庫県教委、神戸市教育委員会、姫路市教育委員会、兵庫県教職員組合、私立学校団体等の参画を得て「兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発に関する調査研究会」を発足させた。

このような兵庫県教委の課題・ニーズと兵教大の現職教員研修への積極姿勢が一致して、上記調査研究会の主要成果の一つとして生まれたのが特別研修である。

平成15年度後半以降、兵庫県教委の主として総務課と教職員課の指導主事・管理主事と、兵教大の教育経営講座（当時）の教員（加治佐哲也教授、竺沙知章助教授、武井敦史助教授）が何度も会合して、特別研修のカリキュラムや運営方法についての検討を重ね、第1回特別研修のプログラムが共同開発された。そこでは、兵庫県教委や学校が蓄積してきた実践的事例と兵教大がもつ理論・専門知識を融合することにより、理論と実践の両面を兼備したカリキュラムを編成することがとくに意図された。

本年度（平成30年度）の特別研修は15回目である（注）。平成19年度までの10日間が、平成20年度からは5日間に短縮されているが、過去14回の経験を生かした改善を加えた。また、兵庫県教委と兵教大との連携で企画・実施する学校管理職・教育行政職特別研修（ニューリーダー特別研修）は、これまで各種媒体でも紹介され、管理職研修のカリキュラムのモデルとしても全国の注目を浴びている。

2. 特別研修の目的（育成が目指される力量）

兵庫県教委の『兵庫の教育改革プログラム～県民すべてがかかわる兵庫の教育をめざして～』（平成15年7月）に述べられているように、教育行政・財政の地方分権化と自主的・自律的な学校経営を進める改革のなかで、教育行政・学校経営のあり方が大きく見直されようとしている。それに対応していくために、教育行政・学校経営の担当者には新たな力量が求められるようになっている。そこで、そうした新しい教育行政・学校経営のあり方についての理解を深めるとともに、その基礎的な知識を身につけ、新しい状況に対応することができる実践力を養っていくことが重要な課題になる。

特別研修は、これからの兵庫の学校経営と教育行政を担う人々に対して、教育行政・学校経営の基礎を学ばせるとともに、教育行財政の地方分権化と自律的学校経営の下で教育行政・学校経営の改善を実践することのできる力量（知識とスキル）を育成することを目的とする。

要するに、新しい学校経営と教育行政に対応できる力量を養う。受講者である皆さんはこれまでは教育のプロであったが、これに加えて、学校経営と教育行政のプロになるための力量を養う。具体的には、次のような力量の獲得が目指される。

本研修は2種類の学校指導者を養成の対象としている。すなわち、校長、教頭という単位学校のリーダーである学校経営専門職と、指導主事、管理主事といった教育行政の専門職である。それぞれの専門職に次のような力量を育成することが目指される。

（1）学校経営専門職（校長、教頭など単位学校のリーダー）

学校経営専門職には、自主的・自律的な学校経営の下で、特色ある学校づくり、魅力ある学校づくりを推進できる力量が必要である。それは具体的には次の4つの力量である。

①学校の教育・学習活動の改善能力（「教育的リーダーシップ」）

「教育的リーダーシップ」（instructional leadership）とは、学校を児童生徒と教職員の学びが何よりも尊重される文化をもつ「学習社会」とすることのできるリーダーの能力である。学校を学習社会にするためには、まずもってリーダーそのものが常に学習している姿勢を示すことが必要である。たとえば、校長免許制度が確立されているアメリカでも、教育的リーダーシップは学校指導者に習得させるべき最優先の能力とされている。

学校の活動の中核はいうまでもなく、教育・学習活動である。学校のリーダーには、教育・学習活動の創造・開発、実施、そして評価を組織的に主導する役割と能力が求められる。学校は教育組織であり、教育組織のリーダーには教育に精通し、教育活動の改善を組織的に主導する能力が欠かせない。なかでも教育課程経営と生徒指導経営を推進する力量が重要である。

学校の組織的能力を高めるためには、教職員の職能開発と成長を図ることが必要である。教職員の職能開発・成長を促す力量も教育的リーダーシップであり、リーダーにはそのために、たとえば校内研修を経営する力量や教職員評価・育成制度によって教職員の意欲と職能の向上を図る力量が求められる。

②学校のビジョン・目標の創造と共有化の能力

自主性・自律性を有する組織には、その組織に固有のビジョンが不可欠である。ビジョンを創造するのはリーダーである。こうした組織のリーダーにとって、ビジョン創造はもっとも重要な役割であり、もっとも基本的な能力ということができる。自律的学校経営を担う校長は、自らが中心となって、教育組織としての学校のビジョンを創造する能力を備えていなければならない。

ビジョンにはミッション（その学校の使命や存在意義）が伴っていないといけない。また、ビジョンは抽象的なレベルにとどまるものでは意味がなく、中期、短期や年間の目標として、また焦点化された重点事項として表現され、さらに学校の各部署の目標や取り組み・活動として具現化されうるものでなければならない。こうしたビジョンの創造能力は総合的な能力であり、その能力を獲得するためには、教育行政・学校経営の特性、教育に関する国とその地方の政策や改革の動向、その学校の地域の特性、そしてその学校の特性、実態などについて理解していることはもちろんのこと、幅広い教養や教育哲学も欠かせない。

ビジョンと目標は創造されるのみでは無意味であり、教職員に理解されて浸透していかなければならない。保護者や地域の人々にも理解されることが望ましい。ビジョン・目標が教職員に共有されることによって、ビジョンと目標の達成に向けての協働がリーダーと教職員間に生まれる。ビジョン・目標への保護者・地域の理解は、学校への支持と支援につながる。リーダーには、そのためのコミュニケーション能力が必要である。

③合理的組織運営能力

あらゆる組織体は日常的に、それぞれの目的達成に向けて、安全に生産的に運営されなければならない。学校もひとつの組織体であり、そのリーダーである校長は、学校組織の特性を理解して、児童生徒や教職員の安全を確保し、学校組織を効率的に機能させる力量、いわゆる学校のマネジメント能力を身につけている必要がある。学校マネジメント能力を支える基本的能力が教育法規の知識と応用能力である。

教職員や施設設備などの管理能力も必要であるが、自律的学校経営においては、特色ある学校づくりに向けた予算編成・執行（学校財務）能力、結果責任を明らかにするための学校評価能力、そして生徒指導、学校事故、情報などにかかわる危機管理能力がとりわけ重要である。

④保護者・地域社会との連携構築能力

自主的・自律的な学校は開かれた学校でもある。学校は保護者と地域住民の理解と協力・支援を得た教育活動を展開しなければならない。経営責任を明らかにするために、保護者と地域住民に対する説明責任も学校には要求されている。自律的学校経営を推進する校長には、外部の学校関係者（stakeholders）である父母、地域住民との協力関係を築く力量が不可欠である。

保護者・地域社会と学校との連携関係の構築に関して、校長にはとくに、学校と地域の教育・学習活動において協働をつくる能力、および学校評議員制度を効果的に運用する力量が求められている。

（２）教育行政専門職（指導主事、管理主事など教育委員会の専門職員）

指導主事などの教育行政専門職には、教育行財政の地方分権化の下で、それぞれの地方・地域の特性と実情を踏まえた特色ある施策の企画・立案を行うとともに、自主的・自律的な学校経営を支援する力量が必要である。それは具体的には、次の３つの力量である。

①特色ある施策の企画・立案能力

教育行政と教育財政の地方分権化が、学校経営の自律化とともに、急速に進んでいる。地方分権化した教育行財政の下では、教育委員会は、国に依存することなく、各地方・地域の特性に応じた独自の教育施策を策定する必要がでてくる。これを担当するのが教育行政の専門職である教育長、指導主事である。教育行政専門職には、特色ある効果的な教育施策を企画・立案する力量が求められている。

こうした施策を企画・立案できるためには、少なくとも、教育行政・学校経営についての基本知識、国と各地方の行財政一般や教育に関する政策や改革の動向についての理解、各地方・地域の特性と実情の理解、そして管轄する学校など教育機関の特性についての理解が必要である。

②自律的学校経営支援能力

自律的な学校経営の下では、教育委員会の役割も自ずと変容する。すなわち、これまでの画一的基準にもとづいて指示・命令することから、各学校の自主的で特色ある活動を個別事情に応じて専門的に支援することになる。指導主事など教育行政専門職には、学校の主体性と自律性を尊重して、その取り組みを支援する専門的能力が必要になる。

自律的学校の成功を図るためには教育課程経営と生徒指導経営、および校内研修経営に関する支援が重要であり、指導主事などにはとりわけ、これらについての支援能力が求められる。自律的学校経営の下にあっても、学校の危機管理は教育行政機関たる教育委員会の責務であることに変わりはない。いうまでもなく、各学校の危機管理能力は限られている。自律的学校における危機管理を支援する能力も教育行政専門職員には必要である。

③教職員研修企画能力

自律的学校においては、これまで以上に教職員の資質・力量がその成功にとって重要な要因となる。各学校でも、校長が中心となって校内研修を組織し、教職員の職能開発が図られるが、教育委員会の主催する研修の重要性も従前以上に高まる。指導主事などには、学校教育の変化とニーズに対応し、教職員の職能成長を促す教職員研修を企画する力量もより一層求められる。

3. 受講者

特別研修の受講者は、①兵庫県内（神戸市を除く）の公立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校のすべての新任教頭（県立学校は名簿登載者を含む）と、②兵庫県教委所属の新任指導主事である。

これら対象者は、第1期の県立学校の新任教頭、県立学校の教頭名簿登載者、県立学校出身の新任指導主事、市町立学校出身の新任指導主事、市町立中学校の新任教頭と、第2期の市町立小学校、特別支援学校の新任教頭の2組に分けられた。平成30年度は、第1期が127名（県立学校教頭名簿登載者26名、兵庫県教委新任指導主事等32名、市町立中学校新任教頭69名）、第2期が122名（市町立小学校新任教頭117名、市町立特別支援学校新任教頭5名）の総計249名であった。

なお、対象者を校長や主任クラスではなく、新任教頭、名簿登載者、新任指導主事としたのは、これから一定期間、学校経営ないし教育行政を担うことが決まっている者に対し、管理職・教育行政職への任用後の早い時期に、あるいは任用前に、新しい教育行政・学校経営に対応する力量を育成する方が効果的・効率的と考えられたことによる。

4. カリキュラム

（1）内容構成

カリキュラムは5日間に及ぶものであり、「日程概要」に示されるような構成となっている。第1期と第2期の構成は共通する。日毎に研修テーマが設定されており、各日、講義と演習の5コマが行われる。

1日目：教育行政・学校経営改革と学校組織マネジメント

開講式とオリエンテーションに続いて、まず、今日の教育行政と学校経営の改革と施策の動向について知ってもらう。学校づくりと学校支援には、改革と施策の方向を押さえておくことが不可欠である。

今日の改革の中で学校づくりと学校経営を推進するためには、学校組織マネジメントの発想とスキルが必要とされている。学校を一つの組織体として捉え、それをマネジメントするという学校組織マネジメントの講義が行われる。

2日目：教育行政・学校経営改革と学校経営ビジョン

二日目は学校環境の分析の演習から始まる。そして、学校経営ビジョンの構築の演習と続く。

教職員の多忙を克服し、子どもたちと向き合う時間を確保する必要性から、「業務改善」についての時間を設け、講義・事例紹介と演習を行う。

3日目：教育法規と学校危機管理

教育法規は学校経営と教育行政を行う際の基礎であり、管理職にはその知識と応用能力が欠かせない。生徒指導と労務管理に焦点をあてる。

危機管理も今日の学校経営にとって最重要事項であり、危機管理能力はこれからの学校経営者、教育行政者には不可欠である。危機管理の原理や理論についての講義に続いて、事例研究を行い、学校事故への対応法や情報セキュリティについても学ぶ。

また、現在の教育課題への対応として、いじめ問題とその対応マニュアルの活用について講義と演習を行う。

4日目：労務管理と地域との連携協働

まず管理職としての必須の労務管理について、実践的な演習を行う。次にカリキュラム・マネジメントや地域との連携協働の必要性についての講義と演習が行われる。また、今日の学校経営は、開かれた学校づくりでもある。開かれた学校には二つある。すなわち、学校経営面で開かれることと、教育活動で連携協力することである。講義と演習で構成される。

5日目：教職員の職能開発と教職員評価

組織マネジメントを実践するためには、教職員の職能開発（スタッフ・ディベロップメント）が必要である。それを主導する力量は管理職の「教育的リーダーシップ」の中心である。指導主事にとっても、これは欠かせない力量といえる。学校内で育成するOJTに加えて、平成19年度から試行実施された教職員評価・育成制度についての講義と演習が行われる。また、教職員のメンタルヘルスに関する管理職の取組についても扱う。

最後に、本研修全体の振り返りを行い、受講者各人にとっての成果と課題、そして今後の自分のリーダーとしての力量向上の方法について考える。宿題も出される。リーダーとしての学習は特別研修で終了ではない。むしろ始まりである。本研修を契機にして、今後の自己学習に励んでもらうために、「全体総括」の時間が設けられた。また、特別研修についての総体的な評価も行っていた。閉講式で本研修全体を締める。

(2) 観点

以上のようなカリキュラムは、次のような観点をもとに作成された。

① 上述の学校経営専門職と教育行政専門職に必要とされる力量を育成する内容が取り入れられた。各日のテーマ・内容は複数の力量と関連しているが、主たる関連は次のようになっている。

1 日目：教育行政・学校経営改革と学校組織マネジメント

2 日目：教育行政・学校経営改革と学校経営ビジョン

(1)② (2)①②

3 日目：教育法規と学校危機管理

(1)③ (2)②

4 日目：労務管理と地域との連携協働

(1)①④ (2)②

5 日目：教職員育成と教職員評価

(1)①②③ (2)①②③

②学校を自己の使命や目標を達成する自律した組織体として捉え、それをマネジメントするという「学校組織マネジメント」の発想と手法を学ぶことを基本に内容は編成された。とくに、1 日目、2 日目、5 日目は学校組織マネジメントを直接に扱う。

③原則として教頭と指導主事は同内容である。それは、職務内容が重なる部分が多く、指導主事もその後のキャリアとして学校管理職を経験する機会が多いと考えられることに加えて、指導主事に対しては、別に研修が企画・実施されているからである。

④講義のみでなく、事例研究や受講者参加型の演習を多く取り入れた。

5. コーホート

演習が多くを占める。25～30人前後のクラスが、第1期、第2期ともそれぞれ5クラスつくられ、そして各クラスは5～7人の班に細分される。演習は、全期間、クラスを単位に行われ、各クラスの構成メンバーは固定される。また、班メンバーも固定される。つまり、演習はすべて、次のような意図から、メンバーを固定した「コーホート（学習を協力して行う同僚集団）」を単位に実施される。

①演習では、事例も扱われるが、現任校を想定して行われることがより多い。各人の考え方や経歴、勤務校の状況が互いによく認識されているほど、ディスカッションは深まる。また、互いの進歩や成長を確認しながらのディスカッションには、相互に啓発されるものがある。そうした深まりのある刺激的なディスカッションを通じて、それまでの経験、当面している課題やその解決方法を共有化できる。偶発的な集団ではこれは期待できないし、できても限られる。

②研修終了後のネットワーク形成につながる。5日間も学びの場を同じくするのであるから、そのことを、「同じ釜の飯を食った者」同士の連帯感や同僚意識が形成される機会として、メンバーを固定することにより意図的、積極的に活用する。ネットワークを通じて、リーダーとして必要な情報の交換を行ったり、直面する課題解決への支援を相互に得ることができるであろう。ネットワークはリーダー間の一種のサポートシステムといえることができる。

6. 振り返りシートと職能成長プラン

(1) 毎日の振り返りシート

受講生は、毎日の研修の終了時に、「振り返りシート」に記入する。そのねらいは次の2点である。

- ・テーマの異なる毎日の研修を振り返ることにより、その日の研修の成果と課題を自分に意識化して、研修の効果を高めること。
- ・研修のカリキュラムと方法についての評価データとすること。

受講生を評価する資料ではない。集めてコピーし、次の日に返却される。

(2) 管理職（教育行政職）としての振り返り

受講生は5日間の研修を振り返り、とくに印象に残った点や関心を持って取り組んだ点（研修内容の振り返り）と、なるほどと思った点や自分の考え方が変化した点（自己認識の変容の振り返り）をそれぞれ3点程度記述する。

(3) 管理職（教育行政職）としての職能成長プラン（シート）

「管理職（教育行政職）としての振り返り」をもとにして、学校管理職あるいは教育行政職としての自分の「強み」（すでにもっている資質・力量）と「弱み」（これから身につける必要のある資質・力量）を自己分析し、それぞれ3点程度を記述する。そして、「得意分野」や「強み」をさらに伸ばす方策と、「不得意分野」や「課題」を克服する方策を策定する。

(4) 管理職（教育行政職）としての職能成長プラン（レポート）

これからの学校管理職や教育行政職としての自分の職能開発の構想や計画を、「管理職（教育行政職）としての職能成長プラン」をもとにして、文章化する。レポートの課題名は「これからの学校管理職・教育行政職と自己の職能開発について」である。

(2) (3) (4) の作成方法は最終日の「全体総括」の時間に説明され、宿題として後日提出が求められる。

7. 指導スタッフ

講義と演習には、兵教大の教育行政・学校経営、教育課程関係の教員、兵庫県教委の総務課、教職員課、高校教育課、義務教育課、教育研修所等の指導主事・管理主事をはじめとして、県外の学校関係者を講師・助言者として招いている。

連携している兵教大と兵庫県教委がそれぞれの有する人的資源とネットワークをフルに活用してこうした人材を集めた。研究機関と実践機関の連携であればこそ、可能となったことであろう。

8. 資料

資料や演習等での作業成果をまとめてもらうために、ファイルを用意した。追加資料がある。宿題も出される。その都度、それらを綴じること。

9. 運営体制

運営は、兵庫県教委の指導主事・管理主事が兵教大教員とともに兵教大に常駐し、兵教大の社会連携担当の事務職員も施設設備と教材の整備・準備に携わる。

10. 報告書の内容と活用方法

報告書には、目次にも示されているように、特別研修にかかわる①から⑤の資料が収められている。

①受講生作成の研修の記録

②「管理職（教育行政職）としての振り返り」（小学校11点、中学校7点、高校5点、特別支援学校1点、指導主事3点）

③「管理職（教育行政職）としての職能成長プラン」（小学校11点、中学校9点、高校7点、特別支援学校1点、指導主事4点）

④宿題として出された「レポート」（小学校10点、中学校7点、高校8点、特別支援学校1点、指導主事4点）

⑤改善意見の集計

②、③、④は、具体的であること、わかりやすいこと、論理的であること、内容が豊かであること、を基準に掲載分を選定した。

①は講義で学んだ内容と、演習で取り組んだ内容と成果物を確認し、整理する資料として活用していただきたい。

②、③、④は、自分の学校指導者や教育行政専門職としての成長に向けて自己学習の方法を考えたり、見直してゆくための有用な教材となるであろう。他受講生の職能成長プランのアイデアを、自分の状況に合わせて大いに取り入れていただきたい。

⑤は特別研修を改善してゆくための評価資料であるが、受講生が特別研修についてどのように考えていたか、またどのように変えて欲しいと思っていたかを、受講生にも知っていただくために掲載した。受講者の意見をもとに、来年度の特別研修は一層の改善が図られる。

要するに、本報告書は、受講者と主催者の県教委・兵教大の「共有財産」である。

注：10日間の内容・方法は次の刊行本にまとめられているので、ぜひ参照されたい。加治佐哲也編著『学校のニューリーダーを育てる－管理職研修の新しいスタイル－』学事出版、2008年10月発行。

平成30年度 学校管理職・教育行政職特別研修日程概要

1期・2期	研修テーマ
1日目	教育行政・学校経営改革と学校組織マネジメント
2日目	教育行政・学校経営改革と学校経営ビジョン
3日目	教育法規と学校危機管理
4日目	労務管理と地域との連携協働
5日目	学校評価と教職員評価

1期（127名：男105名，女22名）：県立学校教頭採用候補者名簿新規登載者（26名）

県教育委員会新任指導主事等（32名），市町立中学校新任教頭（69名）

2期（122名：男 89名，女33名）：市町立小学校新任教頭（117名），市町立特別支援学校新任教頭（5名）

日程	1期	2期	講義内容				
1日目	5/16 (水)	5/30 (水)	時間	9:20～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:50
			内容	開講式 オリエンテーション	(講義) 教育改革と学校 指導者に求められる力量	(演習) 教育改革と学校 経営課題の明確化	(講義) 学校組織マネジメントとは何か①②
2日目	5/17 (木)	5/31 (木)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:50
			内容	(演習) 学校環境の分析	(演習) 学校経営ビジョン の構築①	(演習) 学校経営ビジョン の構築②	(講義・事例紹介) 教職員の勤務時間 適正化 (演習) 教職員の勤務時間 適正化
3日目	5/18 (金)	6/1 (金)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:50
			内容	(講義) 学校危機管理の 考え方と進め方	(演習) 学校経営と危機 管理の実際 (事例研究)①	(演習) 学校経営と危機 管理の実際 (事例研究)②	(講義) 非違行為の防止・ いじめ問題と対応 マニュアルの活用 について (演習) いじめ問題と対応 マニュアルの活用 について
4日目	6/11 (月)	6/18 (月)	時間	9:30～10:30	10:50～12:10	13:10～16:50	
			内容	(演習) 労務管理関係 法規実践演習①	(演習) 労務管理関係 法規実践演習②	(講義・演習) カリキュラム開発と地域との連携協働の実際	
5日目	6/12 (火)	6/19 (火)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:00
			内容	(講義) 教職員の職能開 発の実際	(講義) 教職員のメンタル ヘルス	(講義) 教職員の評価・育 成システムの理解	(演習) 教職員の評価・育 成演習
							全体総括 閉講式

平成30年度 学校管理職・教育行政職特別研修 講師・助言者（第1期）

（第1期：県立新任教頭等，新任指導主事等，市町立中学校新任教頭）

		講義内容等					
1 日目	5/16 (水)	時間	9:20～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:50	
		内容	開講式 オリエンテーション	(講義) 教育改革と学校指導者 に求められる力量	(演習) 教育改革と学校経営課 題の明確化	(講義) 学校組織マネジメントとは何か①②	
		講師・助言者	兵庫県立教育研修所長 清瀬 欣之 兵庫教育大学長 福田 光完 兵庫教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 教授 日渡 円	教職員課 主任管理主事兼主幹 大迎 規宏 教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮 県立教育研修所 主任指導主事 里 知純 県立教育研修所 主任指導主事 横山 恵子 県立教育研修所 主任指導主事 瀬尾 智宏	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	
2 日目	5/17 (木)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:50	
		内容	(演習) 学校環境の分析	(演習) 学校経営ビジョンの構 築①	(演習) 学校経営ビジョンの構 築②	(講義・事例紹介) 教職員の勤務時間適正 化	(演習) 教職員の勤務時間適正 化
		講師・助言者	高校教育課 指導主事 秦 良和 高校教育課 指導主事 藤原 博司 県立教育研修所 指導主事 奥田 健二 県立教育研修所 指導主事 藤木 作幸 県立教育研修所 主任指導主事 古林 達也	高校教育課 指導主事 秦 良和 高校教育課 指導主事 藤原 博司 県立教育研修所 指導主事 奥田 健二 県立教育研修所 指導主事 藤木 作幸 県立教育研修所 主任指導主事 古林 達也	高校教育課 指導主事 秦 良和 高校教育課 指導主事 藤原 博司 県立教育研修所 指導主事 奥田 健二 県立教育研修所 指導主事 藤木 作幸 県立教育研修所 主任指導主事 古林 達也	教職員課 主任管理主事兼班長 小川 秀雄 県立川西明峰高等学校 教頭 谷口 聡 教職員課 主任指導主事 兼管理主事 天満 淳 教職員課 主任指導主事 兼管理主事 陰山 理沙 播磨東教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 足立 幸謙 但馬教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 神戸 剛	
3 日目	5/18 (金)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:50	
		内容	(講義) 学校危機管理の考え方 と進め方	(演習) 学校経営と危機管理の 実際(事例研究)①	(演習) 学校経営と危機管理の 実際(事例研究)②	(講義) 非違行為の防止・いじめ問 題と対応マニュアルの活用 について	(演習) いじめ問題と対応マニユ アルの活用について
		講師・助言者	兵庫教育大学 准教授 富山 清実	教育企画課 主任指導主事 藤田 美保 義務教育課 主任指導主事 秋田 大輔 特別支援教育課 主任指導主事 中野 純也 人権教育課 主任指導主事 小池 宏尚 体育保健課 主任指導主事 森鼻 崇文 教職員課 主任指導主事 兼管理主事 陰山 理沙	教育企画課 主任指導主事 藤田 美保 義務教育課 主任指導主事 秋田 大輔 特別支援教育課 主任指導主事 中野 純也 人権教育課 主任指導主事 小池 宏尚 体育保健課 主任指導主事 森鼻 崇文 高校教育課 主任指導主事 井守 貢	教職員課 考査班長 岡田 悟 義務教育課 主任指導主事 兼主幹 大久保 拓哉 義務教育課 主任指導主事 濱田 忍 義務教育課 主任指導主事 秋田 大輔 県立教育研修所 主任指導主事 寺戸 武志 県立教育研修所 指導主事 福田 裕子	
4 日目	6/11 (月)	時間	9:30～10:30	10:50～12:10	13:10～16:50		
		内容	(演習) 労務管理関係法規実践 演習①	(演習) 労務管理関係法規実践 演習②	(講義・演習) カリキュラム開発と地域との連携協働の実践		
		講師・助言者	教職員課 主任指導主事 兼管理主事 天満 淳 教職員課 指導主事 兼管理主事 尾田 貴之 阪神教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 出蔵 裕昭 阪神教育事務所 指導主事 兼管理主事 宮下 巨樹 丹波教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 井上 政行	教職員課 主任指導主事 兼管理主事 天満 淳 教職員課 指導主事 兼管理主事 尾田 貴之 阪神教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 出蔵 裕昭 阪神教育事務所 指導主事 兼管理主事 宮下 巨樹 丹波教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 井上 政行	兵庫教育大学 教授 小西 哲也 兵庫教育大学 准教授 安藤 福光 兵庫教育大学 准教授 上田 真弓		
5 日目	6/12 (火)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:00	16:20～16:50
		内容	(講義) 教職員の職能開発の実 践	(講義) 教職員のメンタルヘル ス	(講義) 教職員の評価・育成シ ステムの理解	(演習) 教職員の評価・育成演 習	全体総括 開講式
		講師・助言者	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 教授 藤原 忠雄	兵庫教育大学 教授 浅野 良一 教職員課 管理・免許班長 松本 佳崇	教職員課 管理・免許班長 松本 佳崇 教職員課 主任管理主事兼主幹 大迎 規宏 教職員課 主任指導主事 兼管理主事 天満 淳 教職員課 主任指導主事 兼管理主事 陰山 理沙 教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮	兵庫教育大学 教授 浅野 良一 教職員課 主任管理主事兼主幹 大迎 規宏 教職員課 主任管理主事兼主幹 山本 浩一

平成30年度 学校管理職・教育行政職特別研修 講師・助言者（第2期）

（第2期：市町立小学校，特別支援学校新任教員）

		講義内容等					
1 日目	5/30 (水)	時間	9:20～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:50	
		内容	開講式 オリエンテーション	(講義) 教育改革と学校指導者 に求められる力量	(演習) 教育改革と学校経営課 題の明確化	(講義) 学校組織マネジメントとは何か①②	
		講師・助言者	兵庫県教育次長 世良田 重人 兵庫県教育大学長 福田 光完 兵庫県教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 准教授 川上 泰彦	教職員課 主任管理主事兼主幹 山本 浩一 教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮 県立教育研修所 主任指導主事 里 知純 県立教育研修所 指導主事 遠山 八千代 県立教育研修所 主任指導主事 兼課長 波部 新	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	
2 日目	5/31 (木)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:50	
		内容	(演習) 学校環境の分析	(演習) 学校経営ビジョンの構 築①	(演習) 学校経営ビジョンの構 築②	(講義・事例紹介) 教職員の勤務時間適正 化	(演習) 教職員の勤務時間適正 化
		講師・助言者	教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮 県立教育研修所 指導主事 京極 潤 県立教育研修所 主任指導主事 高館 裕児 県立教育研修所 主任指導主事 福田 秀則 県立教育研修所 主任指導主事 古林 達也	教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮 県立教育研修所 指導主事 京極 潤 県立教育研修所 主任指導主事 高館 裕児 県立教育研修所 主任指導主事 福田 秀則 県立教育研修所 主任指導主事 古林 達也	教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮 県立教育研修所 指導主事 京極 潤 県立教育研修所 主任指導主事 高館 裕児 県立教育研修所 主任指導主事 福田 秀則 県立教育研修所 主任指導主事 古林 達也	教職員課 主任管理主事兼班長 小川 秀雄 西宮市立東山台小学校 学校副主幹 北口 郁子	阪神教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 津田 量 播磨東教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 岡田 浩一 播磨西教育事務所 指導主事 兼管理主事 藤後 泰祐 丹波教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 井上 政行 淡路教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 仲野 幹
3 日目	6/1 (金)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:50	
		内容	(講義) 学校危機管理の考え方 と進め方	(演習) 学校経営と危機管理の 実際(事例研究)①	(演習) 学校経営と危機管理の 実際(事例研究)②	(講義) 非遵行為の防止・いじめ問 題と対応マニュアルの活用 について	(演習) いじめ問題と対応マニユ アルの活用について
		講師・助言者	兵庫教育大学 准教授 富山 清実	教育企画課 主任指導主事 藤田 美保 人権教育課 指導主事 今川 美幸 義務教育課 指導主事 早瀬 幸二 特別支援教育課 指導主事 井上 博之 体育保健課 主任指導主事 森鼻 崇文 教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮	教育企画課 主任指導主事 藤田 美保 人権教育課 指導主事 今川 美幸 義務教育課 指導主事 早瀬 幸二 特別支援教育課 指導主事 井上 博之 体育保健課 主任指導主事 森鼻 崇文 教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮	教職員課 考査班長 岡田 悟 義務教育課 主任指導主事 兼主幹 大久保 拓哉	高校教育課 主任指導主事 兼主幹 富永 和典 義務教育課 主任指導主事 兼主幹 大久保 拓哉 高校教育課 指導主事 中井 里絵 義務教育課 指導主事 早瀬 幸二 義務教育課 指導主事 大谷 典之
4 日目	6/18 (月)	時間	9:30～10:30	10:50～12:10	13:10～16:50		
		内容	(演習) 労務管理関係法規実践 演習①	(演習) 労務管理関係法規実践 演習②	(講義・演習) カリキュラム開発と地域との連携協働の実践		
		講師・助言者	教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮 播磨東教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 足立 幸謙 播磨東教育事務所 管理主事 新谷 香織 播磨西教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 土井 寛文 播磨西教育事務所 管理主事 辰田 奈味	教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮 播磨東教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 足立 幸謙 播磨東教育事務所 管理主事 新谷 香織 播磨西教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 土井 寛文 播磨西教育事務所 管理主事 辰田 奈味	兵庫教育大学 教授 小西 哲也 兵庫教育大学 准教授 安藤 福光 兵庫教育大学 准教授 上田 真弓		
5 日目	6/19 (火)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:00	16:20～16:50
		内容	(講義) 教職員の職能開発の実 践	(講義) 教職員のメンタルヘル ス	(講義) 教職員の評価・育成シ ステムの理解	(演習) 教職員の評価・育成演 習	全体総括 閉講式
		講師・助言者	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 教授 藤原 忠雄	兵庫教育大学 教授 浅野 良一 教職員課 管理・免許班長 松本 佳崇	教職員課 管理・免許班長 松本 佳崇 教職員課 指導主事 兼管理主事 日外 亮 県立教育研修所 主任指導主事 栄 久視 県立教育研修所 主任指導主事 田中 慎一 県立教育研修所 指導主事 山本 義史	兵庫教育大学 教授 浅野 良一 教職員課 主任管理主事兼主幹 山本 浩一

大学と連携した指導力向上事業

〔事業について〕

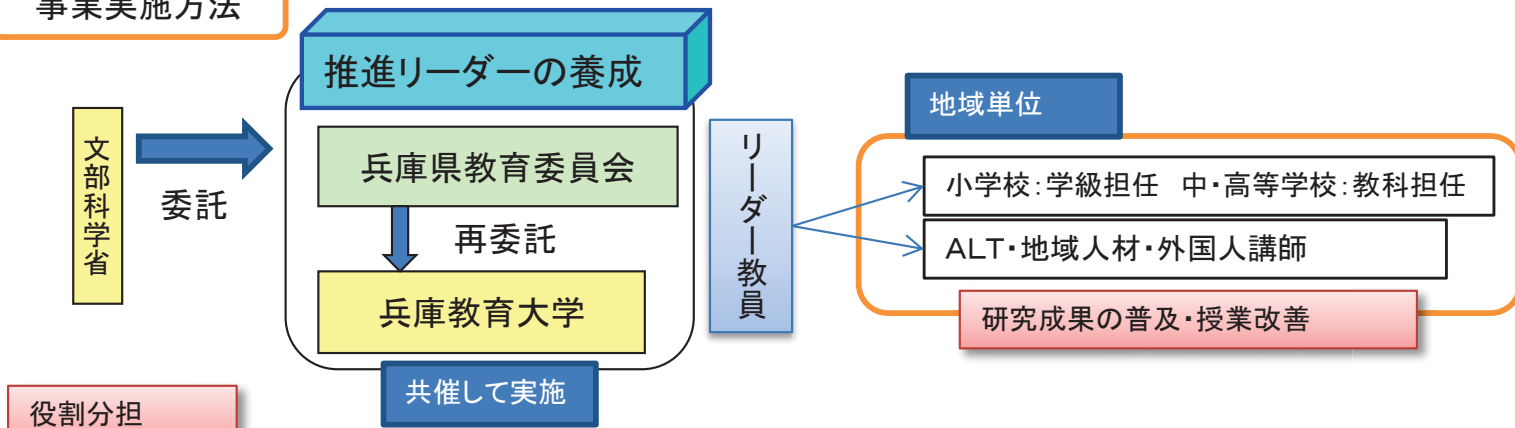
本事業は、文部科学省の「外部専門機関と連携した英語担当教員の指導力向上事業」を活用し、文部科学省と県教育委員会が委託契約を締結し実施する予定である。

県教育委員会は、兵庫教育大学と再委託をし、連携して本事業を実施し、県教委と兵教大が共催して研修を実施する。

〔兵庫教育大学と連携する効果〕

- ・教員養成課程の教職大学院を設置し、現職教員に対するカリキュラム、教材、環境が整備されており、指導法が確立していること
- ・兵教大と県教委が連携して実施している研修事業の実績があること
- ・大学には、海外交流等で得られた先進的な英語教育に係る情報があり、その先進的な研究内容の支援が得られること。

事業実施方法



役割分担

	兵庫県教育委員会	兵庫教育大学
研修内容	・研修要項の作成 ・本県の英語教育の実態及び課題提示 ・研修プログラムの検討	・具体的な研修プログラムの作成 ・研修プログラムの検討
研修講師		・兵教大教員 ・兵教大が必要に応じて他大学の教員を招聘
指導体制	・研修参加者に対する支援 ・研修参加者の目標管理 ・研修参加者の評価	・講師として、講義・演習の実施及び研修参加者への指導助言等
運営体制	・研修会の実施通知 ・研修参加者の把握 ・研修参加者のグループ分け ・研修参加者の旅費精算	・研修教室の確保 ・教材の開発・準備 ・教具等の準備
国からの委託経費の分配	運営に係る指導主事の旅費 研修評価、まとめ作成費用 等	講師の謝金・旅費、教材・教具等消耗品費等

実施スケジュール

4～5月：委託契約締結 6月～2月：委託契約期間・研修実施期間

平成30年度 大学と連携した英語指導力向上事業 日程等

	日程	会場	校種	9:30～10:50		11:10～12:30		13:30～14:50		15:10～16:30	
				1		2		3		4	
1 日 目	6月4日 (月)	神戸 国際会館	小	開 講 式	講義 「今、英語教育に 求められること」 【関西大学 竹内教授】	講義 「今、英語教育に 求められること」 【関西大学 竹内教授】		講義・演習 外国語活動の授業実践 兵庫教育大学 吉田教授	グループ協議 授業実践の 現状と課題 兵庫教育大学 吉田教授	英語力 J-POSTL	兵庫教育大学 吉田教授
			中					講義・演習 中学校の授業実践 兵庫教育大学 近藤准教授	グループ協議 授業実践の 現状と課題 兵庫教育大学 近藤准教授	英語力 J-POSTL	兵庫教育大学 近藤准教授
			高					講義・演習 授業実践の現状と課題 兵庫教育大学 有働教授	演習 県内の 取組等 【指導主事】	英語力 J-POSTL	【指導主事】
								大会議室		806号会議室	

2 日 目	日程	会場	校種	1	2	3	4
	7月25日 (水)	兵庫県 学校厚生 会館	小	講義 授業プランの作成 音声指導 兵庫教育大学 吉田教授	講義・演習 授業プランの作成 「書くこと」の指導 兵庫教育大学 吉田教授	演習 授業プランの作成 「読むこと」の指導 兵庫教育大学 吉田教授	小中合同研修 兵庫教育大学 吉田教授
				3階西会議室	3階西会議室	3階西会議室	
			中	講義・演習 All Englishでの 授業をめざして(1) 兵庫教育大学 川崎准教授・クレア助教	講義・演習 All Englishでの 授業をめざして(2) 兵庫教育大学 川崎准教授・クレア助教	演習 新しい指導方法 (4技能の定着) 兵庫教育大学 川崎准教授・クレア助教	
8月8日 (水)	兵庫県 学校厚生 会館	高	3階東会議室	3階東会議室	3階東会議室	2階大会議室	
			講義・演習 英語ライティングの指導と評価(1) 立命館大学 山岡教授	講義・演習 英語ライティングの指導と評価(2) 立命館大学 山岡教授	講義・演習 ICTを活用した授業実践(1)※ 関西学院千里国際中・高等部米田教諭	演習 ICTを活用した授業実践(2)※ 関西学院千里国際中・高等部米田教諭	
		3階西会議室	3階西会議室	3階大会議室	3階大会議室		

※ICTを活用した授業実践については、中高合同研修となります

	日程	会場	校種	1		2		3		4	
				1		2		3		4	
3 日 目	8月6日 (月)	県立 教育 研修所	小	演習 ICTを活用した授業実践(1) 姫路市立八幡小学校 岡本主幹教諭		演習 ICTを活用した授業実践(2) 姫路市立八幡小学校 岡本主幹教諭		演習 ICTを活用した授業実践(3) 姫路市立八幡小学校 岡本主幹教諭		演習 ICTを活用した授業実践(4) 姫路市立八幡小学校 岡本主幹教諭	
			中	講義・演習 パフォーマンス評価について(1) ベネッセコーポレーション		第1研修室 パフォーマンス評価について(2) ベネッセコーポレーション		第1研修室 ICTを活用した授業実践(1)※ 関西学院千里国際中・高等部米田教諭		第1研修室 ICTを活用した授業実践(2)※ 関西学院千里国際中・高等部米田教諭	
			高	講義・演習 主体的な英語学習者を育てる 協同学習の進め方(1) 和歌山大学 江利川教授		講義・演習 主体的な英語学習者を育てる 協同学習の進め方(2) 和歌山大学 江利川教授		講義・演習 授業でできる 即興型英語ディベート(1) 大阪府立大学 中川助教		講義・演習 授業でできる 即興型英語ディベート(2) 大阪府立大学 中川助教	
	8月23日 (木)	兵庫県 民会館	高	902会議室		902会議室		902会議室		902会議室	

	日程	会場	校種	1		2		3		4	
				1		2		3		4	
4 日 目	10月12日 (金)	神戸 ハーバーランド キャンパス	小	講義・演習 評価について(1) 兵庫教育大学 吉田教授		演習 評価について(2) 兵庫教育大学 吉田教授		講義・演習 先進校の取組を知る 朝来市立生野小学校 繁田教諭		協議 有効なT.Tについて 吉田教授、繁田教諭、朝来市立生野中学校 A.L.T.	
			中	講義・演習 先進校の取組を知る 朝来市立朝来中学校 藤本教諭		演習 英語を用いた自己表現 朝来市立朝来中学校 藤本教諭		講義・演習 技能統合型の言語活動(1) 兵庫教育大学 川崎准教授		講義・演習 技能統合型の言語活動(2) 兵庫教育大学 川崎准教授	
			高	講義・演習 スピーキングの指導と評価(1) 京都教育大学 泉教授		講義・演習 スピーキングの指導と評価(2) 京都教育大学 泉教授		講義・演習 Practically integrating linguistic theory into English class(1) 神戸大学 Matthew Rooks准教授		講義・演習 Practically integrating linguistic theory into English class(2) 神戸大学 Matthew Rooks准教授	
	10月1日 (月)	神戸 ハーバーランド キャンパス	高	講義室 5		講義室 5		講義室 5		講義室 5	

	日程	会場	校種	1		2		3		4	
				1		2		3		4	
5 日 目	平成31年 2月6日 (水)	姫路市立 白浜小学 校	小			参加者代表者勤務校 での研究授業 兵庫教育大学 吉田教授		事後研修 兵庫教育大学 吉田教授		英語力 J-POSTL	閉講式 【事務局】
			中			参加者代表者勤務校 での研究授業 兵庫教育大学 近藤准教授		事後研修 兵庫教育大学 近藤准教授		英語力 J-POSTL	閉講式 【事務局】
			高			参加者代表者勤務校 での研究授業 兵庫教育大学 有働教授		事後研修 兵庫教育大学 有働教授		英語力 J-POSTL	閉講式 【事務局】
	11月19日 (月)	兵庫県立 須磨東高 等学校	高								

平成30年度 兵庫教育大学と兵庫県立教育研修所との連携研修講座等の実施報告書

兵庫県立教育研修所

No.	研修講座名	講 師 〔兵庫教育大学〕	対 象	日程等	場 所	(受講人数 人)		
						研修講座	公開講座	合計
1	高等学校初任者研修 (第5回) 「特別支援教育」	教授 井澤 信三	高等学校教員	5月24日(木)	県立教育研修所	172	-	172
2	小・中学校中堅教諭等資 質向上研修 「少人数グループ研修 生 徒指導等研修」	准教授 吉國 秀人	小・中学校の教 員	6月14日(木) 6月22日(金)	県立教育研修所	321	-	321
3	震災に学ぶ防災教育講座 ー兵庫の防災教育の推進ー	教授 岩井 圭司	小・中・高等学 校及び特別支援 学校の教職員	6月20日(水)	県立教育研修所	45	-	45
4	不登校問題への対応講座 ー不登校の理解と対応のた めにー	准教授 隈元 みちる	小・中・高等学 校及び特別支援 学校の教員	6月20日(水)	県立教育研修所	50	-	50
5	(小中) 特別支援教育の 視点を生かした生徒指導 講座 ー通常の学級における指 導・支援の充実ー	教授 宇野 宏幸	小・中学校及び 特別支援学校の 教員	6月27日(水)	県立教育研修所	104	-	104
6	いじめ問題への対応講座 ーいじめの理解と対応のた めにー	教授 松本 剛 教授 秋光 恵子	小・中・高等学 校及び特別支援 学校の教員	7月25日(水) 8月3日(金) 8月8日(水) 8月17日(金)	県立教育研修所 西宮市民会館 姫路市総合教育 センター 但馬長寿の郷	275	-	275
7	(小中) 国語科教育講座 ー国語で理解・表現する資 質・能力の育成ー	教授 吉川 芳則	小・中学校及び 特別支援学校 (小・中学部) で国語科を担当 する教員	7月26日(木)	県立教育研修所	117	-	117
8	(高) カリキュラム・マ ネジメント講座 ー新しい時代に必要となる 資質・能力の育成ー	准教授 安藤 福光	高等学校及び特 別支援学校(高 等部)の教員	8月1日(水)	県立教育研修所	161	11	172
9	高等学校中堅教諭等資 質向上研修 「主体的・対話的で深い学 びを実現する授業に向けた 工夫と仕掛けづくり」	教授 吉水 裕也	高等学校で地理 歴史科・公民科 を担当する教員	8月2日(木)	県立教育研修所	15	-	15
10	高等学校初任者研修 (第14回) 「学校で行う子どもの心の ケア」	教授 岩井 圭司	高等学校教員	8月21日(火)	県立神出学園	19	-	19
11	(小中) 社会科教育講座 ー資料を活用し、課題を追 究する授業づくりー	副学長 米田 豊	小・中学校及び 特別支援学校 (小・中学部) で社会科を担当 する教員	8月31日(金)	県立教育研修所	57	25	82

平成30年度 兵庫教育大学と兵庫県立教育研修所との連携研修講座等の実施報告書

兵庫県立教育研修所

No.	研修講座名	講 師 〔兵庫教育大学〕	対 象	日程等	場 所	(受講人数 人)		
						研修 講座	公開 講座	合計
12	高等学校中堅教諭等資質 向上研修 「生徒指導研修」	教授 松本 剛	高等学校教員	9月10日(月)	兵庫教育大学	11	-	11
13	高等学校中堅教諭等資質 向上研修 「生徒指導研修」	教授 藤原 忠雄	高等学校教員	9月11日(火)	兵庫教育大学	18	-	18
14	授業のUD化推進講座 ーICTを活用した授業の UD化に向けてー	准教授 小川 修史	全ての教職員	9月20日(木)	県立教育研修所	24	9	33
15	高等学校初任者研修 (第14回) 高等学校中堅教諭等資質 向上研修 「グローバル教育につい て」	特任教授 楠本 信治	高等学校教員	10月4日(木)	JICA関西	49	-	49
16	(中高) タブレット端末 活用講座 ーねらいに応じたタブレッ ト端末の活用ー	教授 森山 潤	中・高等学校及 び特別支援学校 (中学部・高等 部)の教職員	10月15日(月)	県立教育研修所	22	10	32
17	(小) 算数科教育講座 ー数学的に考える資質・能 力の育成ー	准教授 加藤 久恵	小学校及び特別 支援学校(小学 部)で算数を担 当する教員	10月18日(木)	県立教育研修所	38	3	41
18	(小) 理科教育講座 ー問題を科学的に解決する ための資質・能力の育成ー	准教授 山本 智一	小学校及び特別 支援学校(小学 部)で理科を担 当する教員	10月24日(水)	県立教育研修所	38	4	42
19	小中学校事務職員(経験 者Ⅲ)研修講座	教授 浅野 良一	小・中学校及び 特別支援学校の 事務職員	10月29日(月)	県立教育研修所	15	-	15
20	小学校プログラミング教 育講座B ープログラミング的思考を 育む授業づくりー	教授 森山 潤	全ての教職員	10月30日(火)	県立教育研修所	15	8	23
21	高等学校初任者研修 (第16回) 「学級経営の視点」	教授 秋光 恵子	高等学校教員	11月1日(木)	県立教育研修所	172	-	172

合計 1,738 70 1,808

平成 30 年度 兵庫教育大学と神戸市教育委員会
(神戸市総合教育センター)との連携研修講座実施報告書

No.	実施日	実施時間	担当講師	内容・形態	出席者数
-----	-----	------	------	-------	------

1. 基本研修／教職経験者研修／16年目研修

1	7月 24 日(火) 8月 1 日(水) 第1回	13:30～15:00	吉川 芳則 教授	校内授業研究のあり方	71
---	--------------------------------	-------------	-------------	------------	----

2. 基本研修／中堅教員資質向上研修

2	4月 26 日(木) 5月 7 日(月) 第1回	15:00～17:00	廣岡 徹 客員教授	教員としてのキャリア形成	278
3	1月 10 日(木) 1月 18 日(金) 第7回	15:00～17:00	浅野 良一 教授	学校組織マネジメント 【講義・演習】	278

3. 職務研修／管理職研修／「二年次校園長研修」

4	5月 14 日(月) 第1回	13:30～17:00	日渡 円 教授	新しい時代に対応する学校管理職 マネジメント研修①～情報収集～ 【講義・演習】	38
5	7月 17 日(火) 第2回	13:30～17:00	日渡 円 教授	新しい時代に対応する学校管理職 マネジメント研修②～分析～ 【講義・演習】	35
6	9月 11 日(火) 第3回	13:30～17:00	日渡 円 教授	新しい時代に対応する学校管理職 マネジメント研修③④～構想・企画～ 【講義・演習】	36
7	11月 12 日(月) 第4回	13:30～17:00	日渡 円 教授	新しい時代に対応する学校管理職 マネジメント研修⑤⑥～判断・実行～ 【講義・演習】	26

4. 職務研修／管理職研修／二年次教頭研修

8	6月 19 日(火) 第 2 回	13:30～17:00	岩井 圭司 教授	教職員のメンタルヘルス 「教職員の仕事とストレス」 【講義】	33
---	---------------------	-------------	-------------	--------------------------------------	----

5. 職務研修／管理職研修／四年次教頭研修

9	8月 17 日(金)	9:30～17:00	浅野 良一 教授	学校経営能力の開発 【講義・演習】	38
---	------------	------------	-------------	----------------------	----

No.	実施日	実施時間	担当講師	内容・形態	出席者数
-----	-----	------	------	-------	------

6. 職務研修／職務研修講座／学校力アップ講座(教務・校務運営)

10	5月7日(金) 第1回	15:00～17:00	安藤 福光 准教授	「学ぶ力・生きる力を育む教育課程 の編成」 カリキュラム・マネジメント教務主任 の役割	10
11	7月13日(金) 第3回	15:00～17:00	日渡 円 教授	「教育と法規」 教育法規の基礎知識を学ぶ	18
12	10月22日(月) 第3回	15:00～17:00	米田 豊 副学長	「学力の向上をめざして」 力のつく授業と家庭学習習慣の育 成	17
13	12月10日(月) 第4回	15:00～17:00	浅野 良一 教授	「学校づくりに生かす学校評価シス テム」 学校評価の進め方・生かし方	7

7. 職務研修／職務研修講座／学校力アップ講座(校内研修推進)

14	5月28日(月) 第1回	15:00～17:00	山内 敏男 准教授	「学校の活性化と校内研修」 ○校内研修の今日的意義と 役割を知る ○自校研修の分析	16
15	9月28日(金) 第4回	15:00～17:00	米田 豊 副学長	「各校の実践から学ぶ」 ○2学期に生きる参加型研修 の実際を知る ○各校の取組報告	19
16	1月24日(木) 第5回	15:00～17:00	浅野 良一 教授	「次年度プランへの提言」 ○研修評価を計画へつなぐ企画 の仕方を知る ○次年度プランづくり	15

8. 職務研修／職務研修講座／主幹教諭研修

17	6月4日(月) 第1回	15:00～17:00	浅野 良一 教授	学校活性化のための主幹教諭の 役割	52
18	11月19日(月) 第2回	15:00～17:00	浅野 良一 教授	主幹教諭としての行動実践に向け て	47

平成30年度 兵庫教育大学と姫路市立総合教育センターとの連携研修計画

姫路市立総合教育センター 教育研修課

カテゴリ	番号	研修名	期日	内容	講師予定
特別研修	1	新学習指導要領等対応研修 「主体的・対話的で深い学び」研修	9月14日(金)	主体的・対話的で深い学びの具現化	教授 勝見 健史
ライフステージ別研修	2	中堅教諭等資質向上研修	5月 9日(水)	ミドルリーダーの役割と特性	准教授 川上 泰彦
	3	高校管理運営研修	8月17日(金)	学校運営と『高校教育改革』	准教授 川上 泰彦
職能研修	4	養護教諭研修①	7月26日(木)	児童虐待に対する養護教諭の関わり	教授 海野 千畝子
	5	学校事務職員全員研修	12月 3日(月)	コミュニティ・スクールの理念や制度について	教授 小西 哲也
課題研修	6	「地域とともにある学校」研修	9月10日(月)	社会に開かれた教育課程の在り方	准教授 上田 真弓
パワーアップ研修講座	7	国語科	7月23日(月)	思考力や想像力を養い、言語活動を豊かにする授業づくり	准教授 羽田 潤
	8	算数・数学科	7月25日(水)	数学的な見方・考え方の楽しさを実感させる授業づくり	教授 國岡 高宏
	9	図工科①	7月31日(火)AM	楽しい！造形表現活動を通じた授業づくり	教授 初田 隆
	10	図工科②	7月31日(火)PM	楽しい！造形表現活動を通じた授業づくり	教授 初田 隆
	11	学級経営	8月 6日(月)	自分らしさを学級経営に活かす —教師のためのオーセンティック・リーダーシップ研修—	教授 竹西 亜古

学校園支援

開発・研究・支援	1	スペシャリスト派遣	市立学校園からの要請に基づき校内研修等へ講師を派遣
	2	兵庫教育大学との連携 (授業力向上プラン推進校)	推進校を6校程度指定し、協定に基づき兵庫教育大学教員を派遣
	3	新教育研究員制度	研究に対してアドバイザーが助言

平成30年度 兵庫教育大学と姫路市立総合教育センターとの連携研修講座等実施状況報告

H30研修受講確認カードより

姫路市立総合教育センター教育研修課

番号	研修名	対象	実績	研修の概要及び成果	受講者の感想より
1	新学習指導要領等対応研修	小中義務高特	103人	◆概要 新学習指導要領で示された主体的・対話的で深い学びについての本質を学ぶ。また、新しい時代に求められる資質・能力を育成できる実践的な授業力の育成を図るもの。 ○成果 主体的・対話的で深い学びを成立させるために、どのように「ねらい」や「課題設定」に反映させるかを考える研修となった。	・普段の学級経営や授業づくりについて自身を振り返るよい機会となった。多様な子どもたち同士をつなぎ、考えの「ずれ」を活かして子どもたち同士が学び合えるような授業づくりに取り組みたい。 ・授業中の発問、発言を精査する必要性を感じた。「関係づける思考」を意識した活動を増やしていきたい。 ・深い学びへとつながるよう、学び方（思考の仕方を含め）を子どもたちにどのように学ばせていくか、教師が意図的・計画的に考えていなくてはならないと改めて感じた。また、子どもたちに学び方の意味づけ・価値づけをすることも大切にしていきたい。
2	中堅教諭等資質向上研修	小中高特	114人	◆概要 教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において、中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭としての役割について学ぶことにより、自身に求められる資質・能力の向上に主体的に取り組む意欲を喚起するもの。 ○成果 教職経験10年を終え、これまでの自身の取組、立ち位置等を俯瞰的に捉え、今後、校内のミドルリーダーとして求められる資質・能力を意識できた大変実りある研修となった。	・話が分かりやすく、演習もあり、ミドルリーダーについて考えることができた。マネジメントやリーダーシップについて考え、取り組んで生きたいと思った。次の10年に向けてまだ考えられていなかったのを、自分を見つめていきたい。 ・年齢が上がり、経験が増えてくる中で物事の感じ方の違い、違和感を言語化され、伝えられることでそう感じていたのは自分だけではないという安心感、また今後の道標を与えられたような気分となった。 ・さまざまな事柄が心当たりのあるものばかりだった。ミドルリーダーという役割、期待と自己認識のミスマッチ・ギャップはまさにその通りだと思った。自分はまだまだだと思った。なりたい自分に少しでも近づきたい。
3	高校管理運営研修	高	11人	◆概要 学習指導要領改訂に伴う喫緊的教育課題や社会の変化に対応する魅力ある学校づくりについて学び、学校内組織のリーダーとしての資質・能力の向上を図る。 ○成果 子供たちにつけさせたい力をはっきりさせることが、新しい教育課程の方向性を考えることにつながり、高校教育改革について考えることができた研修となった。	・高校教育改革と自校をつなげるという部分を考えさせられた。 ・高校教育改革の捉え方を考えながら、社会に開かれた教育課程を考えていきたい。 ・今後の社会の変化にともなう教育の変化、改善についての視点を持つことができた。 ・教育改革にあわせて、授業の在り方について、根本的に考え直したい。 ・どういう生徒を育てるかというビジョンが必要であると感じた。
4	養護教諭研修①	小中義務高特	113人	◆概要 養護教諭は、保健室を訪れる子供の対応に当たる中で、心理的、身体的な虐待を発見しやすい立場にあり、早期発見・早期対応にその役割が期待される。そこで、養護教諭として、虐待により心に傷を負った児童生徒への心のケアについて学ぶことで、実践的指導力の向上を図る。 ○成果 児童福祉法の改正や昨今の児童虐待による悲惨な事案を、子供たちの駆け込み寺ともいえる保健室の教諭が我が事意識として捉え、どのように対応すべきか学ぶことができた。	・実際にボティワークを含めた専門性の高い講義であった。傷ついた子供との距離のとり方や、ケアの仕方をもっと勉強したいと感じた。 ・沢山の内容を学んだ半面、自身の虐待についての基礎知識の乏しさを痛感した。 ・虐待の疑いのある生徒に関わるため、学校ではケース会議を持ち共通理解を図っているが、該当生徒のケアにまで及んでいない現状がある。研修で学んだボティワーク等を機会を捉えて実践してみたい。 ・保健室での関わり方で、どのタイミングで話をしたり関したりするか、まだ聞きすぎず聞かなすぎずで、子供との信頼関係が作られることがわかり、対応の基本を理解することができた。今後に生かしていきたい。
5	学校事務職員全員研修	小中義務特	117人	◆概要 「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」への転換が求められている今、学校事務職員がコミュニティ・スクールの理念や制度について学ぶことで、学校の事務をつかさどる事務職員がよりいっそう主体的、積極的に学校運営に参画することを目指した。 ○成果 「地域とともにある学校」をチーム学校として目指すにあたり、学校運営のプラットフォームとしての役割が期待される学校事務職員がコミュニティ・スクールについての理解を深め意識を高められたことは大変有意義であった。	・教育や教育行政に求められるもの、学校ですべきことについて詳しくお話を聞き、コミュニティ・スクールについて深めることができた。ただコミュニティ・スクールにおける事務職員の取組については、まだまだこれからの課題であると感じた。 ・「地域に開かれた学校」に慣れつつあるが、「ともにある学校」へは、まだ学ばなければならないことや行動しなければならないことがある。変化を受け入れ、自分にできることを増やしていけたらと思う。 ・「事務職員だからこそできることがある」という話で、これからも自信と誇りを持って、学校運営に関わっていくためのヒントをいただいた。
6	課題研修「地域とともにある学校」研修	小中義務特	107人	◆概要 新学習指導要領に示された「社会に開かれた教育課程」を踏まえた地域とともにある学校の在り方を学ぶことで、家庭や地域社会と連携・協働した教育活動の推進を図るもの。 ○成果 具体的な市や学校の取り組みを通して、学校・地域・行政の連携や、カリキュラムマネジメントの必要性と、これから学校が取り組むべき課題を学ぶことができた。	・「よりよい世界や社会を創り出す」という高さを出すためには、土台を大きくする、つまり子ども達が学校以外の時間と出会うことが大切という「砂山」の話が印象に残った。お互いが学んで必要であれば変化していける関係性が「協働」であるという言葉に納得がいった。 ・熟議、協働の意味や手立て先進事例を参考に教えていただき、先生自身の体験や先進校の成果がよくわかった。 ・直接地域を活性化させることにつながる子どもづくりが学校の役割で、次の子どもを育てる地域創生は、コミュニティとしての地域の役割で、双方の共存が有効であることもわかりやすかった。
7	パワーアップ研修講座（国語）	幼小中義務高特	116人	◆概要 国語の授業づくりにおける思考力・想像力・言語感覚等を豊かにする方法について具体的に学び、今後の授業づくりに活かすもの。 ○成果 主体的に作品内容を表現することは、思考力・想像力・言語感覚を総合的に活用することにつながることを学ぶことができた。子どもたちの思考を深める研修内容だと感じた。	・視点論や設定論にもっていく課題設定については大変興味深く、2学期以降の教材研究に活かしたい。 ・理解しながら表現するのではなく、表現しながら理解していくということについて、「なるほどそうだな。」と感じた。 ・表現力を高める指導についての考えが深まった。 ・「理解したことが表現できるかどうか」「見える表現を」という言葉がぐっときた。生徒が思っていることを上手にアウトプットさせられる授業を作りたい。 ・学校の研究テーマ「探究」を、国語科としてどう進めるかのヒントになった。

番号	研修名	対象	実績	研修の概要及び成果	受講者の感想より
8	パワーアップ研修講座（算数・数学科）	幼小中義高特	103人	◆概要 算数・数学科の授業づくりについて、具体的に数学的な見方・考え方を学び、今後の授業づくりに活かすもの。 ○成果 新学習指導要領にある「数学的思考」「数学的態度」について学ぶとともに、主体的で対話的な学習になるために、どのように言語活動を取り入れていくべきかを学ぶことができた。	・発展的な考え方は、既習事項から条件を少し変えることだと分かった。 ・正しい答えを出すことに力を入れがちだったが、規則性を見つけたら、単純化したりして、いかに手際よくスムーズに解決できるかを考えさせることを大切にしたいと思った。 ・「なぜ？」の答えが分かり、応用できたときは満足感を覚えた。子ども達にも体験させたい。 ・数学的な考え方は、知的好奇心が基盤であることがわかった。また、知識や習ったことを応用し、子どもたちが主体的に考える授業で、子どもの「なぜだろう？」を育みたい。
9	パワーアップ研修講座（図工①）	幼小中義高特	38人	◆概要 図工科の授業づくりについて、自らが造形表現活動を行うことで、子供たちの視点に立った授業づくりができる指導力を図るもの。 ○成果 言葉からイメージする絵を制作すること、絵からイメージする言葉を考えるなど、主体的な言語活動を取り入れながら、様々な学習活動ができることを学ぶことができた。	・水彩絵の具を使って様々な表現ができることが楽しみにつながると実感した。形や色を五感で表現すること、それを語り合うことは、子ども同士のコミュニケーションを取り合う場面に活かせる。 ・表現するための切り口をいろいろ学ぶことができ、視野が広がった。 ・図工でオノマトペを取り入れる発想がなかった。2学期から実践したい。 ・音や味など五感をフルにを使って表現を楽しむこと、ちょっとしたヒントを与えて、子どもの感性を引き出してする大切さをあらためて実感できた。 ・「自分の感覚や行為」を通して「自分のイメージ」を持つことを水彩絵の具の技法を通して考えることができた。
10	パワーアップ研修講座（図工②）	幼小中義高特	39人	◆概要 図工科の授業づくりについて、自らが造形表現活動を行うことで、子供たちの視点に立った授業づくりができる指導力を図るもの。 ○成果 言葉からイメージする絵を制作すること、絵からイメージする言葉を考えるなど、主体的な言語活動を取り入れながら、様々な学習活動ができることを学ぶことができた。	・正解がないからこそ、何でも自由に表現できる楽しさを味わった。 ・教師の一言や導入の仕方でも、興味を持って取り組めると思った。 ・先生が一人一人に声をかけてくださったり、感想をいってくださったことは、とても嬉しいことだった。同じように子どもたちに自信を持って表現させていくためにも、声かけを大切にしたい。 ・今回教えていただいた技法を使って、保育の中で伸び伸びと楽しい時間になるようにしたい。 ・色々な技法だけでなく、それを使うことで創造的に表現したり、五感で感じるができることとわかった。
11	パワーアップ研修講座（学級経営）	幼小中義高特	62人	◆概要 自分らしさを活かす学級経営が、児童生徒に良い影響をおよぼしたという実証的研究から、学級経営について理解を深めるもの。 ○成果 人生における経験や学び続ける教師の姿こそが重要であり、教師が生徒の前でどのようなことを語るのかが大切であると、学ぶことができた。	・日々の業務に追われオーセンティックな自分を子ども達に出してないことに気づかされた。自分の大事にしたいものを子ども達に伝えていきたい。 ・ライフイベント・トレイルをすることで、自分の人生を振り返り、教師として自分が大切にしていることを再確認することができた。 ・自分が人間として大切にしてきたことと教師として大切にしていきたいことが重なっていることに初めて気づいた。自分らしさを出して子どもの前に立っていききたい。 ・自分のオーセンティック形成が弱いと感じた。様々な経験についてしっかりと受け止めて、成長につなげていきたい。

平成30年度 兵庫教育大学と尼崎市立教育総合センターとの連携研修講座

No.	研修名	実施日	研修場所	テーマ	講師	参加人数
1	数学科教育研修講座	9月13日 (木)	尼崎市立 成良中学校	○数学科公開授業【第2学年及び第2学年】 ○講話「数学的活動を通して思考力・判断力・表現力を高める授業づくり」	濱中 裕明 教授	15
2	大学と連携した 英語指導力向上研修講座	1月21日 (月)	尼崎市立 立花西 小学校	○外国語公開授業【第6学年】 授業者：平成29年度兵庫教育大学と連携した英語指導力向上事業 5日間の研修プログラム修了者 ○指導助言・講話	吉田 達弘 教授	26

**平成30年度 兵庫教育大学と西宮市教育委員会
(教育研修課)との連携研修講座の実績**

講座 No.	期日	曜	カテゴリー	講座名	テーマ	講 師	対象	参加 予定 人数
1	5月16日	水	企画研修	社会科 教育研修	習得した知識の活用に着 目した授業	米田 豊 副学長	小中特教職員	34名
2	6月15日	金	企画研修	校内研究 の進め方 Ⅰ	学校研究の質を高める ～テーマ設定から授業研 究～	勝見 健史 教授	小中特教職員	9名
3	7月25日	水	担当者会	研究 担当者会	研究担当者としての心構 え	勝見 健史 教授	小中特教職員	82名
4	8月1日	水	職務研修	教頭研修	いじめ問題とその対応	池島 徳大 特任教授	小中特教職員	62名
5	8月21日	火	専門研修	校内研究 の進め方 Ⅱ	1学期の校内研究の見直 しについて	勝見 健史 教授	小中特教職員	16名
6	8月22日	水	専門研修	国語科 教育研修	説明的文書における「主 体的で対話的な深い学 び」とは	吉川 芳則 教授	小中特教職員	58名
7	8月22日	水	専門研修	社会科 教育研修	社会科教育について	米田 豊 副学長	小中特教職員	27名
8	9月13日	木	職務研修	学校事務 職員研修	チーム学校における学校 事務職員の役割Ⅱ	諏訪 英広 准教授	小中特学校事 務職員	41名
9	11月12日	月	企画研修	校内研究 の進め方 Ⅱ	学校研究の質を高める ～授業研究から事後研究 会まで～	勝見 健史 教授	小中特教職員	10名
10	1月7日	月	職務研修	西宮教育 推進講座	学校組織マネジメントによ る教職員の育成	浅野 良一 教授	幼小中高特教職 員(学校長の推薦 のあった者)	50名
11	1月23日	水	企画研修	社会科教 育研修	社会科授業研究	米田 豊 副学長	小中特教職員	32名
12	2月		企画研修	校内研究 の進め方 Ⅲ	学校研究の質を高める～ 1年間の総括から次年度 に向けて～	勝見 健史 教授	小中特教職員	10名

※米田 豊 副学長には、特別研究指導員として、社会科の研究グループと西宮市中学校教科等研究会社会科部会において、授業研究等への指導助言を随時いただいた。

平成30年度 兵庫教育大学研修講座実施状況

●自主研修、中堅教諭等資質向上研修等の選択研修

No.	新規 継続	教科名等	研修講座名	講 師	主たる対象	日程等	場所	募集人数	受講者数
1	新規	体育・保健体育	柔道が専門ではない先生のためのやさしい受け身と投げ技の指導	有山篤利 准教授	中・高等学校保健体育科教員	7/26(木) 9:00～12:40	加東C 武道場(実習)及び体育棟 109演習室(講義)	15 名	3名
2	継続	技術 情報	技術リテラシーの育成を図る技術科の教材研究2018 ～パソコンによるフルカラーLEDの制御～	小山英樹 教授 森山潤 教授	中学校技術科教員	8/1(水) 10:30～16:30	加東C 自然・生活・健康棟139 (技術実習棟・電気実習室)	5 名	10名
3	継続	ICT 技術 総合的な学習の時間 情報	技術科におけるICT活用の授業デザイン2018 ～デジタルものづくり(3Dプリンタとレーザー加工機)体験～	森山潤 教授 ※関宮寿樹	中学校技術科教員	8/2(木) 10:00～16:10	加東C 自然・生活・健康棟139 (技術実習棟・電気実習室)	5 名	11名
4	継続	職能開発	ワークショップ入門 ～協同的な学びと創造の新しいスタイル～	宮元博章 准教授 ※丸毛幸太郎	学校種は問わない	8/10(金) 10:00～17:00	加東C アクティブ・ラーニング・スタジオ	16 名	18名
5	継続	理科	顕微鏡による岩石の観察	濫江靖弘 教授	中学校教員	8/16(木) 13:10～16:55	加東C 自然・生活・健康棟419	8 名	6名
6	継続	中止 道徳	学習指導の多様な展開を構想する道徳の時間の授業づくり ～持ち帰ってすぐに使える指導案を作成しよう！～	淀澤勝治 准教授	小・中学校教員	8/17(金) 10:00～16:10	加東C 共通講義棟304	20 名	—
7	継続	音楽	ここがポイント！音楽科における実技指導の工夫 ～歌唱、リコーダーを中心として～	河邊昭子 准教授	小学校教員	8/20(月) 10:00～15:00	加東C 芸術棟100 (合奏演奏室)	20 名	24名
8	継続	教科横断的内容 職能開発	対話による授業リフレクションの体験 ～“自分のことば”で授業を語りー聴き合う教員研修ー	宮元博章 准教授 ※大向勲	主に小・中学校教員 (他校種の教員も可)	8/22(水)10:00～16:30 8/23(木)11:30～16:30 (2日間)	加東C アクティブ・ラーニング・スタジオ	10 名	5名
9	継続	国語 社会 算数・数学 理科 生活 図画工作・美術 家庭 体育・保健体育 総合的な学習の時間 特別活動 幼年教育	アクティブラーニングを支援するラーニングスケッチのすすめ	溝邊和成 教授 ※野島崇志 ※松田雅代 ※佐野雄太 ※藤田麻由	小学校教員 (幼稚園教員も可)	7/27(金) 10:00～15:30	神戸HLC 講義室5	15 名	18名
10	新規	生徒指導 保護者対応 特別活動 児童生徒理解	いじめなどのめもめごと問題への対応とその実際 ーピア・メディエーション(仲間による調停)の導入に視点をあててー	池島徳大 特任教授	学校種は問わない	7/27(金) 13:00～16:30	神戸HLC 兵教ホール	30 名	26名
11	継続	算数・数学	思考力・表現力を育てる算数科授業づくり	加藤久恵 准教授	小学校教員	7/30(月) 13:30～16:45	神戸HLC 講義室1・2	20 名	29名
12	継続	児童生徒理解 学級運営・経営	子どもと学級をみる目を広げる	秋光恵子 教授 ※石井真理	現在、学級担任をしている 小・中・高等学校教員	7/31(火)10:00～15:00 8/ 2(木)10:00～15:00 (2日間)	神戸HLC 講義室5	悉皆: 7 自主: 3 名	4名
13	新規	総合的な学習の時間 特別活動 教科横断的内容 職能開発	楽しく学ぶ「グローバル＆国際理解教育」	楠本信治 特任教授	中・高等学校教員	8/1(水) 10:00～15:00	神戸HLC 講義室2	20 名	13名
14	継続	体育・保健体育	スポーツ科学の知見に基づく体育授業づくり	筒井茂喜 准教授	小・中学校教員	8/3(金) 9:30～12:00	神戸HLC 兵教ホール	15 名	20名
15	継続	学級運営・経営 教科横断的内容 児童生徒理解	わかる授業づくりのポイントを学ぼう ー生涯楽しく学び続ける教師であるためにー	吉國秀人 准教授 ※安河内功	小学校教員	8/4(土) 10:00～16:00	神戸HLC 兵教ホール	15 名	19名
16	継続	理科	やってみよう！楽しい理科の実験・実技 ー小学校の先生自身が楽しむ理科ー	笠原恵 准教授 ※山野井昭雄	小学校教員	8/5(日) 13:00～16:15	神戸HLC 講義室4・5	悉皆: 8 自主: 4 名	13名
17	新規	学校運営・経営 学級運営・経営 国語 社会 算数・数学 理科 生活 音楽 図画工作・美術 家庭 体育・保健体育 道徳 総合的な学習の時間 特別活動 情報 教科横断的内容 幼年教育	イェナプラン教育(オランダ)を学ぶ	溝邊和成 教授 奥村好美 講師 ※久保礼子 ※若木常佳	小学校教員 (幼稚園教員も可)	8/8(水) 10:00～15:30	神戸HLC 兵教ホール	30 名	27名
18	継続	学級運営・経営 児童生徒理解	心理学から考えるいじめのない学級づくり	秋光恵子 教授	現在、学級担任をしている 小・中・高等学校教員	8/10(金) 13:00～16:00	神戸HLC 兵教ホール	悉皆:10 自主: 5 名	12名
19	継続	職能開発	教師としての成長・発達について考える ー教職生活の中でマンネリズムやバーンアウトに陥らないためにー	別惣達二 教授 ※新井肇	小・中・高等学校教員	8/20(月) 9:30～17:00	神戸HLC 講義室5	20 名	14名
20	継続	部活動	部活動の指導と運営	森田啓之 准教授	主に中学校教員 (高等学校教員も可)	8/20(月) 13:30～16:40	神戸HLC 講義室4	20 名	10名
21	継続	理科	教員のための分子生物学 ー演習を通して理解を深めようー	笠原恵 准教授	高等学校生物教員、分 子生物学に関心のある 他校種教員	8/21(火) 10:00～15:00	神戸HLC 講義室1	12 名	11名
22	継続	学級運営・経営	教師のためのコミュニケーション論 ー子どもの声を受け止めるということー	太閤達也 准教授 ※浜中恵美子	小・中・高等学校教員	8/22(水) 10:00～16:00	神戸HLC 講義室5	15 名	13名
23	継続	図画工作・美術	陶芸美術館で考える美術の表現と鑑賞	浅海真弓 准教授	小・中学校教員	8/24(金) 13:30～16:30	兵庫陶芸美術館(篠山市)	16 名	16名

備考: 講師欄の下線は、講座実施責任者を示す。また「※」は、学外講師を示す。

合計 22講座 344 名程度 322名

93.6%

研修実施報告書

NO.1

「柔道が専門ではない先生のためのやさしい受け身と投げ技の指導」

○ 研修の背景やねらい

中学・高校の柔道授業は、「技が難しくて危険が伴うため、専門でないと指導が難しい」という意識が体育教員のなかに共有されている。そこで、単に、簡単で安全な指導という方法論だけではなく、「体育教員」が行う柔道の「学習内容」とは何かという問題にまで踏み込み、新しい学習指導要領に沿った運動学習としての安全な柔道授業のあり方を提案する。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：中・高等学校の体育担当教員

人 数：3人

期 間：平成30年7月26日（木）

会 場：兵庫教育大学加東キャンパス 体育棟トレーニング室

講 師：有山 篤利（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

柔道授業に関するステレオタイプの学習内容と指導法から脱却できるように、最新の研究結果を踏まえた理論と実技を組み合わせ配置した。実習においては、学習の系統性を踏まえて基礎的段階から応用段階へ発展できるよう配列を工夫した。また、約30分ごとに内容を整理して配置し、段階的に効率よく受講生の理解がはかれるよう工夫した。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
柔道授業の安全確保	約30分	柔道授業の基本的な留意点と安全確保について理解する。	<内容>導入を兼ねて現在の柔道授業の課題と安全性の問題を解説した。 <実施形態>講義 <使用教材>パワーポイント資料 <進め方>講師による解説 <留意点>要点を簡潔に説明する。
運動学習としての柔道指導と教具の活用	約30分	授業の導入教材として、よい運動指導のポイントを理解し、その要領を習得する。	<内容>従来の柔道指導法の欠点をあげ、教具を用いた体育学習としてふさわしい指導法を実習した。 <実施形態>実技実習 <使用教材>マット、パワーポイント資料、指導教具（投げ技マイスター） <進め方>講師による解説とペア学習 <留意点>運動感覚とコツの指導法に重点をおく
安全でやさしい受け身の指導	約30分	これまでの受け身に対する考え方の誤りを訂正し、実際的で安全な受け	<内容>従来の柔道指導法の欠点をあげ、教具を用いた体育学習としてふさわしい指導法を実習した。 <実施形態>実技実習

		身の指導法を習得する。	<使用教材>マット，パワーポイント資料，指導教具（投げ技マイスター） <進め方>講師による解説とペア学習 <留意点>教具の有効活用により安全性と効率性を確保する。
運動学を踏まえた投げ技の指導	約40分	従来のコーチング的な指導とは異なった，体育学習としての投げ技の理解と指導法を習得する。	<内容>投げ技の運動構造を理解し，専門でなくても容易な指導を実習した。 <実施形態>実技実習 <使用教材>マット，パワーポイント資料，指導教具（投げ技マイスター），ホワイトボード <進め方>講師による解説とペア学習 <留意点>教具の有効活用により運動構造の理解を図る。
これからの柔道授業の内容と構成	約25分	これまでの指導を踏まえて，新しい学習指導要領のもとで必要な柔道授業のあり方を理解する。	<内容>新しい学習指導要領と体育の動向を踏まえた柔道授業の学習構造やカリキュラム編成の考え方を解説した。 <実施形態>講義 <使用教材>パワーポイント資料，ホワイトボード <進め方>講師による解説 <留意点>体育という教科の現状と武道の独自性を的確に伝える。
体育理論としての柔道授業	約25分	柔道授業の体育理論的展開について理解する。	<内容>柔道の自国のスポーツ文化としての特徴とそれを学ぶ現代的意義について解説した。 <実施形態>講義 <使用教材>パワーポイント資料，ホワイトボード <進め方>講師による解説 <留意点>授業において，体育理論として展開できるように内容を精選する。

○ 実施上の留意事項

実技を伴うため，受講生の安全確保（休憩時間の確保，水分補給など）を第一に配慮した。また，柔道指導については，従来踏襲型の固定的な考え方が根強く，それが柔道を専門外としない体育教員の指導の困難さを生んでいたため，最新の研究知見をもとに，学習指導要領踏まえながら，競技スポーツとは区別された体育学習独自の内容と指導法を提示できるよう配慮した。

○ 研修の評価方法，評価結果

少人数の研修であったため，実技については主として参与観察による評価を行った。また，理論面の理解については，講義中の発問によりその理解度を評価した。

受講者の意欲は非常に高く，これまでにない新しい学習内容や指導法を柔軟に受け取れていた。実技の習得度及び理論の理解度は良好であったと判断する。

○ 研修実施上の課題

夏季の研修であったため、暑さ対策に苦慮した。本来であれば、柔道場において実施されるべき研修であるが、冷房設備がなく熱中症の危険性があったため、体育棟のトレーニング室においてマットを敷いての実施となった。そのため、大きな動きを伴う攻防、や高い位置からの投げ技などの実技は講習が不可能となり、研修内容に制限を設けねばならなかった。

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
次期学習指導要領改訂における技術科の新しい授業の方向性	10:30 ～11:30	次期学習指導要領の改訂の動向から、技術科の新しい授業の方向性を講義する。	<内容> ・次期学習指導要領改訂の動向 ・技術リテラシーの考え方とそれに向けた授業のあり方 <実施形態> 講義 <使用教材> PowerPoint資料 <進め方> PowerPointのスライドを用いて説明 <留意点> 技術科における新学習指導要領の改訂点をわかりやすく講義した。
 			
パソコンによるフルカラーLEDの	11:30 ～12:00	パソコンによる制御の方法についてその概要を知る。	<内容> USB-IO2.0を使用した計測制御学習基板の構成と動作 <実施形態> 講義

制御 1 (概要)			<使用教材> PowerPoint資料 <進め方> PowerPointのスライドを用いて説明 <留意点> 基板の特徴を分かりやすく説明した。
パソコンによるフルカラーLEDの制御 2 (製作とプログラミング演習)	13:00 -16:00	パソコンによる制御の方法について，プログラミング演習を通して理解する。	<内容> 計測制御学習基板の製作とプログラミング <実施形態> 講義・実習・演習 <使用教材> PowerPoint資料，オリジナル基板 <進め方> はんだ付けにより基板を製作した後，プログラミングを行った。 <留意点> プログラミングは一つ一つ確認しながら丁寧に指導した。
  			
まとめ-今後の実践に向けて-	16:00 -16:30		今後の実践の方向性、教材研究の視点についてディスカッション

○ 実施上の留意事項

一般参加に加え，西宮市技術・家庭科研究会との共催で実施した。

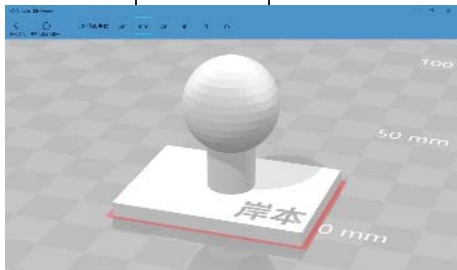
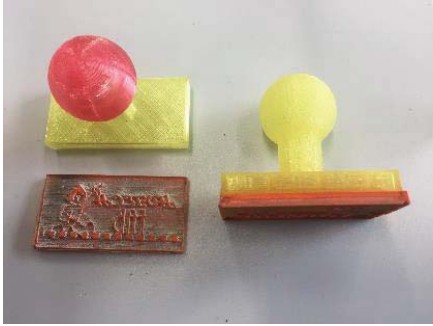
○ 研修の評価方法，評価結果

事後アンケートにおいて概ね良好な評価を得ることができた。

○ 研修実施上の課題

次年度に向けて，研修の内容，構成，テーマについて継続的に検討する必要がある。

#

			<進め方> PowerPointのスライドを用いて説明した後、3Dデータ作成演習及び3Dプリンタによる出力を実習した。 <留意点> 3Dデータの作成方法や3Dプリンタの出力方法を分かりやすく説明した。
レーザー加工の教材研究  	14:50 -16:00	レーザー加工の仕組みを理解し、レーザー加工機の活用方法について演習する。	<内容> レーザー加工の仕組み、2Dデータの作成、レーザー加工機による出力(ゴム印の作成) <実施形態> 講義、演習、実習 <使用教材> PowerPoint, レーザー加工機 <進め方> PowerPointによって2Dデータを作成し、レーザー加工機で出力した。 <留意点> レーザー加工用データの作成方法や出力方法を分かりやすく説明した。 
まとめ-今後の実践に向けて-	16:00 -16:30		今後の実践の方向性、教材研究の視点についてディスカッション

○ 実施上の留意事項

一般参加に加え、西宮市技術・家庭科研究会との共催で実施した。

○ 研修の評価方法、評価結果

事後アンケートにおいて概ね良好な評価を得ることができた。

○ 研修実施上の課題

次年度に向けて、研修の内容、構成、テーマについて継続的に検討する必要がある。レーザー加工機の水温上昇によってエラーが発生するトラブルが生じた。連続運用する場合の進め方について検討が必要である。

研修実施報告書

NO.4

「ワークショップ入門 ―協同的な学びと創造の新しいスタイル―

○ 研修の背景やねらい

近年、さまざまな分野においてワークショップと呼ばれる学びの手法が盛んに行われるようになった。学校教育においても、教員研修のみならず、授業にワークショップが取り入れられるケースも増えており、アクティブ・ラーニングの視点からも今後ますます注目されると思われる。ワークショップという学びを実り豊かなものにするためには、その背後にある新しい学習観を踏まえた上で、学びの場づくりやファシリテートの要点を、参加者としての学びの経験と付き合わせながら実感として理解することが有益である。本講座では、ワークショップにまだ慣れ親しんでいない初学者を対象に、受講者が参加者としてワークを経験し、気づきをふり返り、共有しながら、同時に企画・運営者、ファシリテーター側の視点も解説することにより、ワークショップという学びのスタイルの基本的な枠組を学ぶことを目的とする。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：学校種を問わない

人 数：21 人

期 間：平成 30 年 8 月 10 日（金）

会 場：兵庫教育大学加東キャンパス アクティブラーニングスタジオ

講 師：宮元 博章（兵庫教育大学大学院 准教授）

丸毛 幸太郎（NPO 法人 Co.to.hana コミュニティデザイナー）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

本研修講座そのものを 1 つのワークショップと見立て、種類の異なる 3 つのワーク（活動）とレクチャー（知識提供）から全体を構成した。初めは「関係づくり」のワークを行いアイスブレイクの的なゲーム活動を行いながらメンバー間の関係をつくる。次に、グループ内で 1 つのアイデアを生み出す創造的ワークを行う。その後、ワークショップに関する基礎知識と重要な考え方についての知識提供をレクチャーとして行った後で、知識と活動をつなぎながら今日の体験を振り返り、意味づける対話形式の振り返りセッションを行う。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
オープニング、およびアイスブレイクのワーク	2 時間	・研修講座の趣旨の確認とプログラムの流れの説明。 ・身体と言葉のほぐしと、参加者相互の関係づくりを兼ねたワーク。	<内容>趣旨説明と自己紹介（講師と参加者）の後、アイスブレイクのワーク <実施形態>全体で、適宜グループを組み替えつつインプロ（即興）ゲームを行う <進め方>身体を動かし、即興的に思いついた考えを自由に出し合って話を作り出していくようなゲーム活動を行う。ゲームの後で活動を振り返り、気づきを共有する。 <留意点>活動ごとにグループを組み替えて、できるだけ多くの相互作用を生み出す。ファシリテーターは参加者の様子を見ながら即興活動のレベルを調整し、参加者が徐々に、無理なく自由に表現できるように持っていく。

チームによる創造のワーク	1 時間 30 分	・非日常的な課題状況を設定し、チームで協働して商品を企画するというワークを行う。 ・自由に楽しい笑いに満ちたコミュニケーションの中でアイデアが創発する醍醐味を味わう。	<内容>「画期的な〇〇」をつくるという課題のもとで、チームでアイデアを出し合い、商品企画を行う。 <実施形態> 4～5名のグループによる話し合い活動 <進め方> まず「使えない〇〇」を個人で多数考えた後、グループでその「使えない」特性を生かしたまま工夫により商品化できそうなアイデアを考える。途中でグループメンバー入れ替えてアイデアを発展させた後で、再びチームに戻り商品企画を完成させ、発表する。その後でチーム内で振り返りをし、気づきを共有する。 <留意点> どんな奇抜なアイデアも一旦受け入れて可能性を考えていけるように、グランドルールを提示する。最初にファシリテーターが奇抜なアイデアを例示する。ワークシートや付箋紙などでアイデアの産出を支援する。活動中は極力介入しないようにする。
休憩＋レクチャー	60分	・ワークショップという学びのスタイルについて基礎的知識を提供する	<内容>ワークショップという活動の定義、歴史、背景思想、ワークショップの基本構成、ワークに含めるべき要素、ファシリテーションのポイント等について概説を行う <実施形態> 講義 <進め方> 1人の講師がパワーポイントを使いながら話す。パワーポイントのスライド資料と補助資料を配付し、受講者は椅子のみで聴く。 <留意点> 抽象的な話のみにならないよう、いくつかのワークショップの実例を写真やビデオで見せながら説明をする。
振り返りと学びの意味づけのための対話ワーク	60分	・ここまでのワーク体験と講義内容を統合し、対話を通じて、自分なりの学びを意味づけていく	<内容>「ワークショップで1人ひとりが参加し、協力して学びを生み出すために大切なことは何か」という問いを提示し、グループで対話を行う。その後で、個々人で振り返りシートに記入をし、1人ずつ発表して全員で共有し合う。 <実施形態> 対話と個人による振り返り <進め方> 対話は4人～5人のグループ（前のグループとは違うメンバーで構成）で行う。個々人の学びの振り返りのためには、シートを用意する。個々人が振り返りをシートに書き込んでいる間、モニターにここまでのワークショップの写真をスライドショーで呈示し続け、活動の様子を客観視しつつ振り返りの助けとする。 <留意点> この段階では、ファシリテーターからはほとんど介入的な発言を行わず、参加者たちが自分自身の言葉で学びを意味づけることを重視した。

講師による 意図開きと クロージン グ	30分	・講座（ワークショ ップ）の講師たちが ，今日の講座を企画 ・設計した経緯と， ここまでの当日フ ァシリテーション の行為意図などを 開示することで，企 画・運営者視点から の自身の体験のさ らなる意味づけを 促し，学びを深める 。	＜内容＞講師による，今日の講座自体の企画 ・コンセプトの設計・準備のプロセス（メイ キング）とファシリテーションの視点や場を 活性化する「しかけ」について解説する。 ＜実施形態＞講話
------------------------------	-----	--	---

○ 実施上の留意事項

上記の表中に記載済み。

○ 研修の評価方法，評価結果

①計画した内容を十分に行うことができたか。②実習中の受講者の取り組みについての観察，③受講者が記載した振り返り用紙の内容によって判断した。その結果，①については，昨年度の反省を踏まえ，事前に講師間で議論を重ね，活動やレクチャーの内容を再検討した上で，当日の参加者達の活動の様子を見ながら時間配分やプログラム内容を柔軟に調整したことで，活動の中での交流，レクチャー，振り返りと共有を行うことができた。②午前中にアイスブレイク的な活動をしっかりと行ったこともあり，その後の活動においても受講者は活動にコミットし，商品企画ワークでは柔軟なアイディアが飛び交っていた。③振り返りシートへの回答では，「ふだんの研修ではなかなか経験できない内容だったので面白かった」「これからは自分の中にある学校の固定観念を自ら崩していきたい」「学びの場づくりを意図的に増やす努力をしていきたい」「“違和感を楽しむ”というゆとりが大切」等，本講座のねらいにかなう感想が多く見られた。これらを総合的に評価して，本研修講座は成功だったと言えよう。

○ 研修実施上の課題

今年度は2年目であり，参加者の動きもある程度はイメージできていたので，全体としてはスムーズに展開できたが，むしろ，活動そのものは昨年度より枠にはまってしまったようにも感じられた。本講座はワークショップを行うこと自体が目的でなく，ワークショップの経験を通して旧来の学校教育の枠組みを問い直し，新しい学習観の意味づけを考えることに力点を置くが，1回、数時間の講座では，まだまだ現職教師の発想の殻は固く，十分ほぐれたとは言いがたい。「入門」講座のみならず，次のステップが必要であると痛感された。

研修実施報告書

NO.5

「顕微鏡による岩石の観察」

○ 研修の背景やねらい

中学校の理科の教科書で岩石の観察が扱われている。例えば、啓林館が発行する中学校理科 1 年生用の教科書には、玄武岩、安山岩、流紋岩、斑れい岩、せん緑岩、花こう岩の各資料の写真が掲載されている。

本講座では、偏光顕微鏡の扱い方を講義し、偏光顕微鏡による観察実習を行う。顕微鏡観察を行う岩石として、深成岩である花こう岩と火山岩である流紋岩を取り上げる。教科書が取り扱っている六種類の岩石すべてを詳しく扱うことは時間の関係で行えないが、玄武岩、安山岩、斑れい岩、せん緑岩についても簡単に触れる。

火成岩以外でも顕微鏡観察を行う方が理解を深めることができる岩石がある。本講座では、古生代の代表的示準化石であるフズリナを含む岩石（石灰岩）の顕微鏡観察も行う。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：中学校。経験年数は問わないが、偏光顕微鏡による岩石観察を行った経験のない人を対象とする。

人 数：6 人

期 間：平成 30 年 8 月 16 日（木）午後 1 時 10 分から午後 4 時 55 分

会 場：兵庫教育大学加東キャンパス 自然、生活健康棟 419 号室

講 師：澁江 靖弘（兵庫教育大学大学院 教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

1 コマ目：偏光顕微鏡の使い方

2 コマ目：花こう岩、流紋岩、石灰岩、安山岩、玄武岩、せん緑岩、斑れい岩の観察

研修対象者の項目で記したように、今回の研修は偏光顕微鏡を扱ったことのない人を対象にしている。そこで、実際に偏光顕微鏡を用いて、実習の中で偏光顕微鏡の構造や操作方法を習得する必要がある。今回の研修では、機器の操作に関する基本的な事項の習得を 1 コマ目の研修で目指した。

偏光顕微鏡の操作方法を習得した後で、実際に資料の観察を 2 コマ目で行った。「研修の背景やねらい」の項目で記したように、今回の研修では教科書に掲載されている岩石の顕微鏡観察を行った。偏光顕微鏡で岩石を観察すると様々な鉱物を偏光顕微鏡で観察することができる。単なる岩石の観察だけではなく、岩石中に含まれている鉱物の鑑定実習もあわせて行うことにした。取り上げた鉱物等は、石英、斜長石、黒雲母、白雲母、輝石である。さらに、フズリナを含む石灰岩の観察を行って、顕微鏡観察が火成岩以外の岩石についても有効であることへの理解が深まることを目指した。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
偏光顕微鏡の使い方	1コマ目	偏光顕微鏡の構造と操作方法を習得する。	<内容>偏光顕微鏡の構造と操作方法を習得するための実習 <実施形態>出席者一人につき一台の偏光顕微鏡を用意して、筆者が行う操作を見ながら出席者が自分の顕微鏡を操作する。 <使用教材>筆者が、今回の講座のために昨年度の講座で使用したものを改訂して作成したプリントを使用した。 <進め方>プリントに記した操作および観察方法を、筆者の演示を見た後で出席者が行う方式をとった。 <留意点>偏光顕微鏡を長時間使用すると目が疲れるので、1コマ目の途中で休憩を入れた。
花こう岩、流紋岩、安山岩、玄武岩、石灰岩の観察	2コマ目	花こう岩、流紋岩、安山岩、玄武岩と石灰岩のプレパラート（薄片）を観察する。	<内容>花こう岩と流紋岩のプレパラートを偏光顕微鏡で観察して、これらの岩石の特徴（等粒状組織と斑状組織）およびプレパラート中に含まれている鉱物の観察を行った。さらに、フズリナを含む石灰岩のプレパラートを偏光顕微鏡で観察して、古生代の代表的示準化石であるフズリナを観察するとともにプレパラート中に含まれている鉱物（方解石）の観察を行った。時間に少し余裕があったので、玄武岩、安山岩、斑れい岩、せん緑岩の観察を短時間ではあるが行った。 <実施形態> 出席者一人につき一台の偏光顕微鏡と花こう岩、流紋岩、玄武岩、安山岩、斑れい岩、せん緑岩、石灰岩のプレパラート各一枚を用意した。筆者の偏光顕微鏡中で見られる組織（花こう岩なら等粒状組織、流紋岩なら斑状組織）あるいは鉱物等（石英、斜長石、黒雲母、白雲母、輝石、フズリナ、方解石）を観察してもらった後、各自が自分の偏光顕微鏡でこれらの組織や鉱物等を観察した。 <使用教材>筆者が、今回の講座のために昨年度の講座で使用したものを改訂して作成したプリントを使用した。 <進め方>プリントに記した観察項目に関する筆者の演示を見た後で、出席者が自分の偏光顕微鏡で観察して確認した。 <留意点>偏光顕微鏡を長時間使用すると目が疲れるので、2コマ目の途中で休憩を入れた。

○ 実施上の留意事項

偏光顕微鏡を使用する場合、90 分間の研修では目に大きな負担がかかる。そこで、適宜、休憩時間をはさむ必要がある。

○ 研修の評価方法、評価結果

出席者が鉱物等を鑑定できているかどうかを評価した。

出席者 6 名全員が、鉱物等の鑑定ができるようになっていた。したがって、全員、評価は「極めて良好」である。

研修実施報告書

NO.7

「ここがポイント！音楽科における実技指導の工夫 ―歌唱、リコーダーを中心として―」

○ 研修の背景やねらい

音楽科をとりまく現場の実情として、校内研修で取り上げられる機会が少ないなどの理由から、音楽科担当教員の実技講習に対するニーズは高い。しかしその内容は、歌唱曲あるいは器楽曲を対象とした技術指導が主体であり、教材解釈の重要性や学年の系統性と実技指導との関連について触れられる機会は少ない。そのため、how-to（実用技術）に関する情報を求める教師が多い傾向がみられる。

本研修講座のねらいは、楽曲の構造に着目した教材研究のあり方について、講義を通して考察するとともに、演習においては、知識を伴う技能すなわち know-how を獲得するための実技指導の具体を学ぶことにある。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小学校教員

人 数：24 人

期 間：平成 30 年 8 月 20 日（月）

会 場：兵庫教育大学加東キャンパス

講 師：河邊 昭子（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

はじめに平成 29 年版小学校学習指導要領音楽科の目標と指導内容に触れた。次に、学習指導要領改訂の趣旨をふまえ、楽曲の構造に着目した教材研究の必要性を示し、楽曲分析の仕方を例示した。（45 分）

その後、曲ごとに楽曲の構造上の特徴を挙げながら実際に演奏して、実技指導のポイントを確認していった。前半に歌唱曲、後半にソプラノリコーダーの曲を取り上げた。（歌唱曲に 75 分、リコーダー曲に 100 分、まとめ 20 分）

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
歌唱分野の実技指導	2時間	- 音楽活動全般における歌唱活動の意義と役割を知る。 - 各歌唱曲の音楽的特徴を把握する。 - 歌唱指導の具体について学ぶ。	1 小学校学習指導要領音楽科の目標及び指導内容 2 音楽的感覚に基づく歌唱スキル獲得のプロセス 3 階名唱の意義 4 歌唱曲の楽曲分析と歌唱指導のステップ 5 実技指導のポイント ＜実施形態＞ 講義、演習 ＜使用教材＞ 《山のポルカ》 《ゆかいに歩けば》 《赤いやねの家》 《夢の世界を》 《地球はみんなのものなんだ》 《すてきな一歩》

			<進め方> レジュメに沿って講義を行った後、楽譜を提示して演習を行った。 <留意点> ・楽曲ごとに、音楽的要素や楽曲の構造上の特徴を解説し、実際に歌って確認するようにした。 ・受講者が意見を交流する時間を設けた。
ソプラノリコーダーの実技指導	2時間	・管楽器としてのリコーダーの特性を知る。 ・各曲の音楽的特徴を把握する。 ・リコーダー指導の具体について学ぶ。	<内容> 1 ブレスコントロールと基本的奏法 2 楽曲分析とリコーダー指導のステップ 3 実技指導のポイント 4 研修のまとめとしての演奏発表 <実施形態> 演習 <使用教材> 《レッツゴーソーレー》 《リコーダーメイト》 《雨の公園》 《星笛》 《上を向いて歩こう》 <進め方> レジュメに沿って講座の内容を示しつつ、楽譜を提示して演習を行った。 <留意点> ・楽曲ごとに、音楽的要素や楽曲の構造上の特徴を解説し、実際に演奏して確認するようにした。 ・最後に《上を向いて歩こう》のリコーダーアンサンブルを行い、研修で得た知見や習得した技能を自己評価する場を設けた。

○ 実施上の留意事項

- ・ 日常の授業等に活かすことができるよう、本研修で取り上げる曲については、教科書に掲載された曲や歌集から選定した。
- ・ 小学校における音楽科授業の映像を用い、指導場面を想起しやすいようにした。
- ・ 音楽専科教員だけでなく学級担任も参加していたことから、学級活動等で応用可能な実技指導の実践についても取り上げた。

○ 研修の評価方法、評価結果

各研修項目における実技の観察や演奏の内容から理解度及び習得度を評価した。全員が目標に到達したと評価した。

○ 研修実施上の課題

音楽的諸要素についての知識の獲得状況が受講者によって異なるため、資料を用意して解説を加えたが十分ではなかった。提示の仕方等について検討する必要がある。

#

			<留意点> 「授業リフレクション」という言葉や内容について初めて聞くことを前提に、その必要性ややり方について、具体例を交えながらできるだけわかりやすく解説する。
実習	2 時間 40分	「カード構造化法」を用いて、ペア毎に語り手と聴き手（プロンプタ）役を体験し、気づきを交流する。	<内容> カード構造化法の体験 <実施形態> 演習（ペアによる対話） <使用教材> ・配付資料（授業で用いられた資料） ・BD（授業場面ビデオ オリジナルに作成） ・カード、模造紙、鉛筆、ペン等の文具 <進め方> ①ビデオで視聴する授業についての概要説明 ②授業場面（35分）の視聴 ③ツリー図を作成 ④ペアによる対話（役割を交代して2回） ⑤ペアで気づきを語り合う <留意点> ツリー図作成時は全体を巡回し、手順に迷っている人には適宜助言を行う。考察中はあまり介入せず、ペア間の相互作用に任せる。
ビデオ視聴と振り返り	50分	明日行う予定の「自分の授業」の振り返りにつなげるための働きかけを行うと共に、本日の研修の振り返りを行った。	<内容> 授業リフレクション場面の視聴と振り返り <実施形態> ビデオ視聴と討論 <使用教材> ・配付資料（オリジナルに作成） ・カード構造化の産出物（オリジナル） ・授業リフレクション場面DVD（オリジナル） <進め方> ①実習材料に使った授業場面の授業者による授業リフレクションのツリー図を掲示し、授業者自身が授業リフレクションをしている場面をピックアップした映像（20分）を視聴。 ②ビデオを見ての感想や気づきについて、4人グループで討論。 <留意点> 今回学んだ授業リフレクションの技法を2日目の自己の授業リフレクションにつなげていけるように留意した。

2日目

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
実習パート 1	1 時間30 分	自分の授業を題材 にしたリフレクシ ョンのためのツリ ー図作り	<内容> 各自のツリー図の作成 <実施形態> 個人作業 <使用教材> カード、模造紙、鉛筆、ペン等の文具 <進め方> 作成手順は昨日の演習で経験しているので、各自 のペースで作成してもらった。 <留意点> 講師は質問には対応したが、介入は極力控えた。
実習パート 2	2 時間	ペアでの考察（語り ー聴き合い）1 時間 ずつ役割を交代	<内容> ペアによる考察（語りー聴き） <実施形態> 演習（ペアによる対話） <使用教材> 鉛筆、ペン等の文具 <進め方> ペアで対話によるリフレクションを行い、1 時間 ずつで交代した。 <留意点> 1 日目とは異なるペアで行った。講師 は、聴き方等について必要に応じて助言した。
振り返り	1 時間	4 人でグループを 作り 本日のリフ レクション体験に ついて振り返った 後、全体で個々人の シェア	<内容> 講座全体の振り返りと感想の共有 <実施形態> 演習（グループ討論） <使用教材> 振り返り用紙 <進め方> ① 4 人グループとなり、今日の授業リフレクシ ョン経験を振り返った。 ② 写真スライドショーにより、2 日間の講座全 体を振り返った。 ③ 個々人の学びと感想を用紙に記入してもらい それを発表して共有した。 ④ クロージング <留意点> 振り返りの視点となるような発問をこ ちらから提示した。

○ 実施上の留意事項

上記表中に記載済み

○ 研修の評価方法、評価結果

①計画した内容を十分に行うことができたか。②実習中の受講者の取り組みについての観察、③受講者が記載した振り返り用紙の内容によって判断した。その結果、①事前計画で焦点を「体験」に絞り込んで内容を構成し、時間に余裕を持たせてスケジュールを

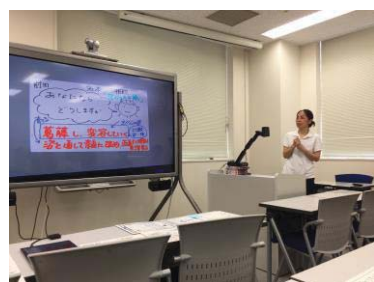
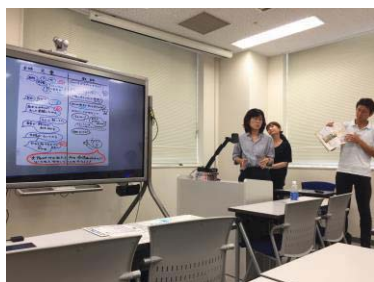
組んだため、十分に消化することができた。②実習のメインであるペアでの語り－聴きではみな集中し、かつ深い対話を行うことができた。③アンケート調査で受講者の満足度や理解度に関連する項目での評価は概ね肯定的であった。実習の最後に書いていただいた振り返りでも否定的なものはなく、「自分がこんなにも授業のことを語れるのだという事実にびっくりしました」「自分の授業観・子ども観をポジティブに振り返ることができた」「夢中で話していた語りの内容が模造紙に可視化されたことで客観的に見ることができた」等の成果が得られたようであった。これらからトータルに見て成功だったと言えよう。

○ 研修実施上の課題

本年度は、昨年度・一昨年度の高校教諭の研修パッケージが入らなかったため受講者数が激減した。2日間に渡る研修ということで参加を躊躇した人もいたと思われるし、今年度に関しては、開催時期の設定に誤算があったことも原因である（各地区の全体研修等が多く開催された時期であった）。開催も危ぶまれたが、少数ながら何とか開催でき、また会場のアクティブラーニングスペースの広さや室内環境のよさも相まって、少人数の参加者がゆったりとした環境で気持ちのよい対話を行えたように思われたことは、かえって幸いであったとも言える。研修の内容、進め方については過去8年の積み重ねがあり、完成度は高くなっていると思われるが、今後の課題は、校種別の内容の開発と、1日の研修で、内容レベルを落とさずに自分の授業を振り返りえる所まで持って行けるようなプログラムの工夫である。

#

<発表>



<作品例>

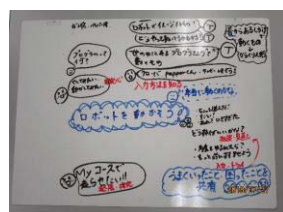
第1学年国語



第2学年国語



第6学年総合



○ 実施上の留意事項

参加者のニーズや得意分野が異なるため、グループ分けに注意を払うこと。

○ 研修の評価方法、評価結果（アンケート結果より）

- | | |
|---------------|------------|
| ・ 講座内容への理解 | 肯定的評価：100% |
| ・ 興味を引くもの | 肯定的評価：100% |
| ・ 準備教材の分かりやすさ | 肯定的評価：100% |
| ・ 実践に活かせる | 肯定的評価：100% |
| ・ 期待通りの内容 | 肯定的評価：100% |

<感想（自由記述）>

場所・時間・内容がちょうど良くていい勉強になりました。ありがとうございました。

指導案の作成の常識が変わりました。

今まで考えがひっくり返されたような感じがし、より子供のことを考えながら作成できる気がしてきました。作成しながらクラスの子供達の姿が思い浮かび、とても楽しく取り組むことができ、2学期から実践してみようと思いました。ありがとうございました。

上記にも書かせていただきましたが、ラーニングスケッチをすることで子供の思考が可視化できたこと、教科について改めて考えることが楽しかったです。自分ならこれなら出来そうだなと思いました。今後を活用していきたいと思いました。本日は一日ありがとうございました。

私自身とても勉強になりました。指導案の書き方を工夫することで、深く考え、参観者の方にも分かりやすいということが分かりました。

アクティブラーニングについてあまり分かっていない状態での受講でした。ですが、ラーニングスケッチは初めて知り、とても有効な手段だと思いました。自分の考えとつきたい力と子供の様子がうまく合致させられそうと感じました。

今までこのラーニングスケッチという方法を知りませんでした。指導案を書くとなるといつも堅苦しく考え、言葉も難しい言葉を使いと重く考えがちでしたが、このラーニングスケッチを使えば実際の授業のイメージもすごく膨らみ気軽に構想できるので、とても良いと思いました。自校に持ち帰って広めていけたらと思います。ありがとうございました。

○ 研修実施上の課題

具体的な授業・単元をイメージさせること

研修実施報告書

NO.10

「いじめなどのめごと問題への対応とその実際

ーピア・メディエーション（仲間による調停）の導入に視点をあててー」

○ 研修の背景やねらい

いじめ予防および人間関係の開発的観点から、民主的な話し合いによる問題解決力を高める「ピア・メディエーション（仲間による調停）」の理論と方法について、演習を通して学ぶ。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小・中・高等学校の担当教員

人 数：26 人

期 間：平成 30 年 7 月 27 日（金）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：池島 徳大（兵庫教育大学大学院 特任教授）

○ 各研修項目の配置の考え方

前半では、いじめ解決に必要な 5 つの介入視点をペア・ワークを取り入れながら研修する。後半では、いじめ予防および人間関係の開発的観点から、グループワークを取り入れ、欧米で広く行われるようになってきている、ピア・メディエーション技法の導入及びその実際について演習を通して学ぶ。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
いじめ解決に必要な 5 つの介入視点	1 時間半	いじめ解決に必要な 5 つの介入視点を、ペア・ワークを取り入れながら学ぶ。	内容：いじめの国際比較研究の知見を交えてわが国のいじめ問題の特質を浮き彫りにし、子どもの共同性意識が希薄化している現状と、その対応策について次の 5 つの介入視点をもとに検討する。①安心・表現・絆の形成 ②心の扉を開ける 3 つのプロセス ③ヴァルネラビリティの理解と支援 ④ピア・プレッシャーへの理解と対応 ⑤心を閉ざす応答、自省を促す応答 実施形態：講義とペア・ワーク 使用教材：自作パワーポイント資料 留意点：具体的な教育臨床事例をもとにペア・ワークを行い、モチベーションを高める。
ピア・メディエーション技法の導入とその実際	2 時間	ピア・メディエーション技法の導入及びその実際を、演習を通して学ぶ	内容：これまで比較的行われてきためごと問題の解決方法と、新しい考え方に基づく解決方法の違いを理解し、民主的な話し合いによる解決方法の一つとしてピア・メディエーション技法及び理論的根拠について次の 3 つの観点から知見を深める。①ピア・メディエーションに関する自作の DVD を視聴し、その導入の実際を知る ②ピア・メディエーション演習と振り返りを行う ③人間関係の修復を図る

			リストラティブ・ジャスティス（修復的正義）の考え方とその方法を学ぶ。 実施形態：講義とグループワーク 使用教材：自作DVDとパワーポイント資料 留意点：具体的なもめごと事例を提示し、ピア・メディエーションのグループワークを行う。もめごと問題の解決には、当事者が安心して自分の「言い分」を表現できる雰囲気をつくること、またメディエーターが一方的に解決策を提示するのではなく、当事者双方が問題解決の担い手となって解決策を提示し合い、納得解決が構築できるよう支援していくことが必要であることを、振り返り等を通して明確にしていく。
--	--	--	---

○ 実施上の留意事項

学校教育現場では子ども同士のささいなもめごと問題は日常的に起こっており、特に多忙感が漂う学校においては、その対応は教員の大きな負担となっているといつてよい。解決を急ぐあまり、教員の一方的な説諭や説得により解決が図られていることも少なくない。そのため教師の対応が高圧的あるいは威圧的な指導と受け止められ、教師の指導に不満感を抱かせ、その結果、子ども同士のもめごとが、教師対子ども、ひいては、教師対保護者との対立に変化し、新たな火種になっていくことも多く見受けられる。このような事態を避けるために、学校現場が抱える問題点を明確にし、教師の生徒指導力を高めることは極めて重要である。ささいなもめごととはいえ、発達途上の子どもにとっては重要な問題である。「対立問題が起こるのは自然なことである」という認識をきちんと持って、お互いの「言い分」を引き出し、対話を通して解決策を双方で考えさせ、一回りも二回りも大きく成長しようとする糧としていくことが、今日の教育に求められている「深い学び」そのものであるといえる。子ども同士で智慧を出し合って 解決策を自ら提案し「合意形成」を図っていく力を育成することは、生徒指導の究極のねらいとされる「自己指導能力」の育成に他ならない。

今、マスコミは体罰による指導問題などが盛んに取り上げられている。これまでのわが国の古い文化ないし精神的風土に浸かってきた者にとっては、本研修を通して、これまでにない異文化体験を経験するものと思われる。子どもたちが自分の「言い分」を安心して語ることができる関係性をつくること、教師が子どもの「言い分」を尊重し愛情をもって聞く姿勢を貫くことによって、子どもは「認められている自分」を受け止め、先生から「見捨てられていない自分」を確信し、その結果、自分の行動や行為を素直に振り返ろうとすることができるようになる。このような変化は、実際のピア・メディエーションのプロセスにおいてかなり見られる事象である。特に、トラブルメーカーと呼ばれる子どもたちの多くは、「どうせ、先生は僕の言うことなんかちっとも信じてくれない」などと教師に反抗している様子がよく見られるが、どの子どもたちも「Be respectful（敬意をもって）」関わってくれる人を求めていることを、是非研修会を通して学んでいただきたい願う。

○ 研修の評価方法、評価結果

実際のペア・ワークやグループワーク活動を通して、対話による問題解決の物の見方、考え方がよく分かり、実感できたとする評価が見られた。教育現場で意欲的に自信をもって積極的に関わろうとする実践意欲を評価することができた。

○ 研修実施上の課題

特になし

研修実施報告書

NO. 11

「思考力・表現力を育てる算数科授業づくり」

○ 研修の背景やねらい

算数科の学習指導においては、式だけでなく絵や図を用いて問題を解決し、クラスで考えを伝え合い深め合う授業が大切だと考えています。その際に、どのような子どもの力を育成する必要があるのか、それをどのようにして育てることが重要であるのか、具体的な教材をもとに講義・演習を行います。

○ 対象, 人数, 期間, 会場, 講師

対 象: 小学校教員

人 数: 29 人

期 間: 平成 30 年 7 月 30 日(月)

会 場: 兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス

講 師: 加藤 久恵 (兵庫教育大学大学院 准教授)

○ 各研修項目の配置の考え方(何をどの程度配置すべきと考えたか)

演習と講話を有機的に融合した研修を行う。具体的には、演習で教師が経験した数学的活動を踏まえて、研修の理論的側面を理解する研修の流れを意図している。

○ 各研修項目の内容, 実施形態(講義・演習・協議等), 時間数, 使用教材, 進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容, 形態, 使用教材, 進め方等
1. 説明	10分	参加者は, 本日の研修の概要とその進行について理解する。	研修の流れを説明するとともに, 参加者同士の交流をはかる。
2. 講話・演習①	45分	参加者は, 算数科の学習指導要領改訂の方向性と具体的な内容について理解する	下記について, 講義を行うとともに, 関連する演習を行う。 「算数科学習指導要領の改訂の方向性」 4人程度のグループで演習を受ける。
3. 講話・演習②	45分	参加者は, 算数科における思考力・表現力育成と, 数学的活動についての理論を学習するとともに, 具体例を通して理解を深める。	下記について, 講義を行うとともに, 関連する演習を行う。 「思考力・表現力の育成と 理解」 「数学的活動」 「学習内容の定着と理解の深化を目指した検索学習を取り入れた算数授業」

			その授業例として、「数直線」に関する数学的活動を行う。 4人程度のグループで演習を受ける。
4. 講話・演習③	45分	参加者は、思考力・表現力を育成する授業にむけた、教材研究の方法を具体例をもとに学習する。	思考力・表現力を育成する授業づくりと、教材研究の仕方について講義する。 小学校5年「単位量あたりの大きさ」単元を例に、教材研究を行う。
5. 講話④	10分	まとめ	全体をとおして注意すべき点等を振り返り、講義内容の定着をはかる。

○ 実施上の留意事項

- 研修の中で参加者の現状をききとりながら、参加者の興味関心・疑問等を踏まえた研修になるように工夫する。
- 3名から4名程度のグループで活動することで、参加者同士がお互いの意見交換を積極的に行い、それぞれの理解が深まるように工夫する。

○ 研修の評価方法、評価結果

アンケートを実施した結果、研修への希望を確認できたとともに、おおむね良好な評価結果となった。

○ 研修実施上の課題

教材研究の難しさとおもしろさを、研修の中で議論することができたことは、本研修の成果であった。その一方、参加者の中には、研修テーマと直接は関連しないが、算数科の学習指導について様々な課題をかかえていることがわかった。そのような実態を踏まえると、今後、算数学習に関する疑問点について議論する機会を研修の最後に設けることも必要ではないかと考えている。

研修実施報告書

NO.12

「子どもと学級をみる目を広げる」

○ 研修の背景やねらい

近年の学校現場では「子どもが理解できない」という声がしばしば聞かれる。児童・生徒に対する理解不足は学級経営や学習指導の効果を著しく阻害するものであり、児童・生徒理解は教師に不可欠なものである。児童・生徒に対する理解を深めるためには、まず教師自身が自らの「子どもをみる目」を客観的に理解することが重要である。なぜならば、教師に限らず人は誰でも「他者に対する自分の視点」には気が付きにくいものであり、児童・生徒をありのままに理解しているつもりでも、先入観や偏りのある見方によって彼らを評価している可能性があるからである。そこで本研修講座では、教師用RCRTという方法を用いて、自らの有している「子どもをみる目」を客観的に把握し理解する機会を参加者に提供する。

また、「子どもをみる目」を含め、教師の様々な技能は教員相互の交流を通して培われるものであろう。しかし、多忙を極める学校現場の中では相互交流の場が十分にあるとは言い難いのが現状である。そこで本研修講座では、教師用RCRTによって各自の「子どもをみる目」に気づかせたうえで、参加者相互のディスカッションの時間を十分に取るものとする。さらに教師用RCRTを自身の教育実践に活用している現職教師を講師に迎え、「子どもをみる目」を学級経営にどう活かすかといった具体的な助言も提供する。これらのことを通して、参加者自身の教師としての「子どもをみる目」を広げ、実践につなげるヒントを得てもらいたいと考える。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：学級担任経験のある小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員

人 数：4名

期 間：平成30年7月31日（火）、8月2日（木）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：秋光 恵子（兵庫教育大学大学院 教授）

石井 真理（明石市立藤江学校 教諭）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

上記のねらいにあるように、本研修講座の目的は教師用RCRTという方法を用いて参加者自身に自らの「子どもの対する視点」を客観的に把握させ、参加者相互およびベテラン教員の学級経営の実践を知り、それらを学級経営に活かす手立てを考えてもらうことにある。そこで2日間の研修講座の最初にグループワークを取り入れながら他者認知の一般的傾向を踏まえて子どもに対する教師の視点の特徴を理解するための講義を行ない、初日の午後に教師用RCRTを実施した。2日目には午前中に教師用RCRTの個別結果をフィードバックし、午後からはその結果を元に、参加者各自の学級経営の課題分析と今後の取り組みについて参加者相互と講師のベテラン教員の討論を中心に検討した。なお結果のフィードバックを2日目に行うのは、参加者ごとの統計的分析と個別のフィードバック用紙の作成に時間を要するためである。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等），時間数，使用教材，進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
講義 1	120分 (1日目午前)	他者認知の不正確さや曖昧さについての心理学的な知識を習得し、子どもに対する偏った見方の可能性に気付く。	①オリエンテーション：講師と研修講座の進め方を紹介する。 ②アイスブレーキング：参加者の自己紹介を行ない、2日目の討論を活発にするための下地を作る。 ③視覚的な資料を用いて心理学的知見を紹介しながら、他者認知の不正確さや曖昧さについて解説する。
演習 1	120分 (1日目午後)	担任する学級の子どもに対する自分の視点を把握する。	教師用 R C R T の実施への動機づけを高めるために、冒頭の20分程度を使って、これを通して何がわかるのか、またそれが今後の教育実践にどのように生かされるのかについて、学外講師が自身の体験例を紹介して説明する。
講義 2	30分 (2日目午前)		参加者各自のペースに合わせて、教師用 R C R T を個別に実施する。
演習 2	90分 (2日目午前)		視覚的な資料を用いて教師用 R C R T の解説を行なう。
討論	120分 (2日目午後)	子どもに対する自分の視点と学級経営について考える。	教師用 R C R T の個別結果をフィードバックし、結果の解釈を行なう。研修参加者の個別の作業に並行して、講師は机間巡視をしながらコンサルテーションを行なう。
			教師用 R C R T の結果を参照しながら、各自の学級経営の課題分析と今後の取り組みについて検討する。参加者相互および講師との討論を中心に進行する。

○ 実施上の留意事項

教師用 R C R T の作業スピードには参加者ごとに大きな違いがある。そこでこのセッションを初日の午後におくことで時間調整を行なう。

○ 研修の評価方法、評価結果

参加者による事後アンケートによって評価を行った。各評価項目の平均値（4 点満点）は「内容は受講の動機に合っていた」「講義や指導は興味をひくものだった」「全体として期待通りだった」では 4.0, 「教育実践に生かせる内容だった」については 3.8 であった。また、自由記述欄には複数の受講者から『有意義であった』との記述があり、全体として本研修講座は高い評価を得たと考える。

○ 研修実施上の課題

上記のように本研修講座に対する全体的な満足度は高かったが、「自分の理解・技術を確認する機会になった」「教材はわかりやすかった」についての評価は 3.5 であり、改善の余地がある。個別にフィードバックした結果を二学期からの実践につなげる討論ができるよう、さらに考えたいと思う。

#

		また、2001年版との比較から、この15年間の変化について考える。	<使用教材> 『ワークショップ版：第5版』 (開発教育協会) <進め方> クイズ形式で回答させた後、世界を一つにする際の課題について「ダイヤモンド・ランキング」を作成させ、グループ討論してから発表させ、まとめを行った。 <留意点> 「ダイヤモンド・ランキング」では、結果ではなく討論過程を大切にさせた。
アイスブレイク	10分	昼食後の眠気を解消する。	全員で順番に1から30まで数える。まず、5と5の倍数のところで”buzz”と言う。次に7と7の倍数のところで”fizz”と言う。
演習Ⅲ	60分	日本代表を考えることで、自分の中の差別心に気づかせ、多文化共生について考える。	<内容> 「日本代表チームを考えよう！」 <実施形態> 3～4人のグループワーク <使用教材> 『18歳選挙権と市民教育ハンドブック』 (開発教育協会) <進め方> 様々なスポーツの日本代表について考えた後、日本代表の条件について「ダイヤモンド・ランキング」を作成させ、グループ討論、発表、まとめを行った。 <留意点> 演習Ⅱと同様。
講義	40分	「国際化」と「グローバル化」の違い、「グローバル人材」「グローバル教育」とは何かについて考える。	<内容> 「グローバル教育」「国際理解教育」「国際交流」等について <実施形態> 講義 <使用教材> 資料を使って解説した。 <進め方> 講義をしながら、自由に意見を求めた。 <留意点> こちらが一方的に解説するのではなく、各テーマについて意見を求めた。
質疑応答・アンケート	10分	今日の研修を振り返る。	質疑応答を行いながら、アンケートに記入してもらう。

○ 実施上の留意事項

講義中心ではなく、受講者が積極的に取り組めるよう、討論・発表を中心とするアクティブ・ラーニングを心掛けた。

○ 研修の評価方法、評価結果

事後アンケートを実施したが、5段階・記述とも概ね好評だった。

○ 研修実施上の課題

事前に研修、特に演習内容の詳細を伝えられるような工夫が必要だと感じた。

研修実施報告書

NO.14

「スポーツ科学の知見に基づく体育授業づくり」

○ 研修の背景やねらい

体育では、自分の経験に基づいて指導を行っている教師が散見され、このような状況が児童・生徒の躓きを助長している一つの要因と指摘されている。

そこで、スポーツ科学に知見を根拠にした科学的な指導法の一端を学ぶことで、自分の経験に頼らない指導の重要性を再認識するとともに、そのような指導を考える方法を学ぶ。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小・中（保健体育教員）

人 数：19 人

期 間：平成 30 年 8 月 3 日（金）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：筒井 茂喜（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

具体的な事例を対象に、運動諸科学の知見を用いた指導法について考究した。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
・スポーツ科学と授業づくりについて（講義） ・スポーツ科学の知見に基づく体育授業づくりについて－短距離走を事例に－（講義・演習）	70分	・体育授業づくりとスポーツ科学との関係を理解する。 ・スポーツバイオメカニクスの知見をもとに、短距離走における合理的な身体の動かし方およびその技術を身につける指導法を考える。	・体育授業づくりと体育科教育学、内容学との関連 ・走るとはどういうことか。 ・走るためのエネルギーはどのようにして得ているのか。 ・大きなエネルギーを発生させ、そのエネルギーを効率よく重心の水平移動に使うにはどのような身体動作を行えばよいのか。 ・その身体動作を身につけるには、どのような指導法が考えられるのか。
・スポーツ科学の知見に基づく体育授業づくりについて－短距離走を事例に－（講義・演習）	60分	・スポーツバイオメカニクスの知見をもとに、走り高跳び、走り幅跳びにおける合理的な身体の動かし方およびその技術を身につける指導法を考える。	・跳ぶとはどういうことか。 ・跳ぶためのエネルギーはどのようにして得ているのか。 ・大きなエネルギーを発生させ、そのエネルギーを効率よく重心の垂直移動に使うにはどのような身体動作を行えばよいのか。 ・その身体動作を身につけるには、どのような指導法が考えられるのか。

○ **実施上の留意事項**

討論がしやすいように机をコの字型にするなどの工夫が必要であったが、会場の関係で難しかった。

○ **研修の評価方法、評価結果**

所定のアンケート結果は高評価だった。ただ、一部の受講生からは、陸上に関する知識不足があり、よく理解できない内容があったと指摘された。今後は、講義をより丁寧に行う必要があると考える。

○ **研修実施上の課題**

集中講義の関係兵教ホールでの実施になったが、討論形式で行う場合、あまり適していない会場であった。

来年度からは、集中講義の関係で講義室に空きがない場合は、実施日を変更したほうがよいと考える。

研修実施報告書

NO.15

「わかる授業づくりのポイントを学ぼう ー生涯楽しく学び続ける教師であるためにー」

○ 研修の背景やねらい

本研修は、元岡山県教員を学外講師として招き、本学教員と協働で実施できるよう計画した。研修では、①子どもの言い分に耳を傾けて授業が創造できる教師、②保護者らとも連携しながら教育実践ができる教師、③生涯学び続ける教師、このような確固たる教師観と実践につながる知識が獲得できることを、主たるねらいとした。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小学校教員

人 数：19人

期 間：平成30年8月4日（土）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：吉國 秀人（兵庫教育大学大学院 准教授）

安河内 功（元教諭）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

全ての研修項目は、学外講師と大学教員とが協働して実施できるように配置されていた。また、講義形式の研修は必要最小限に留め、具体的な教材を活用した実習形式の研修がどの研修項目にも取り入れられるよう工夫した。

研修当日の流れは、以下の順となるように計画した。

- （1）研修全体の流れと研修のねらいについての解説を行う。次に、学外講師についての紹介とともに、参加者の簡単な自己紹介を行う。
- （2）「子どもの学ぶ意欲を引き出す授業が創れる教師とはどのような教師か」、について、具体的な教材を提示・活用しながら考察する。
- （3）「保護者らとも連携しながら教育実践ができる教師とはどのような教師か」「子どもたちに学び、生涯学び続けられる教師とはどのような教師か」について、具体的な教材を提示・活用しながら考察する。
- （4）研修全体のふりかえりを行い、参加者との質疑応答を行う。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
1. 研修全体の趣旨説明と自己紹介の後、子どもの学ぶ意欲を引き出す授業が創れる教師についての考察（前半）を行う。	60～70分	子どもの言い分に耳を傾けて授業を創造するための具体的な教材や関連する実践事例についての知識を、実習を通して獲得すること。	<内容> 1. 講義概要&講師の紹介 2. 講師&参加者の自己紹介 3. 国語の援助の工夫 ◎漢字学習 4. 算数の援助の工夫(1) 実習1 くり上がり・くり下がり下敷きを活用して計算してみよう <実施形態>講義&実習形式で実施した。 <進め方>学外講師と教員が協働して実施。 <留意点>講師と参加者との対話を大事にしながら研修が行えるように心がけた。
			<内容> 5. 算数の援助の工夫(2)

2. 子どもの学ぶ意欲を引き出す授業が創れる教師についての考察（後半）を行う。	60～70分	子どもの言い分に耳を傾けて授業を創造するための具体的な教材や関連する実践事例についての知識を獲得すること。	実習2 割り算の下敷きを活用して計算してみよう。 ◎角度を活用した分数指導の工夫 6. 総合的な学習の時間における援助の工夫 (1) ◎逆立ちゴマの不思議にせまろう。 ◎浮かべてみよう、飛ばしてみよう。 実習3 ストローを利用して、発砲スチロール球を浮かそう。 ◎鏡を使って、絵をのぞいてみよう。
3. 保護者らとも連携しながら教育実践ができる教師について、及び子どもたちに学び、生涯学び続けられる教師についての考察を行う。	140～160分	(1) 保護者らとも連携しながら教育実践を行うための具体的な工夫や関連する実践例についての知識を獲得すること。(2) 子どもたちに学び、生涯学び続ける教師を目指すための工夫や関連する実践例についての知識を獲得すること。	8. 学級通信を活用した児童&保護者との対話の工夫 (1)「はしりもの、かわりだね」の活動を続けよう。 実習4「はしりもの、かわりだね」を採取して発表しよう。ーオリーブの実、エノコログサなど、ヤシの木の皮、シロツメクサなどー (2) 植物研究者の牧野富太郎とは。 8. 生活科&理科の援助の工夫を考えよう (1) ◎音の学習 実習5 よく鳴る笛作り。 9. 総合的な学習の時間における援助の工夫 (2) 実習6 よく回るコマ作り。 10. 図工の授業での援助の工夫を考えよう (1) 自画像を描いてみる実践と子どもたちの作品紹介。 実習7 カーボン紙を利用して描こう。 11. 生活科&理科の援助の工夫を考えよう (2) 動物の形とくらしをどう教えるか。 ◎ウニの体の形とは ◎ヒトデの体の形とは 実習8 実物大ティラノサウルス図を広げて恐竜の大きさを実感しよう。 12. 社会科の授業における援助の工夫 ◎大名行列絵巻物を活用して「参勤交代」を教えよう。 13. 生活科&理科の援助の工夫を考えよう (3) ◎植物の「花とタネ」をどう教えるか。 実習9 サルスベリの花, シマトネリコの実ニワウルシの実, 桃の実を観察しよう。めしべの跡を探してみよう。 14. 総合的な学習の時間における援助の工夫 (3) 実習10 籐のカゴを編んでみよう。 15. 講座全体のふりかえり

			<実施形態>実習形式で実施。
--	--	--	----------------

使用教材（テキスト）：極地方式研究会テキスト「花とタネ」「かわりだね・はしりもの」「恐竜」。

○ 実施上の留意事項

学外講師と教員が、事前に話し合いを行い、研修全体の流れや方法について共通理解を図った。当日は、講師と参加者との対話を大事にしながら研修を行うよう心がけた。

○ 研修の評価方法、評価結果

事務局が準備して下さった評価アンケートにより、評価結果は概ね良好だったといえる。

○ 研修実施上の課題

講師が教材を事前準備する負担量も考慮し、実習形式の取り入れ方を再検討することが、今後の課題である。

研 修 実 施 報 告 書

NO.16

「やってみよう！楽しい理科の実験・実技 ー小学校の先生自身が楽しむ理科ー」

○ 研修の背景やねらい

小学校での教科担任制の導入に伴い、理科を担当しない先生が増えている。しかし、すべての小学校で導入できている訳ではなく、理科を教えないといけない状況におかれる先生方も多い。そんな中で、先生自身が理科嫌いであれば、子どもにうまく指導できるとは考えにくい。先生自らが理科好きになることが、スタート点である。そこで、科学クラブや授業の発展として応用できる理科の実験・実技を通して、理科が苦手な先生、もっと楽しい理科をやってみたい先生に理科の魅力を感じてもらい、理科の指導法を考えることを目的とした。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小学校教員

人 数：12 人

期 間：平成 30 年 8 月 5 日（日）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：笠原 恵 （兵庫教育大学大学院 准教授）

山野井 昭雄（明石市立錦浦小学校 教頭）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

小学校理科授業の発展として応用できる実験や科学クラブで行う実験を取り上げ、まず教員自身が実験を行い、実際に体験することを第一とした。子どもの立場にたった感覚で体験しながら、その実験の原理、実験技法の要点、指導法についての知識を深めるように組み立てた。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
講義・実験	3時間	授業での発展的な実験および科学クラブでの実験を行い、その実践方法について学ぶ。	<内容>以下の4つの課題を行った。 1. ヒトの視覚について 盲点、錯覚による見え方の違い 3Dドラゴンの作製 2. 簡易プラネタリウムを使った観察法について 3. 海藻の生体防御機構について カラー人工イクラの作製 4. 漂砂鉱床から宝石を取り出そう 漂砂鉱床からのガーネット・黄鉄鉱探し <実施形態>講義・実験

			<使用教材>自作プリント，人工イクラ，簡易プラネタリウム，漂砂鉤床より採集してきた砂など <進め方>受講生の希望および経験などを考慮しながら，最初に各実験の原理の説明を行い，実験を行った。その後，各実験の指導の要点，実践例を交えて解説を行った。 <留意点>指導の要点，実践する場合の安全面での注意点，教育現場での実践例などについて，解説を加えながら行った。
--	--	--	---

○ 実施上の留意事項

- ・研修しても教育現場で実践できなければ学んだ意義が薄くなるため，特別な環境・道具がないとできないような内容は取り扱わないように留意した。
- ・研修で学んだことは，新学期にも実践する可能性がある。そのため，単に技術を教えるのではなく，その際に留意すべき事項，児童が自宅に持ち帰った場合についての留意事項まで，伝えるようにした。
- ・参加した教員が技術などを修得するまで，何度も繰り返し実験を行った。

○ 研修の評価方法，評価結果

- ・研修後のアンケート調査によると概ね好評であったと思われる。
- ・自主研修で来られた先生はとても熱心に取り組んでいた。このように自主研修の受け入れ枠を設けたことは意義があったと思われる。
- ・受講者のほとんどが 10 年研修での参加であったが，どの内容も経験していた人は少なく，意欲的に取り組んでいた。
- ・教育現場での実践経験に基づいた解説が好評であった。

○ 研修実施上の課題

- ・今年度は昨年度の課題を見直し，10 年研修以外の先生も参加できるように，枠を設けて募集が行えたことはとてもよかった。次年度も同様にしたい。
- ・プラネタリウム投影のため，窓のない部屋を予約するのを忘れていたが，事務の方に臨機応変に対応していただいた。
- ・少し解説に時間がとられて，体験する時間が短いと感じたところもあったため，もう少し話の内容を精選したい。

NO.17

「 イエナプラン教育（オランダ）を学ぶ 」

ドイツで始まりオランダで広がっているイエナプラン教育について、基礎的内容を中心としたレクチャーとともにグループワークなどの演習を交えながら学修する。

対 象：小学校教員（幼稚園教員も可）

人 数：27人

期 間：平成30年8月8日（水）10時～15時30分

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス 兵教ホール

講 師：溝邊 和成（兵庫教育大学大学院 教授）

奥村 好美（兵庫教育大学大学院 講師）

久保 礼子（日本イエナプラン教育協会 代表理事）

若木 常佳（福岡教育大学 教授）

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
イエナプラン教育とは	120分	イエナプラン教育について学ぶ	<内容> ガイダンス（溝邊） オランダ・イエナプラン教育の概要（奥村） 日本イエナプラン教育協会の取り組み紹介（久保） イエナプラン教育の可能性と課題（若木） <実施形態>講義形式 <使用教材>大型モニター <進め方>講師によるプレゼンテーション <留意点>説明を簡潔に行うとともに、具体的事例を示しわかりやすくする。



グループワーク作成	90分	グループごとに授業計画を作成する	<内容> グループ作り（マルチインテリジェンスによる編成） ワールドオリエンテーションの学習計画作成 <実施形態>演習形式 <使用教材>ホワイトボード等 <進め方>グループになって、学習計画を作成する。 <留意点>プレゼンができるように作品化する。
-----------	-----	------------------	---

			
学習計画の発表	45分	作品を発表する	<内容> 学習計画を発表する。 <実施形態>発表形式 <使用教材>大型モニター <進め方>グループ代表者が発表する。 <留意点>全グループのプレゼンができるようにする。
			
修了書授与・アンケート	15分	修了書を渡す。アンケートに回答する。	全体のまとめを行い、修了書を渡す。 アンケートに感想をまとめる。

○ 実施上の留意事項

小・中学校の現職教員も多く混ざるため、グループ分けに注意を払うこと。

○ 研修の評価方法，評価結果

アンケート結果より

- | | |
|---------------|-------------|
| ・ 講座内容への理解 | 肯定的評価：92.6% |
| ・ 興味を引くもの | 肯定的評価：92.6% |
| ・ 準備教材の分かりやすさ | 肯定的評価：88.8% |
| ・ 実践に活かせる | 肯定的評価：96.3% |
| ・ 期待通りの内容 | 肯定的評価：92.6% |

○ 研修実施上の課題

すでに、イェナプラン教育に関する書籍に目を通していている教員とそうではない教員とを事前に把握しておく必要がある。また、具体的な授業・単元や1年間のテーマ、現代的課題等をイメージさせること

研 修 実 施 報 告 書

NO.18

「心理学から考えるいじめのない学級づくり」

○ 研修の背景やねらい

学級は児童生徒の学校生活の土台であり、児童生徒が気持ちよく過ごすことのできる学級づくりに関心のない教師はいないであろう。しかし、児童生徒の居場所であるはずの学級が混乱する事態や、児童生徒同士のいじめが皆無ではないのも現実である。日々、居心地の良い学級づくりに向けた取り組みをしても、すべての児童生徒が喜んで登校してくる学級にするのは容易ではないと思われる。自身の取り組みや学級経営に迷いや悩みを感じ、見直したいと考えている教師は多いのではないだろうか。

そこでこの研修は、これまでの実践に心理学的な視点からの知見を重ねて、自身の取り組みを見直すきっかけとしてもらうよう計画した。講義とディスカッションを通して、二学期からすぐに実践できる学級づくりの工夫について考え、その具体的な手がかりを見つけてもらうことが、この研修の目的である。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：自身の学級経営の見直しに関心のある小学校、中学校、高等学校の教員

人 数：12 名

期 間：平成 30 年 8 月 10 日（金）13：00～16：00

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：秋光 恵子（兵庫教育大学大学院 教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

研修の前半では心理学的な調査研究の成果を紹介しながら、いじめ未然防止につながるような教師の働きかけ、学級の状態、伸ばすべき子どもの資質能力等についての講義を行う。また後半では、調査研究からの示唆をヒントに、参加者相互のディスカッションを通して自身の実践例を見直し、自身の学級において二学期からどのような取り組みができるかについて考える。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
講義 1	100分	①いじめのない学級につなげるために、児童生徒と学級に育みたい資質能力について学ぶ。 ②いじめのない学級づくりのために教師がとるべき指導行動について知る。	①オリエンテーション：講師と研修講座の進め方を紹介する。 ②視覚的な資料を用いて、いじめ未然防止に関わる最新の心理学的知見を紹介・解説する。
演習 1	40分	兵庫県が提供する「いじめ未然防止プログラム」の概要について理解する	Webページおよび配布資料を用いて、兵庫県心の教育総合センターが開発した「いじめ未然防止プログラム」を紹介する。

討論	40分	いじめのない学級づくりに向けて、自身の取り組みについて考える。	①学校種ごと編成されたグループで、サンプルデータに基づいて必要な支援・取り組みを検討する。 ②今までの自身の実践を参加者相互で意見交換しつつ、二学期からの取り組みについて考える。
----	-----	---------------------------------	--

○ 実施上の留意事項

参加者は小学校（低学年，中学年，高学年）および高校教員であったため，自身と同じ立場のメンバーとなるようグループ構成し，子どもの発達段階に応じたいじめ対応と学級経営について考えることができるように配慮した。

○ 研修の評価方法，評価結果

参加者による事後アンケートによって評価を行った。各評価項目の平均値（4 点満点）は「内容は受講の動機に合っていた」「全体として期待通りだった」については 3.7，「講義や指導は興味をひくものだった」「教育実践に生かせる内容だった」については 3.8，「自分の理解や技術を確認する機会になった」については 3.9 であった。また，自由記述では『良い意味で自分の学級経営を反省した』『さっそくデータを使ってみたい』『あつという間の 3 時間だった』等の記述があり，全体として本研修講座に対しては十分な評価を得たと考える。

○ 研修実施上の課題

本研修講座は今年度が 2 回目の実施であり，昨年度は演習・討論に十分な時間がとれなかった反省を踏まえて，資料を一新した。その結果，昨年度以上の高評価となり，参加者のニーズにより近い研修を提供することができたと考える。それでも，討論後の振り返りでは“「これから」というところで時間切れとなり残念だった”という声もあったので，限られた時間内でより充実した研修となるよう，さらに内容を検討したい。

研修実施報告書

NO.19

「教師としての成長・発達について考える

－教職生活の中でマンネリズムやバーンアウトに陥らないために－

○ 研修の背景やねらい

グローバル化や情報化，少子高齢化など社会の急激な変化に伴い，学校教育や教師もまた高度化，複雑化する教育ニーズや教育課題への対応を余儀なくされている。例えば，子どもの学力問題，いじめや不登校，校内暴力等の生徒指導上の問題，保護者や地域社会との連携，学校内での同僚教師との協力関係の構築など枚挙にいとまがない。その一方で，学校教育における知の社会的価値の低下，教師の社会的地位の低下等の社会的問題が叫ばれる中で，教師は教職生涯全体を通じて様々な危機を乗り越え，職務上の役割遂行のために絶えず成長・発達を遂げていかなければならない。

そこで本講座では，教育専門職として成長するために必要な資質能力とは何かを問い直し，いかにして教師は成長・発達を遂げるべきなのか，また，教師の成長・発達における危機をどう乗り越えるのかについて受講生とともに考えることをねらいとする。

○ 対象，人数，期間，会場，講師

対 象：小・中・高等学校の教員

人 数：14 人

期 間：平成 30 年 8 月 20 日（月）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：別惣 淳二（兵庫教育大学大学院 教授）

新井 肇（関西外国語大学 教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

教師としての成長・発達を考える上で，どのように資質能力や専門性を伸長させるべきなのかを考える必要がある。そのため，前半はその概念的，理論的理解を促すために今日教育改革と教師に求められる資質能力を説明し，学び続ける教師像の実現に向けて教師の省察の重要性と省察プロセスを促す同僚性とメンタリングについて講義を行う。後半は教員の成長・発達における危機をどのように乗り越えていくのかを考えるために，バーンアウト症候群をキーワードにして実証データに基づいた理論的理解を深めるとともに，同僚性や協働性に関係した演習を行う。

○ 各研修項目の内容，実施形態（講義・演習・協議等），時間数，使用教材，進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容，形態，使用教材，進め方等
教員の成長・発達に必要な資質能力形成について	3時間	教師として成長するために必要な資質能力とは何かを問い直し，いかにして教師はマンネリズムに陥らずに成長・発達を遂げるべきかについて理解する。	<内容> ・教師を取り巻く教育改革と教師に求められる資質能力 ・学び続けるための教師の省察 ・教師の省察プロセスを促す同僚性とメンタリング <実施形態> 講義 <使用教材> 配付資料

			<進め方> ・配布資料に基づき，講義形式で進める。 ・内容によっては，受講生に話し合いをさせ発表させる。 <留意点> ・できる限り教員が直面する問題状況を取りあげながら説明する。 ・概念的，理論的な内容を取り扱うため，できる限り平易な言葉を使う必要がある。
教師のメンタルヘルスについて考える―燃え尽きる前にどう支え合おうか―	3時間30分		<内容> ・深刻化する教員のメンタルヘルス ・教員のバーンアウトの背景 ・バーンアウトへの対処方法 <実施形態> 講義・演習 <使用教材> パワーポイントと配付資料 <進め方> パワーポイントを用いて講義形式で進める。 時々内容によってグループになって演習を行う。 <留意点> ・講師のこれまでの教職体験を事例に挙げながら受講生に分かりやすく説明する。 ・前半の講義との繋がりを意識して説明する。

○ 実施上の留意事項

- ・午前の講義内容をわかりやすく簡潔にする。
- ・学校現場での具体事例を取り入れて説明する。
- ・時間を確保し，ゆとりのある中で講座を展開する。

○ 研修の評価方法，評価結果

- ・受講者のアンケート調査，そして受講者の反応などから自己評価を行った。
- ・受講生のアンケート調査からは，概ね良好な評価を得た。特に，後半のバーンアウトの研修内容について高い評価が得られた。しかし，一人の受講生から，集中力が続かないので研修の開講時間を短くしてほしいという要望が出された。

○ 研修実施上の課題

- ・受講者のアンケート調査において、「研修講座全体の開講時間は適切だと思いましたか」について、1人が「あまりそう思わない」と回答していた。受講生の集中力が続くように開講時間を設定することが今後の課題である。

研修実施報告書

NO.20

「部活動の指導と運営」

○ 研修の背景やねらい

様々な点で、部活動の指導のありかたが改めて問われている。しかしながら、現職教員に対して、部活動の指導や運営について十分な理解を図る機会はありません。そこで、本研修では「学校教育における部活動の位置付け」を再考しながら、その望ましいありかたについて考えようとした。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：中学校の部活動顧問教員（高校教員も数名）

人 数：11人

期 間：平成30年8月20日（月）13：30～16：40

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：森田 啓之（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

① 部活動の現状と課題（1H）

② 指導の現場にありがちな事例から部活動指導・運営を考える（1H）

③ 学校教育として望ましい部活動指導（1H）

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
①	1H	学校教育としての部活動の現状について再確認し合う。	部活動が果たして来た役割と課題について共有すべく、グループワークを行い、その結果を発表させた。
②	1H	具体的事例から指導・運営を考える。	グループで議論した結果をプレゼンさせつつ、それに対してコメントをした。
③	1H	普通教育としての学校の使命と矛盾しないありかたを考える。	「部活動指導の本質」を講義した。

○ 実施上の留意事項

今回は、運動部活動を例にしながらも、部活動全般のありかたにまで迫ることをテーマに実施した。また、受講者が日頃感じていること、悩んでいることを共有しつつ理解を深めさせたかったので、グループワーク及び討議を例年以上に多くした。

○ 研修の評価方法、評価結果

すべての受講者についての反応は正確には把握できかねるが、受講中の態度からして、概ね好評であったと思う。

○ 研修実施上の課題

特になし

研 修 実 施 報 告 書

NO.21

「教員のための分子生物学 ―演習を通して理解を深めよう―」

○ 研修の背景やねらい

高等学校【生物基礎】では、「生物の共通性と多様性」の視点を重視した項目が設定され、「生物と遺伝子」に関する内容が充実している。【生物】では、新しい生物学の知見を踏まえた「遺伝子の発現」についての内容の充実化、そして【理科課題研究】では、先端科学や学際的領域に関する研究なども扱えるようになるなど、近年の生命科学の発展に伴って生物分野で取り扱われる内容が大きく改変されている。そこで、教員自らが分子生物学の知識を習得し、時代に即した授業が展開できるように、演習を通して分子生物学の一端を理解することを目的とする。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：高等学校生物教員・理科に関心のある他校種教員
人 数：11 人
期 間：平成 30 年 8 月 21 日（火）
会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス
講 師：笠原 恵（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

教育現場での活用を視野に入れて、実際に目で見えない現象を理解するための教材を紹介した。実際の教育現場で使用できる、生徒が興味をもつような教材を扱うよう心掛けた。そして、実際に演習形式で教員自ら行い、実践に活用できるかどうか検討した。時間がかかる演習を最後にして、時間延長にも対応できるようにした。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
演習	2時間	分子生物学の基礎であるセントラルドグマについて理解する。	<内容>遺伝子の概念、遺伝子の本体としてのDNAについての基礎的な解説を行うとともに、遺伝子発現の基礎であるセントラルドグマについての演習を行った。 （例）ABO式血液型の遺伝子発現 <実施形態>演習 <使用教材>自作テキストおよびペーパークラフト型紙（原核生物用、真核生物用） <進め方>パワーポイントを使い進めた。 <留意点>最新の情報を取り入れ、図を多様することにより、理解しやすいように工夫した。また、あらかじめ作製しておいたペーパークラフトを参考に演習を進めた。
演習	2時間	DNAの構造を理解する。	<内容>DNAの構造を理解するために、塩基、糖、リン酸などを色分けし、ビーズでDNA構造を作製した。 <実施形態>演習 <使用教材>自作テキスト、DNAストラップ、ファージストラップ

			<進め方>パワーポイントを使い進めた。細かい作業のため、まず、ファージストラップを作製し、作製方法を学んだ。その後、塩基の組合わせ、リン酸、塩基、糖の結合の仕方を考えながら作製した。 <留意点>個別演習のため、演習時間が大幅にずれないように、できるだけ個別に声をかけながら進めた。また、学生補助により進行具合をチェックしながら行った。さらに、授業で取組む場合の注意点や工夫について解説した。
--	--	--	---

○ 実施上の留意事項

- ・教育現場で実施可能なように、テキストデータや DNA 配列のデータなどを USB メモリに入れて配布した。
- ・実験操作に関しては、個人差が大きいので、できるだけ個別に対応した。また、受講生 4 人に対して演習補助学生 1 人をつけ、演習がスムーズに行えるように配慮した。
- ・最も時間がかかると予想された演習を最後にして、時間延長が可能なように配慮した。
- ・小中学校の先生のため、できるだけ専門用語を噛み砕いて説明した。

○ 研修の評価方法、評価結果

研修後のアンケート調査による。
おおむね好評であった。

○ 研修実施上の課題

- ・演習形式の研修であったため、個人差が大きく、複数の学生の補助があり、個々に対応することができ、効率的に研修を進めることができた。
- ・昨年は時間が足りなかったので、今年度は 1 時間長く時間設定をしたことと、DNA の構造についての授業展開を工夫したことにより、ほぼ時間内に終了できた。

「教師のためのコミュニケーション論 ―子どもの声を受け止めるということ―」

子どもとのコミュニケーションがうまくとれないというのは、教師が抱える悩みの一つである。そもそも、学校教育における教師と子どものコミュニケーションはどうあるべきか。本講座では、主に教育哲学の知見に学びながら、ワークショップや講義を通して、学校教育における「語る―聴く」というコミュニケーションの基本問題についてじっくり考えることを目的とした。

対 象：小・中・高等学校の教員

人 数：14 人

期 間：平成 30 年 8 月 22 日（水）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：大関 達也（兵庫教育大学大学院 准教授）

浜中 恵美子（学外講師）

学校教育場面におけるコミュニケーションの様態と背景は多様かつ複雑である。本講座ではまず、講師がファシリテーターとなり、「カード法」により各自が今年度 1 学期の活動を振り返った後に、全体で意見交換を行う。その後、子どもの声を受け止めることの難しさ、その原因、対策を K J 法により検討する。その上で、教師―子どものコミュニケーションに焦点化しながら、特に「語る―聴く」という観点から、子どもの声を受けとめることについて原理的な考察をおこなった。

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
オリエンテーション	30分	講座のねらいと進め方を理解する	講座の趣旨説明、自己紹介
カード法による1学期の振り返り	30分	自らの1学期の活動を振り返り、対話を通して気づきを得る	・内容：個人作業でカードを用いて1学期の活動を構造化した上で、それを一人ずつ発表し、全体で共有する。 ・実施形態：演習 ・使用道具：マジック、カード（付箋）、3M 用紙 ・進め方の留意点：話し手の思いや考えを聞き手が十分に引き出すことが重要である。

子どもの声を受けとめることについての、K J法による検討	120分	これまでの教育実践を踏まえて、子どもの声を受けとめることがなぜ、どのように困難かを検討しながら、可能な手だてを探る	K J法により、子どもの声を受け止めることの難しさ、その原因、対策について、受講生のこれまでの経験や普段抱えている思いを相互に語り聴き合いながら、可能な手だてを探る。 ・実施形態：演習 ・使用道具：模造紙、水性ボールペン ・進め方の留意事項：自由な雰囲気の中で、じっくりと聴き合い、そこから新しい洞察の萌芽を各自が得ることを大切にする。また、K J法のカテゴリー化の段階では、それぞれの意見を無理にカテゴリーに入れ込もうとせず、小さなニュアンスの違いを尊重する。
教育コミュニケーションにおける「語る－聴く」	90分	教師－生徒の関係を「語る」と「聴く」という観点から考察することを通して、大人中心でもなく、子ども中心でもない、双方向的な教育のあり方について考察を深める。	・講話 前半（浜中恵美子）：「よりよい人間関係を築くために一ストローク＝心の栄養素を知ろう」 後半（大関達也）：「語りかけを聴くということ」 ・内容：教育において「語りかけを聴くということ」、「子どもの声を受け止めるということ」の意義と構えについて講述する。 ・実施形態：講義形式 ・使用教材：講義資料 ・進め方の留意事項：教育実践場面を想定して具体的事例をあげながら理論的な考察を進める。
まとめ	20分	成果と課題の確認	受講生が講座を通して学んだこと、考えたことについて、グループごとに振り返る。

○ 実施上の留意事項

講座の目的・内容・方法について、講師間で十分に共通理解をした上で、受講生にはリラックスして話し合いに参加できるような雰囲気作りを心がけた。

○ 研修の評価方法、評価結果

社会連携事務室作成のアンケート（自由記述）によれば、「自分とは異なる意見を持った先生方と子どもの声を受け止めることについて話し合うことができて良かった」、「グループワークが多く、主体的に参加することができた」等、肯定的な声が多く寄せられた。子どもの声を受け止めることの意味をじっくり考えるという講座の趣旨はほぼ理解してもらったことができたように思われる。

○ 研修実施上の課題

今回は受講生が 14 名だったため、受講生同士の意見交流が活発に行われた。次回も教員が参加しやすい日に設定することが望まれる。

研修実施報告書

NO.23

「陶芸美術館で考える美術の表現と鑑賞」

○ 研修の背景やねらい

図画工作科、美術科の鑑賞分野について現職教員からどのように子どもたちに教えて良いのか分からないという声を良く聞く。そこで学習指導要領の中でもその活用が謳われている美術館の鑑賞事例を現場にて学び、加えて表現分野と鑑賞分野が融合した題材体験を通し、受講者が授業で鑑賞について取り組む手がかりとする。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小・中等学校の図画工作科・美術科・他教科・全教科担当教員

人 数：16 人

期 間：平成 30 年 8 月 24 日（金）

会 場：兵庫陶芸美術館

講 師：浅海 真弓（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

おおよそ講義 1、演習 2、鑑賞 1 の時間配分で進めた。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
別紙のとおり			

○ 実施上の留意事項

昨年度より時間が長く設定したが、それでも慌ただしかった。

○ 研修の評価方法、評価結果

受講態度、作品 ○ 評価結果 良

○ 研修実施上の課題

陶芸美術館側が非常に協力的で助かった。その美術館の進めで取り入れた丹波焼の陶工によるロクロ実演がとても好評で予定時間の倍時間をとってしまった。来年もし実施するなら、その分の時間をあらかじめ確保する必要がある。

兵庫教育大学 研修講座「陶芸美術館で考える美術の表現と鑑賞」

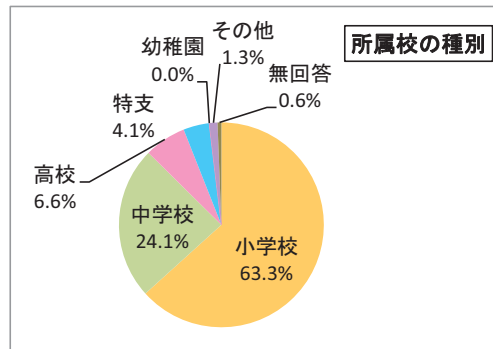
	時間	目的	内容・形態・時間数等	担当	会場
1	13:15		受付	浅海	工房
2	13:30		挨拶 オリエンテーション・ 導入(5分)	美術館副館長 浅海	工房
3	13:35	社会教育施設 の活用方法 を知る	美術館の学社連携事業 の取り組みについて (20分) ※美術館作成資料使用	美術館・企画事業課	工房
4	13:55	丹波焼を知る	(講義) 丹波焼について(30分) ※プロジェクター、パ ワーポイント使用	美術館・学芸課	工房
5	14:25		電動ロクロ実演(10分)	美術館・陶芸指導員	工房
6	14:35	表現分野と 鑑賞分野が 融合した題 材を体験す る。	(演習) 鑑賞と表現 「やきものをつなげて 宝物を作ろう！」 (60分) ※グルーガン使用	浅海 美術館・陶芸指導員	工房
7	15:35		休憩・移動(15分)		工房等
8	15:50	美術館での 鑑賞方法、 マナーを学 ぶ。	展覧会鑑賞「丹波焼の 世界 season2」 ※会場全体を見学した 後、ワークシートを使 った鑑賞(30分)	美術館・学芸課 ※作品等の解説 企画事業課 ※展示室入室時の注意事項等説明	展示室
9	16:20		まとめ ・アンケート (10分)	浅海	工房
10	16:30 ～		特別展「ひょうごのや きもの 150 年」自由鑑 賞 (希望者のみ)		展示室

平成30年度兵庫教育大学研修講座に関するアンケート集計結果(総計)

【受講者数:322名, アンケート回答者数:319名(回収率:99.0%)】

問1 所属校の種別

小学校	202	63.3%
中学校	77	24.1%
高等学校	21	6.6%
幼稚園	0	0.0%
特別支援学校	13	4.1%
その他	4	1.3%
無回答	2	0.6%
合計	319	100%

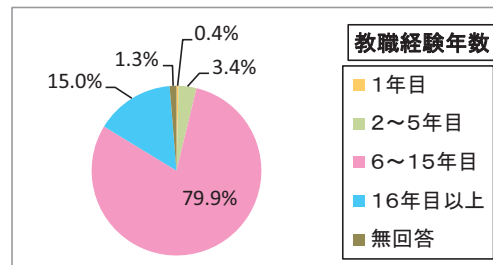


(その他)

- ・高等専修学校(1)
- ・無記入(3)

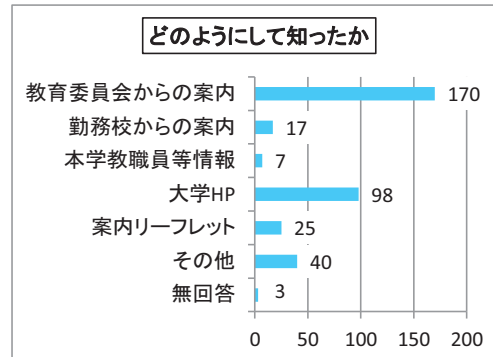
問2 教職経験年数

1年目	1	0.4%
2年目～5年目	11	3.4%
6年目～15年目	255	79.9%
16年目以上	48	15.0%
無回答	4	1.3%
合計	319	100%



問3 この研修講座をどのようにして知りましたか。(主なものを3つ以内で選択)

教育委員会からの案内	170	47.3%
勤務校からの案内	17	4.7%
本学教職員等からの情報	7	1.9%
兵庫教育大学ホームページ	98	27.3%
案内リーフレット	25	6.9%
その他	40	11.1%
無回答	3	0.8%
合計	360	100%



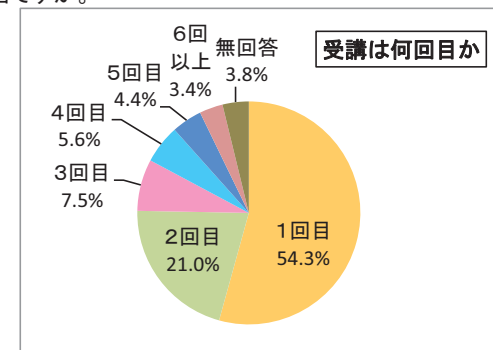
(その他)

- ・中堅研修冊子(25)
- ・市中学校技術科研究会(5)
- ・生物部会からの案内(3)
- ・友人からの紹介(1)

- ・技術ライセンスセミナーを通して(1)
- ・8年目法定研修の案内(1)
- ・無記入(4)

問4 本学の研修講座を受講されたのは、今回を含めて何回ですか。

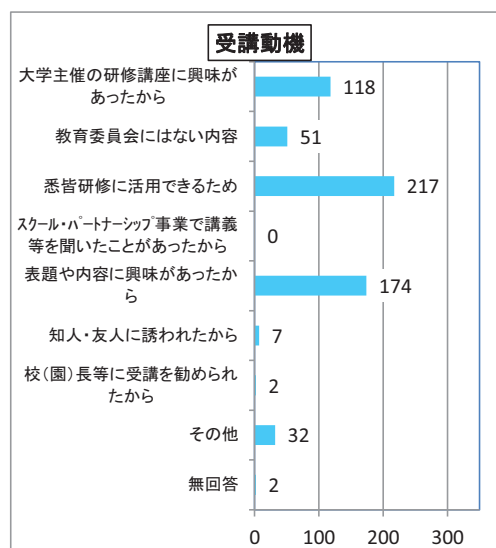
1回目	173	54.3%
2回目	67	21.0%
3回目	24	7.5%
4回目	18	5.6%
5回目	14	4.4%
6回以上	11	3.4%
無回答	12	3.8%
合計	319	100%



問5 この研修講座を受講しようと思われたのはどういう動機からですか。

(主なものを3つ以内で選択)

大学が主催する研修講座に興味があったから	118	19.6%
教育委員会が準備されている研修講座にはない内容であったから	51	8.5%
中堅教諭等資質向上研修等に活用できるため	217	36.0%
スクール・パートナーシップ事業で担当講師の講義等を聞いたことがあったから	0	0.0%
表題や内容(テーマ)に興味があったから	174	28.9%
知人・友人に誘われたから	7	1.1%
校(園)長又は教頭に受講を勧められたから	2	0.3%
その他	32	5.3%
無回答	2	0.3%
合計	603	100%



(その他)

- ・担当講師の講義を受けたかった(7)
- ・自己研修(3)
- ・授業・指導に使えると思ったから(3)
- ・音楽科指導について学びたかったから(2)
- ・ライセンスセミナーの内容を補完するため(2)
- ・自宅から近いから(2)
- ・同じ学校の先生に勧めてもらったから(1)
- ・現場だけでなく理論等も含めた学びをしたかったから(1)
- ・内容に興味があったため(1)

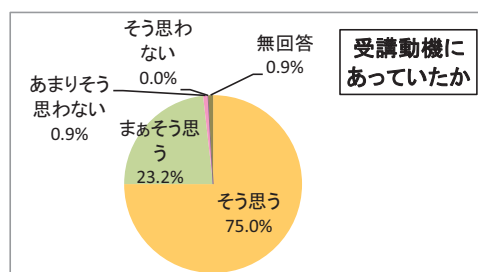
- ・大学院に在席中で様々な研修会への参加を心がけている。(2)
- ・別講座を以前受講して良かったから(1)
- ・市内研修を兼ねているから(1)
- ・時間が短いから(1)
- ・自分自身陸上競技を経験していたため(1)
- ・ストラップのオリジナリティーに惹かれた(1)
- ・生物部会の事務局として参加した(1)
- ・大学院を考えている(1)
- ・無記入(1)

問6 研修講座を受講されて、次の点についてどの程度満足されましたか。

下記の5段階評価表を参考に、各設問の該当する評価の数字を○で囲んでください。

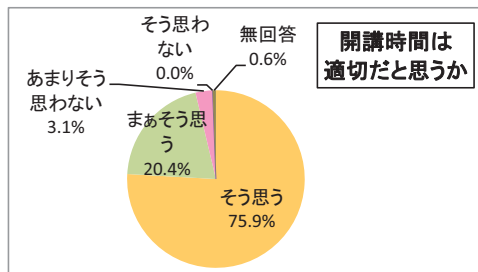
(1) 研修講座の内容は、受講の動機にあっていましたか。

そう思う	239	75.0%
まあそう思う	74	23.2%
あまりそう思わない	3	0.9%
そう思わない	0	0.0%
無回答	3	0.9%
合計	319	100%



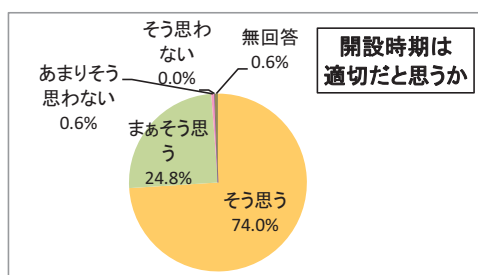
(2) 研修講座全体の開講時間は適切だと思いましたか。

そう思う	242	75.9%
まあそう思う	65	20.4%
あまりそう思わない	10	3.1%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.6%
合計	319	100%



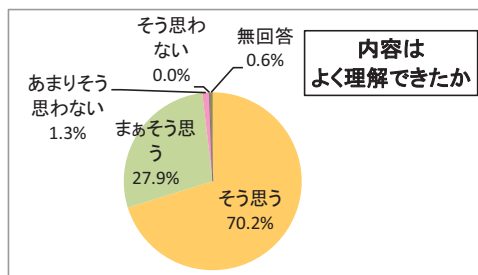
(3) 研修講座の開設時期は適切だと思いましたか。

そう思う	236	74.0%
まあそう思う	79	24.8%
あまりそう思わない	2	0.6%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.6%
合計	319	100%



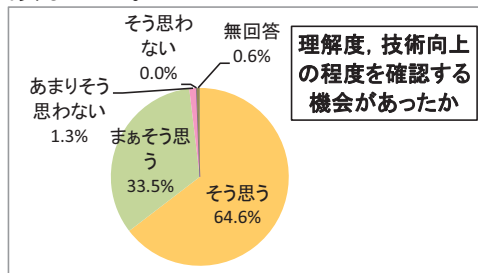
(4) 研修講座の内容はよく理解できましたか。

そう思う	224	70.2%
まあそう思う	89	27.9%
あまりそう思わない	4	1.3%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.6%
合計	319	100%



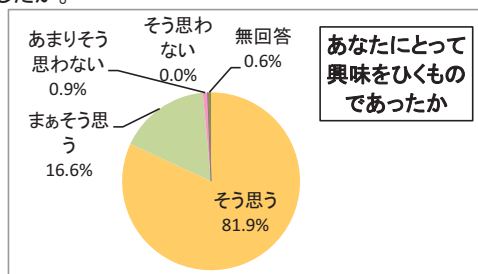
(5) 自分の理解度または技術向上の程度を確認する機会がありましたか。

そう思う	206	64.6%
まあそう思う	107	33.5%
あまりそう思わない	4	1.3%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.6%
合計	319	100%



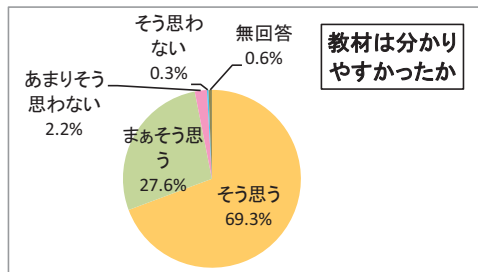
(6) 講師の講義や指導は、あなたにとって興味をひくものでしたか。

そう思う	261	81.9%
まあそう思う	53	16.6%
あまりそう思わない	3	0.9%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.6%
合計	319	100%



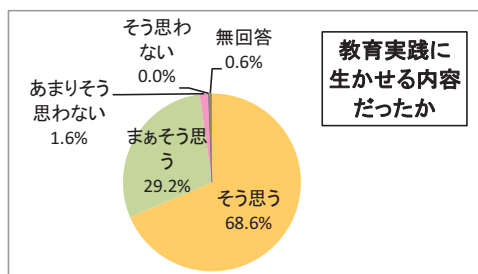
(7) 用意された教材はわかりやすかったですか。

そう思う	221	69.3%
まあそう思う	88	27.6%
あまりそう思わない	7	2.2%
そう思わない	1	0.3%
無回答	2	0.6%
合計	319	100%



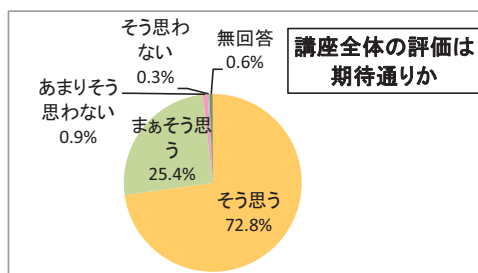
(8) 実際の教育実践に生かせる内容でしたか。
(ヒントが得られましたか)

そう思う	219	68.6%
まあそう思う	93	29.2%
あまりそう思わない	5	1.6%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.6%
合計	319	100%



(9) 研修講座全体の評価としては、期待通りでしたか。

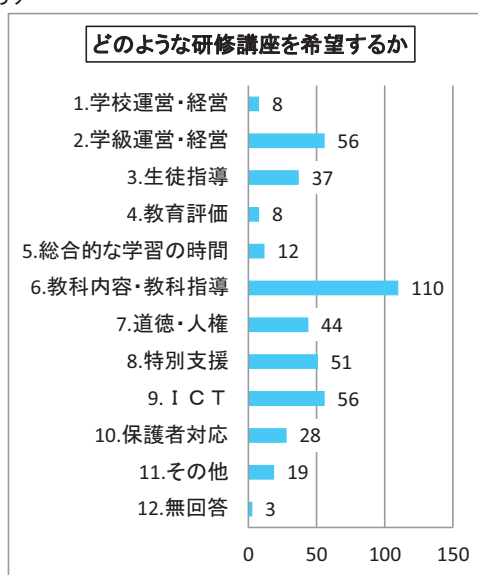
そう思う	232	72.8%
まあそう思う	81	25.4%
あまりそう思わない	3	0.9%
そう思わない	1	0.3%
無回答	2	0.6%
合計	319	100%



問7 今後、どのような研修講座が開講されることを希望しますか。

(1) 領域について(主なものを1つ以内で選択) ※重複回答あり

1.学校運営・経営	8	1.8%
2.学級運営・経営	56	13.0%
3.生徒指導	37	8.6%
4.教育評価	8	1.9%
5.総合的な学習の時間	12	2.7%
6.教科内容・教科指導	110	25.5%
7.道徳・人権	44	10.2%
8.特別支援	51	11.8%
9.ICT	56	13.0%
10.保護者対応	28	6.5%
11.その他	19	4.4%
12.無回答	3	0.6%
合計	432	100%



(その他)

- ・外国語活動(2)
- ・図工・美術教育(2)
- ・教育に取り入れられそうな演劇的手法のWS(2)
- ・教師教育(2)
- ・今回のような海外での新しい教育について(2)
- ・キャリア教育(2)
- ・ファシリテーション(1)
- ・技術教育(1)
- ・音楽指導について(1)
- ・学力向上(1)
- ・業務改善(1)
- ・国際理解教育(1)
- ・無記入(1)

(2) 上記の中で特に関心のある内容について事例を挙げて具体的にお書きください。

【学校運営・経営】

服務について(法的根拠を視点に)
学校組織の動かし方
新たな学力観やこれからの学校像についての実践例
公立学校の組織的運営, モデルケースと実践例
これからの社会に対応した学校づくり
様々な変化や出来事に対応できる学校になるための方策
学校安全・危機管理(リスクマネジメントetc)
カリキュラムマネジメント

【学級運営・経営】

集団としての育て方
生徒個々が主体的に活動できる学級運営・経営など
学級会, 係活動の児童の自発的な取り組み
学級開きや, 学期始めのLHR等の良い進め方

【学級運営・経営】

ワークショップの入門の次
日常的にできるアクティブラーニングの手立て
現在の子どもの発達課題を踏まえた学級経営
通常学級で支援の必要な子(発達障害など)を含めて、どのように学級経営していくか
個性がある子が多く在籍する場合の学級経営
特別活動と関連させた学級経営
児童理解の力を向上させる内容
学習意欲, 学びに向かう力
クラスの作り方(コツ)
仲間づくり(児童を繋ぐ方法)
新指導要領を意識した学級経営
アドラー心理学を用いた効果的な学級経営方法
学級崩壊を立て直す方法
指導と評価の一体化について
Q-U, RCRT, CoCoLoなど実際に使えるツールについて
いじめが発覚した場合のクラスでの取り組み
学級の子ども達と担任とのコミュニケーションを育てる方法
掲示物

【生徒指導】

発達障害と非行, 不登校
不登校児への支援(保護者への支援も含めて)
いじめ, 不登校の実態と具体的な取り組みについて
脳科学や心理学の知見から生徒指導や特別支援教育についてのテクニック 道徳的な心の育成のために有効な(必要な)指導
自尊感情を高める内容

【生徒指導】

実際起こった事例
生徒指導の今と昔
児童との関わり方・教師間での連携
教師、子どものメンタルヘルス
問題行動のある生徒への対応
困難校への指導方法、生徒対応に関する内容
トラブル時の生徒指導、児童との関係づくり

【教育評価】

何のための評価教育なのか
道徳の教科化に伴う、評価について
アクティブラーニングとその評価
データから具体的改善策への反映の仕方

【総合的な学習の時間】

児童が自主的に活動していけるような手立て、手法
具体的な事例にもとづいた実践の紹介、評価、通知表への記入法など
新学習指導要領改訂後の授業展開の仕方
新しい調査書に記載すべき総合の活動内容の具体的な内容

【教科内容・教科指導】

国語の教材研究
主語指導について（細かい具体的実践）
書く活動
数学の授業におけるアクティブラーニング
算数・数学科教材の紹介と実践方法
算数の教科研修
理科の中では地学・生物領域
中学生が授業で興味を持って取り組めるような実験観察の方法
正確な測定値の得られる実験方法

【教科内容・教科指導】

兵庫県自然科学分野(物理・化学・生物・地学)について
要支援生徒への手立て 生徒が科学的に考えることの出来る理科実験の手法
楽しい理科実験
教科書の実験でなかなか上手くいかない物
教科書の内容の理科実験, 工夫や留意事項について
DNAや遺伝子などの実験で特別な道具や薬品を使わずに, 生徒にさせることができるもの。または, インターネット等の授業に使えるコンテンツなど
分子生物学・実際に生物を用いた学習
免疫
ホメオテック遺伝子の役割についての指導法
子どもが興味をもって活動できるものづくり(工作)の講座
ユニバーサルデザインの授業や合理的配慮, インクルーシブ教育といった観点で見た教科の授業の工夫(社会科)
社会科の授業の仕方
音楽の新学習指導要領について, 評価の仕方や変わった点など
音楽の授業づくりについて
中学校音楽の鑑賞指導
音楽の鑑賞(表現を絡めた学習)
音楽科:合唱指導に関すること
音楽とICT, 音楽と新学習要領
図工展や音楽会で活用できそうな芸術系の教科指導
図工等の授業の実践例について
図工・美術に関するもの
英語科の指導法(苦手の先生がどのように指導していくのか)
新しい学習指導要領での英語授業の進め方など
外国語活動・生活単元
教科は「道徳」指導の実際・通常学級で生かす特別活動の視点

【教科内容・教科指導】

技術科(分野)の教材研究
エネルギー変換での問題解決の取り組み
アルゴリズムとデータ構造(情報分野)
情報教育と他教科との関連について
保健分野における時代背景に沿った教材づくり
保健体育科の指導や評価について
体育科教育の教科内容・指導
体育の実技指導
新学習指導要領になって変更する点
新学習指導要領改訂後の教材研究
指導要領改訂に伴う具体的授業展開例
新学習指導要領を踏まえたアクティブ・ラーニングとその授業展開について
生徒に興味を持たせる授業展開など
児童の興味を引くような小ネタ, 導入時のヒント
主体的, 対話的に学びを実現するための課題の持たせ方。子どもの目がキラキラする学びの題材や方法の例を知りたい。
教科書において新たに加わった内容
教科書の発展的な内容
先進的な取り組みの紹介
実践的な講習
実地・実習
実技等, すぐ実践できるもの
know how が学べるような実技指導
実際に2学期から活かそうなもの
授業で活用できそうな授業づくりや教材など
指導の技能

【教科内容・教科指導】

目標を設定する際の根拠, そこからの展開について
コンピテンシプログラム研修
流体力学を活用した内容
アクティブラーニングや協同学習の実践的な授業づくり
インプロ(自己表現)の引き出しを持つべく, その流れを実行している場面を検証するような講座
脳科学, 最新医療情報, がん治療など
商業科に関する研修

【道徳・人権】

指導方法の具体を研修(例:モラルジレンマの手法)
道徳の教科化に伴う授業展開の仕方
道徳・人権の適切な資料(教材)・評価について
道徳の教科化に伴う評価のあり方
道徳の教科化に伴う指導法
人権の視点で道徳を進めていくにはどうすればいいか(教材, 展開など)
教科となったことで重要とされること
中学校での道徳の評価方法についてどのような実践や研究があるのか
教科書, 指導書の活用の仕方
他市, 他県の人権教育の取り組み
道徳教科化に伴い, 学校で受けている研修とは違う実践的なものが知りたい。
道徳におけるアクティブラーニングの具体的な指導方法など
特別支援学校での実践が知りたい

【特別支援】

支援の必要な生徒への対応について
教室の中での気になる子どもへの正しい対応(特別支援学校に入っていない通常学級の子ども)
普通教室にいる支援が必要な生徒の対応
学級内(通常学級)における, 特別に支援を要する児童に対する様々な声掛けや関わり方など

【特別支援】

発達障害のことだけでなく肢体の障害に関する内容(体の学習についてや肢体不自由の生徒へのアプローチの仕方など)
授業研究, 改善に役立つもの
学習指導の効果的教材等
通級担当への研修(アセスメント, 個別指導, 評価, コンサルテーション, 保護者支援)
特別支援教育のスキルアップ研修
基本的環境について具体的な実践の紹介
発達障害のある児童への対応を学べる研修
発達に課題がある子どものコミュニケーションについて
発達障害の子ども達や通級での指導を受ける子ども達についての対応などを取り扱ったもの
自閉症, 発達障害
発達支援について
自閉症児童・生徒の指導
言語聴覚士, 作業療法士, 理学療法士の方などの医療に対するアプローチ方法医療と教育現場の連携について
ADHDやLDの児童への学習の手立て (例) 注目のさせ方・ノートの取り方・集中のさせ方など
特別支援の視点から, 体のつくりについて
特別支援(知的)の授業づくりについて
特別支援の生徒の性について
突発的な事象への対応
子どもの特性やその具体的対応, 指導内容
教科指導の中での合理的配慮について
特別支援学級の担任になったとき, また交流担任になったときに活用できる発達障害に関する支援について
タブレットの活用法
タブレットを使用した効果的な学びの場の設定
タブレットを使用した授業展開を詳しく知りたい。
授業で使える簡単なソフト・プログラミング(簡単なものの方が助かります。)

【ICT】

ICTを利用した授業の進め方や、アプリケーションの紹介など
プログラミングを使って学習を定着できるような活動
制御について、プログラムについて
アクティブラーニングに活用できるICTの利用方法
アクティブラーニングでのICTの活用術等
技術科におけるカリキュラムマネジメントの例
プログラミング教育の実践例に特化した内容
実践例やすぐ使えるデータ(ファイル)等の紹介
基礎的な校務作業に役立つことや、授業に役立つような紹介
ICTの最新の情報
プログラミング指導について
powerpointを使った授業展開
情報・技術教育に関する具体的な事例とその効果
マクロ、プログラミング(子供用の)
パソコンの活用、自立支援などについて
効果的な活用方法について
ICTを活用した様々な教科実例を研修するような講座
各教科における有効なICT機器の操作方法
簡単なICTの活用術を学びたい
低学年におけるICT活用について
表計算ソフトの使い方
授業に直接関わるICTの活用の仕方 今までの使用とまた違う利用法

【保護者対応】

保護者は、ほとんどの方が子育ての悩みを抱えているので、そこに寄り添った対応について
家庭へのふみこみについて 不登校への対応

【保護者対応】

対応が困難な保護者の方への関わり方
powerpointを使った授業展開
教員の仕事, 職務について 義務や権利について
生徒だけでなくその保護者の対応で困ることがある。よく生徒さえ納得してくれれば・・・, と言いますが, 事例をあげて上手く切り抜ける対応について話し合ってみたい。
学校に協力的でない保護者にどのように学校に目を向けてもらうか
様々な保護者がいる中でどの保護者とも思いを連携して生徒と関わる方法があれば知りたい。
様々な保護者がおり, 対応に苦慮することもあるので
進路やクレーム対応
保護者が何でもかんでも要求してくることがあり若手教員が苦しんでいる。学校がすべきこと, 教員がすべきこと, 教員の本来の姿を教えて欲しい。
保護者に対する「カウンセリング」力の向上手法

【その他】

美術のスキルアップ, 知識と実践
美術館との連携
今後プログラミングの授業がはじまるのでそれに向けてのヒントや具体的な授業の進め方について。
食品添加物や睡眠など, 元気な身体をつくるために大切なことを詳しく知りたい。
脳や情動等, 普段学ぶ機会が少ない科学の世界について話を聞きたい。
新しい教育課程で大切にすべきことと特徴。これまでの教育課程との違い。
今後も今回のような部活動の運営や指導についての内容を学んでいきたい。

【問7-(1)無回答】

授業, 校務の時間をどのようにマネジメントしていくか
道徳の評価の方法について
美術館連携, 博物館連携

問8 今回の研修講座を受講されて、印象に残ったこと、感じたこと、研修講座全般についてのお気づきの点、ご要望などをご自由にお書きください。

No.2【技術リテラシーの育成を図る技術科の教材研究2018～パソコンによるフルカラーLEDの制御～】

勉強になります。ありがとうございました。

難しい部分もありましたが、楽しく過ごせました。ありがとうございました。

授業研究の上で大変勉強になりました。

自分の情報に対する知識のなさを痛感した。さらに研修を重ねたい。

自分がプログラム学習を理解出来ていないことが良く分かりました。

毎年参加させていただき、その度にお土産をいただき本当に有難いです。難しい内容でしたが、子どもたちに伝えられるように学校に戻り勉強したいと思います。

A/D D/A変換について知る機会になった。

No.3【技術科におけるICT活用の授業デザイン2018～デジタルものづくり(3Dプリンタとレーザー加工機)体験～】

3D printerやレーザー加工機を授業で取り上げる意義がよく分かった。

生徒の興味・関心を引きつけることのできる講義を聴かせていただき、勉強になりました。

新学習指導要領に移行する時期において、製図に対する認識を確認することができた。手書き図面を生徒に示していたが、今後はCADで書いた図面を示せるように自己のスキルアップと授業のIOT化に向けて頑張りたいと思います。

3Dプリンター、レーザー加工機など日頃利用出来ない機材を使っの研修ですごく参考になりました。

いつも楽しみにしています。またお願いいたします。

新しい教材について考えることができた。

分かりやすく3Dキャドソフトを教えてもらいありがとうございました。

ぜひ技術の授業で生徒に紹介したいと思いました。

今回のような研修講座が冬期休業中にもあって欲しい。加東キャンパスではなく、神戸ハーバーランドキャンパスでやって欲しい。あるいは、両キャンパスで開講して欲しい。

先生方とのコミュニケーションが取れ、情報交換ができるのでありがたいです。

No.4【ワークショップ入門―協同的な学びと創造の新しいスタイル―】

お菓子や飲み物を用意してもらったり、とても心遣いをありがとうございました。

とても充実した学びの場になりました。

振り返りや質問の表示など、きめ細かい参加者への配慮が多く見られたこと。

ワークショップに真剣に取り組んでみようと思えました。

実際に体験することが出来たので活発な意見交換の楽しさを味わうことができた。生徒同士の関わりを増やし、生徒の意見を交換する機会を設けていきたい。

新しい発見がたくさんありました。

No.4【ワークショップ入門―協同的な学びと創造の新しいスタイル―】

講師の先生と参加されている先生のポテンシャルが高く非常に勉強になりました。講座の内容もハイレベルで良かったです。来年も是非参加したいと思いました。

ワークショップというものが今回の受講で少し見えてきました。これを実践にどう活かせるかをこれから考えていきたいです。

ワークショップの考え方・スタンスのようなものが、少しは理解出来たかと思います。多様な価値観に触れさせる工夫、それを認め、動いていくマインドを実践に活かしていきたいです。

学ぶということについて、再度考える機会になりました。

市で協同的な学習を勉強しないといけなくて、とても参考になりました。ありがとうございました。

No.5【顕微鏡による岩石の観察】

とても丁寧に説明をいただきありがとうございました。改めて地学の面白さを実感しました。1人1人の顕微鏡を見ていただき感謝しています。

お世話になり感謝しかないです。

普段あまり扱われていない岩石について、実際にプレパラートや標本を見ながらより詳しく鉱物等について学ぶ事ができ、とても為になりました。授業でも紹介出来そうです。楽しく受講させていただきました。

始めは大学の講座なので難しい内容で自分に理解出来るかどうかという不安があったが、大変分かりやすく、楽しく講座を受講することができた。

身近な自然の中の美しい構造や色に感動した。時間を忘れて観察できた。

さすがに大学というだけあって、設備や資料(試料)、標本などが豊富にあつていいなと思いました。講師の先生のお話はとても興味深く、もう一度大学で学び直したいなと思いました。

No.7【ここがポイント！音楽科における実技指導の工夫 ―歌唱、リコーダーを中心として―】

教材研究の大切さや教師自身が音楽を楽しむことの大切さが分かりました。1つの曲でも工夫しだいで楽しめることや「音楽」という目に見えない物を可視化することで子どもたちの理解が深まることが分かりました。先生のすてきな伴奏が良かったです。伴奏の役割も分かりました。ありがとうございました。

どうしても新しい楽曲に目がいつてしまうが、曲を教えるのではなくその曲で何を伝えたいか、何を教えるのかを私がしっかり持って望むという基本中の基本を教えてくださいたいように思います。ありがとうございました。

温かいご指導、とてもわかりやすい内容で、音楽専科ではない私もとても楽しくたくさん学べるがありました。ありがとうございました。

実践を交えて教えていただき、とても分かりやすかったです。ぜひ、今後に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

まず、教師自身が教材を演奏したり歌ったりしてみることが大切というお言葉にハッとさせられました。分かった様な気になって、黙々とパソコンに向かって案を考えていたと反省しました。これからの実践に活かせる内容をたくさん学ぶ事が出来ました。ありがとうございました。

曲の選び方(1つでも)様々な指導法や練習法など分かりやすく実践を交えながらの講座で、楽しく分かりやすく受講出来ました。ありがとうございました。

初めて兵教大の研修を受けましたがとても分かりやすくて良かったです。今後の授業に活かして行こうと思います。ありがとうございました。

音楽会の練習で使えそうです。ありがとうございました。

教師自身が音楽・曲を楽しむ、演奏する事を忘れていました。基礎・基本拍を子どもたちにもう一度させてみたいです。プレスの量・速さ・向きはなるほど！！と特に学びました。ありがとうございました。

どの教科も目からウロコの事柄はあるにもかかわらず、なかなか受講出来ないのが実情である。

曲想といわれてもどんな風に教えたら良いのか分からなかったが、少し理解出来た。息使いの大切さ。すぐにでも子どもたちに伝えたい。

No.7【ここがポイント！音楽科における実技指導の工夫 ―歌唱、リコーダーを中心として―】

具体的な指導方法や指導のポイントを分かりやすく教えていただき、大変参考になりました。音楽専科ではないですが、今後生かしていきたいと思います。
ぜひ、実践したいと思う内容でした。音楽の良さを感じた。
とても分かりやすく説明していただき、早速2学期からの実践に活かしたいと思った。音楽は私自身やってきておらず不安いっぱいのまま授業をしているが、出来る範囲で楽しみながらやろうと思った。
ブレスのことが詳しく勉強できました。2学期から取り組みます！！
まずは自分が演奏者となる事が大事だと思いました。専科でもなく、ピアノも弾けませんが、基礎的な事は自分にも教えられるかなと思いました。ありがとうございました。
普段、どのように教えたら？と思っている事のヒントになりました。2学期の音楽会に向けて、また子どもに合わせた指導法を考えていきたいです。
河邊先生の講座は大変分かりやすく、前回は現場で活かすことが出来たので、今回も参加しました。また、宜しく願いいたします。
とても楽しく受講させていただきました。子どもたちにもこんな楽しさを味わってもらえるような授業をつくっていききたいと思いました。ありがとうございました。
色々な手立てを教えていただきありがとうございました。

No.8【対話による授業リフレクションの体験―“自分のことば”で授業を語り―聴き合う教員研修―】

とても色々な事を考える刺激的な時間でした。
自分の授業実践を振り返ることができ、良い気付きを得ることが出来ました。

No.9【アクティブラーニングを支援するラーニングスケッチのすすめ】

初めて知ることばかりだったので、難しかったですが、今後に生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。
教師と子どもの実際のやりとり(言葉)を想像して授業を作っていく事の重要性を再確認出来ました。教科学習では目標があります。特に数学などは積み上げが大切なので絶対に落としてはいけません。そんな時どのようにラーニングスケッチを作り上げていくのか、詳しく聞いてみたいと思いました。ありがとうございました。
文章のみの指導案よりビジュアル化した案の方が、授業のイメージが広がりやすいと思い便利だと感じました。しかし、いざ自分で作るとなるとはじめはかなり悩みました。普段から子どもや教師の発信をたくさん想定しながら授業を考えていきたいと思いました。
場所・時間・内容がちょうど良くていい勉強になりました。ありがとうございました。
今までこのラーニングスケッチという方法を知りませんでした。指導案を書くとなるといつも堅苦しく考え、言葉も難しい言葉を使いと重く考えがちでしたが、このラーニングスケッチを使えば実際の授業のイメージもすぐ膨らみ気軽に構想できるので、とても良いと思いました。自校に持ち帰って広めていけたらと思います。ありがとうございました。
ラーニングスケッチが初めてで上手く描けませんでした。(お話を聞きたときは「出来そう」思ったのですが。)でも、全教師に分かりやすく修正や削除がしやすい良い方法だと思います。子供の思いが入れやすいことが一番の魅力です。負担を感じず面白い授業を作ることにもっと力を注げるので、頑張って書いていこうと思います。ありがとうございました。
どの授業でも学校生活のどの場面でも活用が出来る内容であった。ラーニングスケッチも3つのパターンを提示いただいたので、幅が広がった。自分に合ったものを作っていきたい。
指導案の作成の常識が変わりました。
ラーニングスケッチとは？というところからだったので、新しいこと(私にとっては)に触れられて良かったです。いつも疑問に思っていた指導案の形がどんどん変わっていけばいいなと思いました。帰って学校で伝達します。
アクティブラーニングについてあまり分かっていない状態での受講でした。ですが、ラーニングスケッチは初めて知り、とても有効な手段だと思いました。自分の考えとつけたい力と子供の様子がうまく合致させられそうと感じました。

No.9【アクティブラーニングを支援するラーニングスケッチのすすめ】

今まで考えがひっくり返されたような感じがし、より子供のことを考えながら作成できる気がしてきました。作成しながらクラスの子供達の姿が思い浮かび、とても楽しく取り組むことができ、2学期から実践してみようと思いました。ありがとうございました。
とても具体的で分かりやすく実践も紹介していただき、イメージが湧きやすかったです。今後の授業づくりに活用していきたいです。ありがとうございました。
固定観念や当たり前にやっていることが時代のニーズに合っていないことや、より分かりやすく変えていけるものがあるということに気づかせていただいたような感じがします。ありがとうございました。
上記にも書かせていただきましたが、ラーニングスケッチをすることで子供の思考が可視化できたこと、教科について改めて考えることが楽しかったです。自分ならこれなら出来そうだなと思いました。今後活用していきたいと思いました。本日は一日ありがとうございました。
私自身とても勉強になりました。指導案の書き方を工夫することで、深く考え、参観者の方にも分かりやすいということが分かりました。
とてもアクセスの良い場所で建物や椅子等も新しく、来やすかったです。講師の先生・補助の先生、来ていた受講生の先生方の全てが良かったです。また来たいです。
古い指導案の書き方しか知りませんでしたが、今回の研修で非常に勉強になりました。パソコン(エクセル)で実際に指導案を作ります。

No.10【いじめなどのめもごと問題への対応とその実際—ピア・メディエーション(仲間による調停)の導入に視点をあてて—】

中盤で紹介された、大学生になっている人の小学校時代の学級での話し合いについて・・・自分に同じ経験があります。保護者からの指摘がありました。(教師として)自分の解決能力のなさを思いました。先生の「教師が陥りがち・・・。」との言葉に納得しました。自分にとって課題があると思います。今日の内容をもとに考えようと思います。
とても勉強になりました。ありがとうございました。
ワンネス、ウィネス、アイネスなどねぎらいの思いを持って接することが大切であると分かりました。
メディエーションを学級で行いたいと思いました。さらに、このような演習(ロールプレイ)を研修で学校で行う必要性を強く感じました。ありがとうございました。
思い込みや決めつけの考えをなくし、相手を尊重して聴くことの大切さを改めて感じました。ワンネス-ウィネス-アイネスの意識を持って、人と関わっていこうと思いました。
「トラブルが起こるのは自然なことであり、当事者同士で解決する」という考えが子どもの成長に繋がっていくのだということがよく分かりました。もめごとがあったときには冷静に話し合いができるよう、今日のお話を思い出しながら対応していきたいと思います。
決めつけで、生徒に話を聞くのではなく、公平・中立な対応をしなければならないと感じた。
生徒指導主事として考えさせられる点が多々ありました。ありがとうございました。
メディエーション、初めて聞きましたがとても勉強になりました。ぜひ現場で使えるように少しずつ訓練していきたいです。ありがとうございました。
自分の指導の至らなさを痛感しました。今日の研修を機に生かしていけるようにしたいと思います。大変参考になりました。ありがとうございました。
中学校ですが、子ども同士で出来るのか疑問でしたが、そうではなく教師の運び方で出来上がっていくものだと思います。ありがとうございました。
子どもに寄り添い共感気持ちを酌むこと、くり返し技法などの指導を実践していきたいです。ありがとうございました。
日々の生徒指導で見直さなければならない点が見つかりました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
受講者に実際に体験させるなど、受講者を飽きさせない指導(講義)方法で、先生の言われた事が身体に染みるほどよく分かった。講義の中で「クラスのお荷物的な存在の女子だった」との表現があったが、担任(教師)は底辺の子どもに視点をあてるべきで、この担任教師(講師の先生の友人の妻)は教師失格だと思う。エリートは教師に向かないと思う。
生徒のトラブル解決時に是非進んでやってみたいと思う内容でした。ありがとうございました。

No.10 【いじめなどのもめごと問題への対応とその実際—ピア・メディエーション(仲間による調停)の導入に視点を

くり返し共感同調するという、平等に対応するという、実践していきたいと思います。前年度から深いいじめがある学年を受け持っています。周りの子たちを育てていけると改善できるのでしょうか。
研修内容に対して時間が短いように思いました。1日講座にしても良いと思います。内容としては大変興味深かったです。来年も様々な講座をお願いします。(免許法認定公開講座「技術」の継続公開も希望します。特に生物育成の授業は5月の土日ではなくGW開講・夏休み開講など時期を変えてほしいです。)
初めて聞く内容でしたが、日頃の自分の取組を振り返るきっかけとなりました。今後に生かしたいです。名札の裏に自省を促す5つの質問をさっそく書こうと思います。
大変興味深く受講しました。毎年受講しています。いつも楽しみにしています。新しいテーマ(講座)も入れてバージョンアップしているので楽しみです。ありがとうございます。
実際にどのように言って良いかを教えていただき、実際に使ってみようと思いました。もめごとが起こった時には、今日のことを思い出して実践していきたいです。パワーポイントのため前が暗かったので、ホワイトボードに書いてある文字が見にくかったです。長時間ありがとうございました。
以前、池島先生の研修を受けたことがあり、久しぶりにまた聴けて良かったです。日々の実践に活かしていきたいし、同僚にも伝授できたらと思いました。ありがとうございました。
先日中学英語二種免許の生徒指導の認定講習を受講しましたが、現在中学における生徒指導のほとんどがいじめ＝自殺問題であることが分かりました。いじめと特別支援教育の関わりも深く、個別の対応の大切さを感じました。ありがとうございました。
自省を促す応答①～⑤を大切にすること。判断を保留する。当事者同士で話し合わせることの大切さが良く分かりました。
いじめを受けた子どもの新聞記事が印象に残った。実際にエデュケーションするには時間が掛かる。待つことができるかなと思いました。

No.11 【思考力・表現力を育てる算数科授業づくり】

日々の業務の中では各教科、各単位について深く教材研究する時間的余裕がなく(今日は夏休みのほっとした気分の中)専門的に研究されている内容について学ぶ事はとても面白かったです。受講前に感じていたことも少しスッキリしたように感じます。定着のための振り返り、公教育でのいろいろな子のいる良さも分かり良かったです。
とても楽しかったです。ありがとうございました。「なるほど!」という発見がたくさんありました。「振り返り」やってみます。
加藤先生の教えてくださった振り返り(検索学習)にとっても興味を引かれ、2学期から取り入れたいと思いました。
今日はいろいろな発見があり、とても楽しかったです。帰って勉強しようと思いました。
お忙しい中ありがとうございました。
心地よく安心して受けられる話し方や内容で良かった。ただ、一つの単位についてなどではなく、算数全般について(導入・ノートの取り方)なども聞きたかった。
大変興味深いお話ありがとうございました。
振り返りの方法を初めて知ったので、2学期から実践で使ってみたいです。図を書かせるだけでなく、図の表現方法を広げていく指導をしていきたいと改めて感じました。
振り返りのさせ方が重要であることが印象的だった。乗法の「ユニットを作る」ことも今後指導に生かしていきたい。加藤先生の話がわかりやすく、時間が短く感じた。
算数においても振り返りが大切と言われてきたが、自分の中であまり定着しなかった。今回振り返り＝検索学習ということを知り、とても価値のあることだと感じました。2学期から早速実践したい。
とても楽しく聞かせていただきました。「振り返り」やってみようと思います。ありがとうございました。
算数の授業で大切にすることが分かりやすく教えてもらえて良かった。

No.11【思考力・表現力を育てる算数科授業づくり】

数学、算数の見方が色々分かった。充実して楽しかったです。ユニットで考える！が新しい発見でした。ありがとうございました。

先生のお話にとっても引きつけられました。また聞きたいと思いました。本当に勉強になりました。

実践を含めたお話で大変勉強になりました。振り返りについては今後しっかり考えたいと思うようになりました。

夏休み明けからやってみようと思うヒントがあった。指導者の笑顔の必要性を感じた。

日々の中で「振り返り」について悩んでいたが、今回受講して、改めて意味や役割を考えることができた。2学期からの授業に生かしたい。

振り返りの大切さを改めて感じました。ありがとうございました。

昨年、免許更新講座で加藤先生の講座を受けました。楽しく分かりやすく教えてくださり、為になりました。明日からの実践に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

すごく分かりやすく、明日からすぐに取り入れたいと思う講義内容でした。また加藤先生のお話が聞きたいし、先生のゼミで研究したいと思いました。ありがとうございました。

数をユニット化していること、振り返りのさせ方など参考になるものがありました。

図式化と数直線、振り返りの大切さを学び分かりやすかったです。

とても分かりやすく、面白かった。8年研でなくても受講できるなら来年も受けたい。

学級担任に戻った時に役に立ちそうでした。面白かったです。

No.12【子どもと学級をみる目を広げる】

自分が見えていた部分と意外だったことが分かり、また整理を仕切れない状態です。しかし、子供を多面的に理解することの大切さとコミュニケーションをとることの意義は改めて理解できました。ありがとうございました。

秋光先生の専門的で理論に基づいた講義を受けることができ、大変有意義な研修となりました。来年は中堅研ではありませんが、もう一度受講したいと思います。RCRTの結果を生かした学級経営に取り組みます！ありがとうございました。

改めて外に出て新しいことを知ることや気づくこと、人と出会ってお話を聞くことの大切さを実感し、改めて教員という仕事の難しさ責任と面白さを考えました。ありがとうございました。

自分のこれまでの“見方”を振り返ることができ、とても有意義な時間になりました。ありがとうございます。それを現場でどう活かすかが大切だと思っています。

No.13【楽しく学ぶ「グローバル＆国際理解教育」】

自分に何ができるかということを考えさせられました。

経験・体験をしてみたいと感じた。「百聞は一見に如かず」だと思った。

様々な面で好奇心がくすぐられ、意欲が増しました。充実した研修をありがとうございました。

とても面白かったです。学校で今回の内容を実践させていただこうと思います。「正解のない答え」が良かったです。

実際の授業等で使えるような教材や内容だったので、非常に分かりやすく自分自身の考え方も改めて考える良い機会となりました。

国際グローバル教育についてどのように行えばよいのか、あまりよくわかっていませんでしたが、とても勉強になりました。実践の場で活かしていきたいです。ありがとうございました。

ワークショップを通じて、自分で考え班で交流し、主体的に学ぶことができたのではと思います。講師の先生の体験を踏まえたお話はとても楽しく勉強になりました。

No.13【楽しく学ぶ「グローバル＆国際理解教育」】

具体的な体験談が多かったのも、イメージしやすかったのも、ワークがたくさんあったので、よく考えることができました。楠本先生の人柄もよく、とても聞きやすく楽しく受けることができました。
とても学ぶことのできた講座でした。ありがとうございました。土日などに開催されているこのような講座にもっと多くの教員が参加できるように学校現場のサポートの必要性(出張費や部活の削減など)を痛感しました。
グローバル教育の重要さがよく分かった。参加者も様々な地域から集まり多様な意見を聞くことができて刺激になった。講師の先生が学校現場で働いておられたので身近なお話で実践的な内容だったので参加して良かったです。
とても面白かったです。また楠本先生の講座を受けさせていただきたいです。いろいろなことにはっとさせられ考え直さないといけないこともたくさんありました。
1日に亘る講座でしたが講義でなくディスカッションやアイスブレーキング、先生の豊富な体験談や興味を引く教材などいろいろな工夫が満載でとても楽しみながら受講することができました。自分自身がもっと視野を広くもち勉強してそれを生徒に還元していかなければいけないと感じました。
大学生の時にこのような授業があったらと思いました。久しく国際教育から離れていますので、自分が持っている資料等を教材化したいと考えています。本日の講義はそれについて有意義なものでした。是非、来年度も受講したいです。ありがとうございました。

No.14【スポーツ科学の知見に基づく体育授業づくり】

最初の4つの質問に対して、自分が普段なんとなく授業をしていることに気づけました。スポーツ科学を少しでも学び、動きの理論的な部分を授業づくりに生かしていきたいです。
非常に分かりやすく、新たな知識を得ることが出来ました。ありがとうございました。
今までにない視点からの話だった。もっと他の教材(種目)の話も聞きたいと感じた。
とても分かりやすく納得出来る内容だった。これをどう授業に取り入れようか考えるのも楽しみだ。
大学まで走幅をしていた。おこし回転について知識があればもっと変わっていたのかなと思う。子どもの指導に活かしたい。
2学期からの授業・学級経営に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
今日の内容は、今までなんとなく行っていた授業や指導をしっかりと理論に基づいて作っていかないといいけないと強く思うことが出来ました。とても勉強になりました。
疾走速度を向上させることが、短期間で可能ということです。
速く走るための方法などがよく理解できた。実際に走り高飛びをやってみたくまりました。
どういう理屈で体の動きがどうなるのかがすごく分かった。陸上をやっていたのでより分かりやすかった。
時間が足りなくてスピードが速かったので、ノートをまとめられなかった。もう少し資料がほしかったです。
これまでの自身の指導を振り返るとともに、今後の授業改善に繋がりたいと思います。
非常に勉強になりました。楽しかったです。教材研究に生かします。このような講座を受ける機会を増やして学び、現場に伝えていきます。ありがとうございました。
普段の授業をなにげなくやっていたが、教材研究をもっとしないと苦手な生徒に教えるのは難しいと思いました。
子ども達に力をつけさせるには、理論を知ることが大切だと改めて感じた。
とても勉強になりました。ありがとうございました。原理を知ることとは、とても大切だと思いました。
自分の中の“感覚”で指導していたことを猛反省しました。子ども達の走りを速くする指導。高幅跳びの技術など勉強になりました。

No.15【わかる授業づくりのポイントを学ぼう ―生涯楽しく学び続ける教師であるために―】

たくさんのお土産をいただき、今後の自分の授業に生かせそうなものがたくさんあり、とても楽しい時間でした。
体験がたくさんあり楽しかった。これを教材化できるものはしっかり子どもたちに生かしていきたいと思います。
先生方が生き生きと教材を使って話をしてくださり、いくつになっても教師が楽しげに教材に向き合い示すことの大切さを再確認する機会となりました。なかなか今の学年では実践が難しい内容が多かったので、また今後生かせる機会があれば、実践していきたいと思います。
いろんな教材を準備してくださり、楽しく受講させていただきました。ばたばたと日々を過ごす中で、ゆとりや「実体験から学ぶ」ということを忘れがちな1学期だったので、2学期に1つでも今日持ち帰ったことを実践出来たらと思っています。
今日でたくさんのお土産をいただいた。学校でもすぐに使えるものが学べた。牛乳パックの笛はすぐに使いたい。
「学力の低い子どもの学力を付けてあげるのが学校の仕事だ」というお言葉にハッとさせられました。どうしても、あきらめてしまうところがあったが、いかに興味を持たせることが重要か実感出来ました。
今回たくさんのお土産のヒントになるものを提示していただいて、時間があっという間でした。体験を大切にすることという忙しくて忘れがちになりますが2学期やってみたいと思います。
今日は時間があっという間に過ぎてしまいました。それくらい楽しい研修でした。子ども達にもこういう授業をすることがきっと思い出に残るものになるんだろうなと思いました。
大変楽しかったです。国語・算数だけでなくワクワクドキドキ出来る教材の大切さを実感出来ました。次から次へと出てくる教材どれも子ども達に返していきたいと思います。ありがとうございました。
枠にとらわれず「楽しそう」ということをスタートすると良いんだなと思いました。やっぱり先生も楽しいと思えることが大切なんだと感じます。子どもに「やらせてみて学ぶ」ことを色々な教科で意識しようと思います。
生徒・児童に本物を用意して授業をすることの大切さを実感します。
とても楽しく受講出来た。内容も楽しく勉強不足の私でも取組ができた。2学期子ども達に見せたいと思うものがたくさんあった。
とても楽しかったです。たくさん準備していただきありがとうございます。教師も楽しみながら、準備は念入りにということを学びました。
みんなで和気藹々と学ぶ事が出来ました。楽しかったです。

No.16【やってみよう！楽しい理科の実験・実技 ―小学校の先生自身が楽しむ理科―】

3つの実験とも簡単なのにとっても楽しくて時間を忘れるほどでした。理科クラブもあるので、子ども達に紹介してみたいと思います。
自分だけでは思いつかなかったり、準備できなかったりするであろう実験をたくさんできたので、非常にためになりました。是非また実践してみたいです。どうもありがとうございました。
実際に自分でも体験できる実験がたくさんあったので、楽しんで研修を受講できました。ありがとうございました。
やってみたいと思うことがたくさんありました。数の準備は費用のこともあるので、出来そうなことからやってみます。ありがとうございました。
子どもたちにとって安全で興味がある教材ばかりで楽しかったです。
子どもの科学的な質問に対して、教師自身が興味を持って答えを考えたり、調べていく姿が大切だと感じました。この研修では、実践とともに様々な土産をいただけて、とても充実したものになりました。ありがとうございました。
目の利き目をはじめて知りました。
どれも楽しんで興味を引くものばかりだったので、子ども達と一緒にやってみたいと思います。ありがとうございました。
大変楽しい講座、ありがとうございました。

No.16【やってみよう！楽しい理科の実験・実技 ―小学校の先生自身が楽しむ理科―】

体験的に分かりやすく学べました。ありがとうございました。

楽しく良かった。

講師の先生が時間を掛けて準備してくださっていたのがありがたかったです。

No.17【イエナプラン教育(オランダ)を学ぶ】

以前からイエナプランに興味がありましたが、受講することで少し具体的に分かった気がします。子どもの学び自分自身の学びを今後も問い続けていきたいです。本日はありがとうございました。

初めて出会った人達とグループを組んで1つのテーマに対して熱中できる授業設定が素晴らしいと感じました。

日本の教育は教師主導である程度かたちを決めてしまっている。しかし自主性・主体性と言っているのが、おかしいと感じた。本当の自主性・主体性とは子どもの中から出てこないといけない。改めて今までの教育、これからの教育について考えることができた。

子どもの“好奇心”ということに衝撃を受けました。異年齢の子たちが当たり前のように教え合う学校・環境、伸び伸びとできて、不登校児もいないということに学ぶ事は多いです。

多くの方から話をしていただいたのが良かったです。今後も学んでいこうと思える内容でした。ありがとうございました。

制度上、予算上イエナプランの実施は難しいと思いましたが、主体性や考える力、コミュニケーション力を養う、良い学びだと思いました。必要な要素を取り入れていければと思います。

イエナプランという言葉は聞いたことのある程度だったが、具体的に知ることができて良かった。

若木先生の仰っていた答えがなくて良い、問いがあれば良いというのが印象的でした。

子どもの発想や好奇心を伸ばすことが大事だと改めて思いました。

ビジネスでも言われているところ、HowでなくてWhatやWhyを大事にするには、トヨタのなぜを5回繰り返すや問いを並べて優先順位をつけるなど、大人になってからでなく子どもの頃からやらせるようにということだと思いました。

日本の教育とはまたちがった教育を知ることができ、考え方が少し変わりました。今後の指導にも活かせると思いました。ありがとうございました。

日本の義務教育では、まず考えられない方法で、とても興味深かったです。子どもの好奇心が知識への第一歩であること教師が自己満足の教授をしてはいけないことなど自分を振り返るととても良い機会となりました。

全く何も知らず受講しましたが、大変有意義な時間でした。今、私がやっている日々の実践の中で、少しでも取り入れられることはないかなと考えながら過ごしていました。イエナプランをもう少し知りたいと思いました。

イエナプラン教育においてあまり知らなかったのですが、新学習指導要領に対応していくにあたって、とても必要なことなのではないかと感じました。視点を変える今までの型から(納まっていたところから)外れるというのは図工の教科的にとても必要なことなのでとても勉強になりました。

イエナプランという言葉は聞いたことがあっても、実際どのようなものか全く知らないまま来てしまったので、不安が大きかったですが、日本とは全く違うところを知り「そんな方法があったのかー」と思うことがたくさんありました。どこまで活かせるか分かりませんが、取り入れて見たいと思うものを見つけられました。

私たちが普段普通にしていることが、当たり前ではないと気づかされました。子ども達にとって何が良いのかももっと考えていかなければならないと思いました。

今回の研修講座で、初めてオランダのイエナプラン教育というものを知りました。今までの固定化された考えに自分自身問い直すきっかけとなりました。今日は「イエナプラン教育とは」と実践でしたが、もっともっとイエナプラン教育について知りたいと思いました。ありがとうございました。

イエナプランという言葉は聞いたことはあったが、詳しく知る機会はなかったのが、良い勉強となった。グループで考え単元計画を練るのは良かったが、少し時間が長すぎた。もう少し短く、その分先生方の話をもっと聞きたかった。

イエナプランの良さは少し理解できたように思います。ただこれを日本の公教育に活かすには、まだまだ難しいのかな、とも思いました。新指導要領になり、道徳も外国語も教科というしやりができて、学習内容が増え、人的・金銭的・配置の問題もあり…。でも、総合学習等で、こんな方法を取り入れて見たいと思いました。

No.17【イエナプラン教育(オランダ)を学ぶ】

イエナプランについては、先日TVでも取り上げられたほど、近年注目されている。日本の一斉指導と大きく異なっていたことを学びたかったので受講しました。午前中の講義内容のような内容をもっと系統的に教えていただきたかったです。オランダの教育とイエナプランによる学力レベル、他の学校(オランダ)との差、日本の学習指導要領のようなものについて教員養成機関についてなど。

イエナプランで子どもたちが主体的に取り組んでいたのが印象的でした。小学校の総合学習では話型といいますが型がないと発表がうまくできません。ブロックアワーは特支学級に似ていると思いました。「教師を頼らずに」というところは違いますが…。1人1人に合った学習を自分のペースでできるところが似ていると思いました。少し取り入れていけたらと思いました。

1回の講座では、この内容かと思います。もし今後研修があれば実際にイエナプランの学校の方のお話をスカイプで聞いたり、質問できるとより実感がもて、明日への教育活動に活かせるのではないのでしょうか。

今回この講座を受けるまではオランダの教育、イエナプラン教育についてほとんど無知でした。今回の話を聞いて、日本の教育の行き詰まり感、これから子ども達に本当に必要な力は何か改めて考えさせられました。とても面白かったです。ありがとうございました。

オランダの教育に興味があり、受講しました。日本の教育との違いに気づかされ自分の教育に対する枠組みを問い直すきっかけになりました。オランダの教育をそのまま取り入れることは環境面等含めて難しいところもありますが、考え方や概念等を取り入れた授業にチャレンジしていきたいです。本日はありがとうございました。

とても興味深いお話で一斉授業に疑問を感じていた今、タイミングが良かったです。このままでは日本の教育、本当にだめですね。現場の人間は気付きはじめている人が増えています。上の人が変わらないとどうしようもありません。とても素敵な内容でした。ありがとうございました。

本日はありがとうございました。イエナプラン教育については初めて耳にし学習したことだったので、実際、学級でどれほど、またどんな方法なら取り組んでいけるだろうかと考えながら受講させていただきました。

No.18【心理学から考えるいじめのない学級づくり】

いじめがないように未然に防止する内容の話は、とてもためになりました。2学期に活かしたいと思います。ありがとうございました。

分かりやすい研修内容でした。今後の学級経営に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

2学期から使えることが多いので、良かったです。アンケートは学校でも使ってみたいです。

データ分析によるもので、何気ない言葉がけが大切等説得力があったことが良かった。

講義もあり、グループワークもあり、あつという間の3時間でした。楽しかったです。

今回の研修で一番印象に残った言葉は、「意図が伝わる指導」。遠回しの表現であったり、一方的であっても伝わらず、自分の普段の指導を改めて考えさせられた。

話の内容がとても分かりやすく、資料も使えるようなものを紹介していただいて良かったです。

毎年自分の資質向上のために自主参加しています。少しずつ内容が変わっているのもあり、新たな気づきがあり楽しいです。

早速データを使おうと思います。

自分の学級経営を反省しました。(良い意味で)

No.19【教師としての成長・発達について考える―教職生活の中でマンネリズムやバーンアウトに陥らないために―

学校で悲しい出来事が起こり、それに対してそれぞれの職員がそれぞれに懸命に対処してきました。半年経ってもまだ続いています。そんな中自分自身に余裕がなくなりバーンアウトするかもと思いながらの受講でした。講義内容も皆さんとの意見交換も大変参考になりました。ありがとうございました。

今日は暑い中貴重な講義をありがとうございました。非常に参考になるお話ばかりで今後の教育活動に絶対生かせると思います。兵教大の主催研修はクオリティが高いのでいつも楽しいです。来年もよろしくお願いいたします。

教師としての在り方を見直すいいきっかけになりました。(過去バーンアウトした時の自分に当てはまることだらけでした。)

とても分かりやすくお話をいただけたので、これまでの実践を振り返りながら講義内容を整理することができました。ありがとうございました。

No.19【教師としての成長・発達について考える―教職生活の中でマンネリズムやバーンアウトに陥らないために―】

お忙しい中ありがとうございました。この様な機会を仲間にも広めたいと思いますし、学んだことを学校でも広めたいです。
研修の内容が深くしっかりしていたので、参加して良かった。
今回、今まで考えていなかったようなことをたくさんお聞きして「そういう考え方があったのか！」と発見でした。やはり、やりがいがあって好きでなった仕事なので、楽しんで続けていけるようやり方を探っていきます。
想像よりも熱っぽくお話をされる先生にビックリしました。とても楽しかったです。ありがとうございました。
時間はもう少し短くしてほしいです。集中力が持ちませんでした。ありがとうございました。
新井先生のお話を来年もまた聞きたいです。
教師のバーンアウトについて(原因等)興味があり、昨年度、自分なりに調べていました。本講座で詳しいデータに基づいて教えていただきまして、大変勉強になりました。ありがとうございました。中教審(答申)の変遷についてもよく分かりました。
授業改善をどのようにしていくか困ったので、ALACTモデルを参考に同僚を巻き込んで取り組んでみたい。何年経っても、年齢関係なくお互いに学び合える集団を形成したい。バーンアウトの現状とその構造を詳しく学べたのは、始めてだったが、興味深いものであった。知らなくて働くのと、学んだうえで働いていくのは、全く違う。今日の内容を同僚に伝える機会を持ちたい。

No.20【部活動の指導と運営】

自分の経験してきた、また指導してきた部活動とは生徒も保護者も状況も変わってきているのだと改めて感じた。
僕自身、本校吹奏楽部は「音楽を通じて部活動を学ぶ場所」と指導しており、「そうだな」という話が多く嬉しかったです。ありがとうございました。
子ども達の意識を引き上げることの大切さを再認識できました。陸上競技を卒業後も楽しめる生徒を育てます。ありがとうございました。
日々の経験だけで行っていることを学校全体で考えていけないといけないと思いました。
現在自分が抱えている部活動制度の疑問点は間違った考え方ではないということが確認出来た。非常に良かった。
今までの自分の部活動に対する考え方が変わりました。生徒が求める部活動経営に努めたいと思います。ありがとうございました。

No.21【教員のための分子生物学 ―演習を通して理解を深めよう―】

ファージとDNAのビーズ模型の作製とても参考になりました。ありがとうございました。
作業の一部に「覚えること」が含まれるので、それが目的にならず、気がつかぬ間に頭に入っている・・・を体験できました。ありがとうございました。
講座の内容の事前の案内文で想定していたより、演習が多く生徒の理解を深めさせるヒント・アイデアを得る事ができて、非常に有意義な時間だった。
ビーズを用いての作品づくりは童心に返ったようで、楽しむことができました。また大学時代(10年以上前)にPCRやシーケンスを行っていたので、懐かしさもありました。現在の最先端であっても、10年前とあまり変化はないのでしょうか。本日はありがとうございました。
高校の教師がメインの対象ということだったのですが、中学校担当の私が参加してもとても分かりやすく、おもしろく工夫がされていると感じました。
非常に分かりやすく生徒にも実践させてみようと思える内容で大変勉強になりました。ありがとうございました。
演習が多くて面白かったです。高校生も関心をもってDNAやファージの構造について学べると思います。ただ専門の生物は授業時間がパンパンなので、興味をもってもらいたい対象にさせてあげられるかなと思いました。

No.21【教員のための分子生物学 ―演習を通して理解を深めよう―】

演習が多かったことで、興味を持って取り組めた。高校生でも具体物があることで理解が深まるのなら、小学生は尚のことだと改めて重要性を感じました。また、高校の生物の内容の深さに驚いた。中学生の学習内容までしか知らなかったのが…。とても良い機会となりました。

大変親切に指導していただいて感謝している。

先生も補助で入っていただいた学生の方々と懇切丁寧に教えていただき、普段我々が生徒にこのように丁寧にしているかというと、とてもそうではない。

No.22【教師のためのコミュニケーション論 ―子どもの声を受け止めるということ―】

今回のワークショップの方法は、授業の進め方の参考になりました。ありがとうございます。

お忙しい中、開講してくださり、ありがとうございます。

自分の行動が相手にどんな印象を与えていたか、考えさせられました。とてもいい研修になりました。ありがとうございました。

先生が柔和な雰囲気でもリラックスして研修に参加することができました。講座自体の雰囲気もとても良かったです。みなさん初めてお会いしたとは思えないくらいでした。お2人の講師の先生のおかげだと思います。ありがとうございました。

講師の先生がとても大らかに丁寧に指導・ご講話してくださり、温かい気持ちで学ぶ事ができました。

少人数での講座なので集中して積極的に取り組むことができました。わかりやすく丁寧な講義をありがとうございました。

少人数でみっちり学習できたのが良かったです。他の方とのグループワークもとても勉強になりました。楽しかったです。

No.23【陶芸美術館で考える美術の表現と鑑賞】

今回作品を作る時間があり、とても夢中になって取り組めた。子どもの気持ちが改めてよく分かった。

立杭焼の成り立ちや歴史、技法のことがよく分かりました。また実物の陶器を使った鑑賞と実技と鑑賞の一体化について学ぶことができました。今後の指導や授業づくりに生かしたと思います。ありがとうございました。

使用しない焼き物での作品づくりは楽しかった。なぜ売り物にならないのか不思議でしたが、もっと作品づくりに時間がほしかったです。

分かりやすい説明、実演見学、体験、施設見学…と多岐にわたり学ぶ事が出来良き機会をいただきました。ありがとうございました。

知らなかったことをたくさん知ることができました。兵庫の歴史にもふれることができ、兵庫の素敵を見つけられました。ありがとうございました。

陶芸の楽しさが分かる盛りだくさんの内容でした。色々なプログラムがあり楽しかったです。

今日は丹波焼きについて、詳しく知ることが出来ました。美術館で開催しているプログラムは興味深いものが多く、私生活でも体験してみたいと思いました。

ろくろを回しているところを見たり、自分で作品を作ったりと体験も多く良かったです。

何度も陶芸美術館へ来ているが、学芸員からレクチャーを受け丹波焼の歴史や技法を知ると、実際美術館で実物を見た時によく分かった。

昨年は創作の時間がなかったと聞いていたので、今年は実習ができてとても良かったです。施設の使い方の例を知れて、とてもきれいな施設なので、時間があれば陶の郷とセットで利用したいと思いました。様々なご準備ありがとうございました。

内容が盛りだくさんで時間が足りなかった。作品づくり、鑑賞の時間がもっと余裕があると良かった。ありがとうございました。

実際にろくろを回して作る様子が見られて良かったです。2日間などで実際に作れたら楽しそうだなと思いました。ありがとうございました。

No.23【陶芸美術館で考える美術の表現と鑑賞】

丹波焼の1ピースを鑑賞することがとても良かったです。想像力がかき立てられました。ありがとうございました。

丹波焼についてよく分かった。

普段、鑑賞をしないので、先生の話は興味深かったです。



平成30年度兵庫教育大学研修講座に関するアンケート

このアンケートは、今後本学が実施する研修講座等の企画・運営の参考資料を得ることを目的としています。

調査は無記名でご記入いただき、結果は全て統計的にまとめますので、個人が特定されることはありません。アンケートの意義をおくみとりいただき、ありのままにご記入ください。

選択式の回答、該当箇所のマーク を塗り潰してご回答ください。

: 空白マーク : 正しいぬりつぶし : 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

(1) 所属校の種別

☐ 小学校

☐ 中学校

☐ 高等学校

☐ 幼稚園

☐ 特別支援学校

☐ その他（ ）

(2) 教職経験年数

☐ 1 年目

☐ 2 年目～5 年目

☐ 6 年目～15 年目

☐ 16 年目以上

(3) この研修講座をどのようにして知りましたか。（主なものを3つ以内で選択）

☐ 教育委員会からの案内

☐ 勤務校からの案内

☐ 本学教職員等からの情報

☐ 兵庫教育大学ホームページ

☐ 案内リーフレット

☐ その他（ ）

(4) 本学の研修講座を受講されたのは、今回を含め何回目ですか。 （ ）回目

(5) この研修講座を受講しようと思われた動機は何ですか。（主なものを3つ以内で選択）

☐ 大学が主催する研修講座に興味があったから

☐ 教育委員会が準備されている研修講座にはない内容があったから

☐ 中堅教諭等資質向上研修等に活用できるから

☐ スクール・パートナーシップ事業で担当講師の講義を聞いたことがあったから

☐ 表題や内容（テーマ）に興味があったから

☐ 知人・友人に誘われたから

☐ 校（園）長又は教頭に受講を勧められたから

☐ その他（ ）



悪い



良い

(6) 研修講座を受講されて、次の点について当てはまるものを選択してください。

		どれか1つを選択して下さい。			
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1	研修講座の内容は、受講の動機にあっている。	☐	☐	☐	☐
2	研修講座全体の開講時間は適切である。	☐	☐	☐	☐
3	研修講座の開設時期は適切である。	☐	☐	☐	☐
4	研修講座の内容はよく理解できた。	☐	☐	☐	☐
5	自分の理解度又は技術向上の程度を確認する機会になった。	☐	☐	☐	☐
6	講師の講義や指導は、興味をひくものであった。	☐	☐	☐	☐
7	用意された教材は分かりやすかった。	☐	☐	☐	☐
8	実際の教育実践に活かそうだ。(ヒントが得られた。)	☐	☐	☐	☐
9	研修講座全体の評価としては、期待通りであった。	☐	☐	☐	☐

(7) 今後、どのような研修講座が開講されることを希望しますか。(主なものを1つ選択)

- ☐ 学校運営・経営 ☐ 学級運営・経営 ☐ 生徒指導
☐ 教育評価 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 教科内容・教科指導
☐ 道徳・人権 ☐ 特別支援 ☐ ICT
☐ 保護者対応 ☐ その他 ()

(8) 上記で選択した領域について、希望する内容をなるべく具体的にお書きください。

(9) 今回の研修講座を受講されて、印象に残ったこと、感じたこと、研修講座全般について、お気づきの点、ご要望などをご自由にお書きください。

☆ご協力ありがとうございました☆

【本件に関する問い合わせ】

国立大学法人兵庫教育大学 社会連携センター
 〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
 電話0795-44-2409, 2412

2018年度 教育委員会等との連携によるその他の教員研修の実施

① 県立高等学校中堅教諭等資質向上研修（生徒指導）の実施

〔兵庫県教育委員会との連携〕

（2018年度県立高等学校中堅教諭等資質向上研修（生徒指導）実施状況）

② 兵庫教育大学スクール・パートナーシップ事業の実施

（2018年度兵庫教育大学スクール・パートナーシップ事業実施状況）

2018年度 県立高等学校中堅教諭等資質向上研修（生徒指導）実施状況

【兵庫教育大学会場】

期 間：2018年9月10日（月）、11日（火）

場 所：兵庫教育大学共通講義棟 204

月日	内 容	講 師	受講者数
9/10 （月）	講義・演習 「児童期・青年期の心理発達と教育相談」 概要 青年期の心理発達の特徴を整理したうえで、生徒への教育相談について実習を通して理解する。実際に受講者間で短時間のカウンセリング体験を行う。	兵庫教育大学大学院 教授 松本 剛	11人
9/11 （火）	講義・演習 「教師のためのストレスマネジメント」 概要 リラクゼーションを体験ベースに、ストレスと付き合い上手になるためのストレス理解と自身のストレスへの気づきに関するレクチャーと演習を行う。	兵庫教育大学大学院 教授 藤原 忠雄	18人

※ 受付開始 10:00 講義開始 10:30 講義終了 16:00

平成30年度スクール・パートナーシップ事業申請状況等一覧

現在 H31.2.20

校種等	校内研修会	研修会	会議	研究会	特別授業	PTA関係	サマーセミナー	合計
学 校 教 育 関 係	小 学 校	5	6	2				13
	中 学 校			1				1
	高 等 学 校	2			3			5
	幼 稚 園		2					2
	特別支援学校		1					1
	教育委員会		5	3				8
	そ の 他 ※ 1			1				1
生涯学習関係	市町村役場 (公民館等)							
	高齢者大学							
その他							1	1
合 計	7	14	4	3	3		1	32

〔備考〕 (1)「校内研修会」は学校内の教員を対象としたもの、「研修会」は当該学校以外の教員も参加対象とするものを示す。
 (2)「特別授業」は園児・児童、生徒を対象とした講義、講演会を表す。
 (3)「サマーセミナー」は園児・児童、生徒を対象とした夏期休業中のイベントを示す。
 (4)※1は、学校、行政関係組織以外の組織(自主的な研究会、実行委員会等)を示す。

兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト実施要項

平成19年3月19日
学 長 裁 定

(設置)

第1 現職教員の研修を支援するために兵庫教育大学が行う研修事業のプログラムを開発、実施することを目的として、「兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト」(以下「プロジェクト」という。)を組織する。

(研究、開発事項)

第2 プロジェクトにおいては、次の事項について研究、開発を行う。

- (1) 現職教員研修の教育内容・方法に関すること。
- (2) 現職教員研修における教育委員会・学校との連携協力に関すること。
- (3) 現職教員研修の運営体制に関すること。
- (4) 担当教員の研修(FD)に関すること。
- (5) その他現職教員研修のプログラム開発に関すること。

(構成)

第3 プロジェクトを実施するための組織として「研修プログラムチーム」(以下「チーム」という。)を置き、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 大学教員のうちから、学長が指名した者
- (2) 教育委員会及び教育センター等の関係者のうちから、学長が委嘱した者
- (3) 公私立学校等関係者のうちから、学長が委嘱した者
- (4) 学校長会等関係者のうちから、学長が委嘱した者
- (5) 本学大学院学校教育研究科修士生のうちから、学長が委嘱した者
- (6) その他、学長が必要と認めた者

2 前項第1号から第5号までに掲げる構成員の任期は、2年とし、同項第6号に掲げる構成員の任期は、指名に際し学長が別に定める。ただし、欠員を生じた場合の後任の構成員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による構成員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第4 チームに委員長及び副委員長を置き、委員長は学長が指名し、副委員長は委員の互選によって定める。

2 委員長はチーム会議を招集し、これを主宰する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長の職務を代行する。

(専門部会)

第5 チームに、専門的な事項を調査研究するため専門部会を置くことができる。

(委員以外の者の出席)

第6 チーム会議は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第7 プロジェクトに関する事務は、総務部広報・社会連携課が処理する。

(雑則)

第8 この要項に定めるもののほか、プロジェクトの運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この要項施行後、最初に指名又は委嘱された構成員の任期は、第3の2項の規定にかかわらず、平成21年3月31日までとする。

附 則 (平成25年6月19日)

この要項は、平成25年6月19日から施行する。

兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト研修プログラムチーム構成員名簿

H30.11.1

区 分	所 属 ・ 職 名 等	氏 名	備 考
大 学 関 係 者	人間発達教育専攻 教授	秋光 恵子	
	特別支援教育専攻 教授	井澤 信三	
	教科教育実践開発専攻 教授	吉田 達弘	
	教科教育実践開発専攻 准教授	笠原 恵	
	教科教育実践開発専攻 准教授	掛川 淳一	副委員長
	教育実践高度化専攻 教授	浅野 良一	
	教育実践高度化専攻 准教授	安藤 福光	
	教育実践高度化専攻 教授	森山 潤	
	教育実践高度化専攻 准教授	加藤 久恵	委員長
教 育 委 員 会, 教育センター等関係者	兵庫県教育委員会 高校教育課副課長	桂 敦子	
	兵庫県立教育研修所 主任指導主事兼企画調査課長	村中 利章	
	神戸市総合教育センター 研修係長	大藪二三雄	
	姫路市立総合教育センター 教育研修課 研修企画・ICT係長	柳井 克文	
	尼崎市立教育総合センター 教職員の学び支援課 係長	相方 伸二	
	西宮市教育委員会学校教育部 教育研修課長	乾 公人	
公私立学校等関係者	兵庫教育文化研究所 事務局員	西山 修	
	関西学院中学部 校長 (兵庫県私学総連合会)	安田 栄三	
学校長会等関係者	宍粟市立都多小学校長 (兵庫県小学校長会)	藤井 司郎	
	神戸市立本山南中学校長 (兵庫県中学校長会)	近谷 雅彦	
	兵庫県立北摂三田高等学校 (兵庫県立学校長協会)	中村 晶平	
	立花愛の園幼稚園長 (社団法人兵庫県私立幼稚園協会)	濱名 浩	
大学院修了生関係者	兵庫県立小野高等学校長	菅野 恭介	

任期：(学内委員) 平成29年4月1日～平成31年3月31日

(学外委員) 平成29年6月1日～平成31年3月31日

現職教員研修支援プログラム開発に関する調査研究報告書

2019年3月発行

編集 兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト
研修プログラムチーム

発行 兵庫教育大学広報・社会連携課社会連携チーム
〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
